

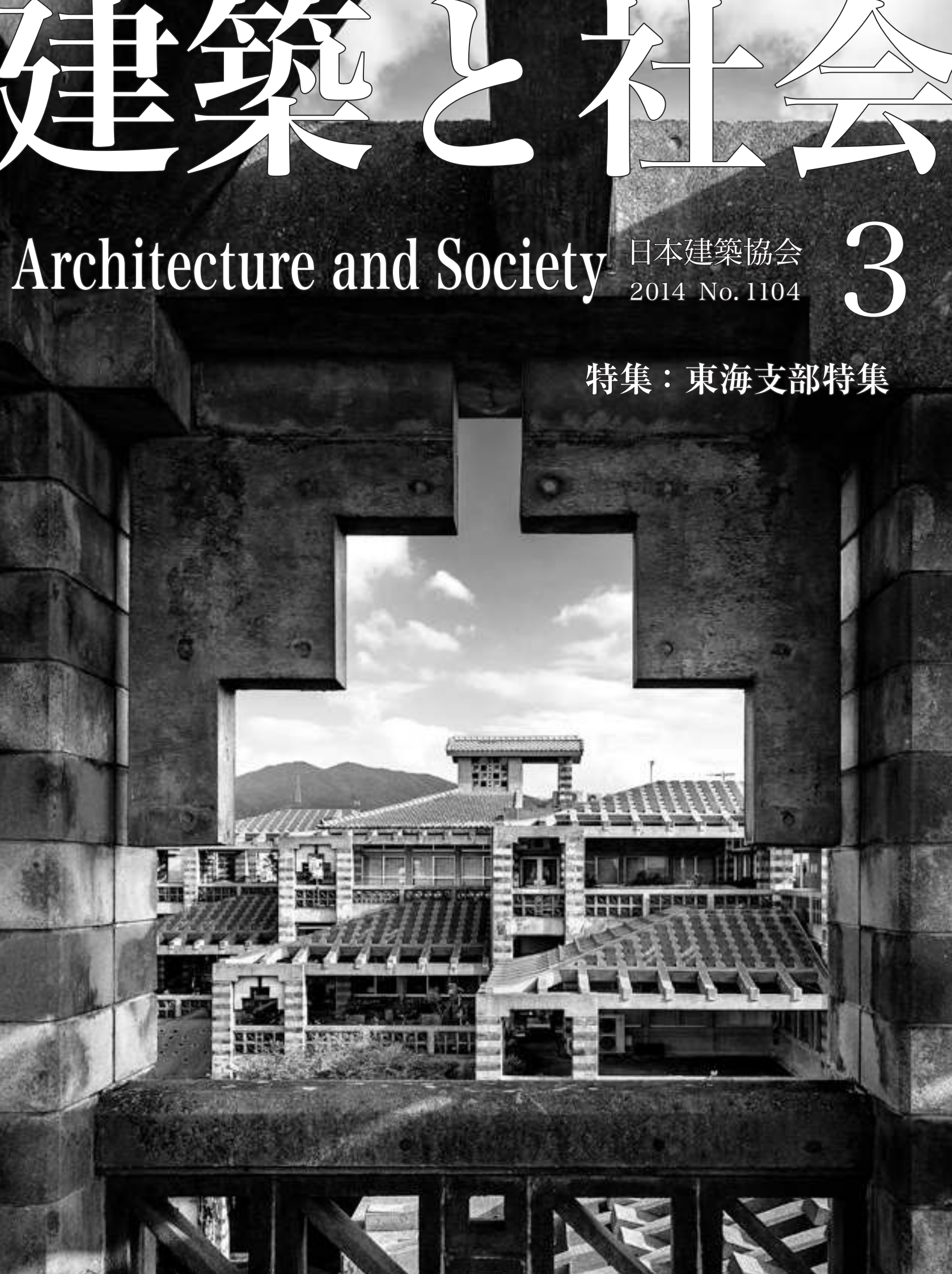
建築と社会

Architecture and Society

日本建築協会
2014 No.1104

3

特集：東海支部特集



お知らせ

2014年4月1日より消費税が5パーセントから8パーセントに引き上げられる事ともない、販売価格の変更と表記方法の変更をお知らせします。

	2014年3月31日まで	2014年4月1日以降
「建築と社会」	1,200円（税込）	本体1,143円＋税
民間（旧四会）連合協定 工事請負契約約款	1セット700円（税込）	1セット本体670円＋税

第13回 読者と選ぶ 「建築と社会」賞のための アンケート回答募集

2013年1～12月号
「建築と社会」誌から

「建築と社会」という本誌の趣旨にふさわしい社会性・環境などに配慮した有意義な建築作品や建築にかかわる論文・記事などを顕彰する。選考にあたっては、会員の声を反映し、広く開かれた賞とする。

■選考対象

「建築と社会」2013年1～12月号に掲載された作品、及び個別の論文・記事を対象とする。

・「作品作風頁」欄、及び「本会支部作品頁及びそれに準ずる作品頁」掲載の建築作品

・「特集頁」掲載の個々の論文・記事
—特集頁全体は選考対象としない—

・「シリーズ頁」の論文・記事（gallery、法令コーナー、構造の頁、設備の頁、再読関西近代建築、関西の建築界／群像、新建材の頁、素材最前線、REPORT頁、Member's Fourumほか）

■賞の部門

作品部門／1～4点

論文・記事の部門／1～4点

■会員読者による第一次選考
会員読者から投票された「作品」及び「論文・記事」に、編集委員会の意見を加味して各部門10点程度選出。これを第二次選考対象とする。

■選考委員会による第二次選考
第一次選考を通過した選考対象を、選考委員会を選出。（該当者に写真、図面、設計主旨などの説明資料を求めることがある）

■第11回選考委員（予定）

田中直人（島根大学大学院総合理工学研究科建築・生産設計工学領域 特任教授／選考委員長）

阿部浩和（大阪大学大学院工学研究科地球総合・建築工学 教授）

高砂正弘（和歌山大学システム工学部システム学科 教授）

谷口与史也（大阪市立大学大学院工学研究科 教授）

■発表と表彰

作品部門は建築主、設計者、施工者の中の代表者に、論文・記事部門は執筆者（複数の場合は代表者）に、賞状（記念楯）を贈呈する。表彰式は6月中旬を予定。入賞発表は「建築と社会」2014年7 or 8月号予定。

■投票締め切り

2014年3月7日（金）

■送付先

（一社）日本建築協会

FAX 06-6946-6984

e-mail : kyoukai@aaj.or.jp

〒540-6591

大阪市中央区大手前1-7-31

OMMビル7階

*2013年の誌面詳細は、2013年12月号p53に掲載している総目録または日本建築協会HPをご覧ください。

なお、日本建築協会ホームページ<http://www.aaj.or.jp>からも、ご投票いただけます。

「建築と社会」賞 読者アンケート

送付先

（一社）日本建築協会
FAX06-6946-6984
e-mail : kyoukai@
aaj.or.jp

「建築と社会」2013年1～12月号で、よいと思われた作品・論文・記事（特集の場合は個々の論文・記事を対象とする）、その他本誌に対するご意見を記入の上、e-mailまたはFAXで、（一社）日本建築協会へご投票ください。

（2013年〇〇月号掲載の作品、論文・記事名及び同執筆者名を明記してください）

(1) お名前

(2) 勤務先または連絡先

(3) とくによいと思われた作品とその理由

(4) とくによいと思われた記事とその理由

(5) 本誌についてのご意見や、取り上げてほしい内容などがありましたら、ご記入ください。

若き創造者たちへ

「第61回青年技術者顕彰」へのおさそい

日本建築協会では、昭和29年から「青年技術者」を表彰してきました。これは、35才以下の優秀な設計者、技術者、研究者等を対象とするもので、若手建築技術者のいわば登龍門として定着しています。

今年も、青年技術者選考委員会を設けて、これまでどおり、計画・設計・構造・設備・施工およびその他の分野について青年技術者を表彰します。

選考は有職者による選考委員会が行い、選出された方は、本会総会での表彰、「建築と社会」への掲載等を予定しています。建築界の様々な分野で活躍されている皆様の積極的なご応募をお待ちしています。

応募提出規定

1. 応募できる人は満35歳（平成26年3月28日現在）以下の青年技術者であって、本会個人会員に限る。

2. 原則として、すいせん者を通じて応募する。

すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司か上長とする。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。

3. 応募分野は特定しない（建築に関するあらゆる分野を対象とする）。応募者は、たとえば計画、一般設計、住宅・インテリア設計、構造、設備、施工、技術開発、行政、情報、コーディネート等の分野にあって、なしとげたすぐれた実績について、すいせんをうけ、下記の所要資料を1部、本会に期日までに提出する。

4. 提出された資料は「青年技術者選考委員会」において選考する。

5. 「青年技術者選考委員会」において選出された青年技術者は本会総会において表彰し、「第61回青年技術者特集号」（平成26年7月号）に掲載する。

6. 提出資料

■すいせん用紙

本会事務局で発行、またはホームページからダウンロードして下さい。

■略歴

本人の氏名、生年月日、最終学歴、業歴、作品経歴など

■選考資料

資料は、④を含めてA3判用紙5枚以内にまとめる。

① 設計の場合——鮮明な写真、配置図および主要平面図、概要、設計要旨、その他設計内容を説明するに十分な資料

② 計画、構造、設備、施工の場合（それぞれの設計計画なども含む）——上に準じた資料

③ 上記以外の分野の場合——それぞれの分野にふさわしい資料

④ 上記①～③のいずれかの資料の実績において、応募者本人が関与した程度、役割、立場等を明らかにし、資料中、本人が特に貢献した部分、または力量が活かされたと思われる部分の詳細な説明、考え方および将来的展望などについて、2000字以内に平易簡明にまとめたもの（必要に応じ、図・表を用いて差し支えない）。ただし応募者本人の執筆に限る。このコンセプトは、応募者の考え方を知る上で大変重要と考えているので、十分配慮されたい。

7. 提出期限 平成26年3月28日（金）

8. 提出先 日本建築協会「青年技術者選考委員会」

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31

大阪マーチャндаイズ・マートビル7階

電話 06-6946-6981 FAX. 06-6946-6984

Email : h-katayama@aaj.or.jp

9. 提出方法 郵送（当日消印有効）または持参

10. 青年技術者選考委員会（予定）

委員長 米井 寛／（株）東畑建築事務所取締役大阪事務所長

委員 吉岡 聡司／大阪大学大学院キャンパスデザイン室准教授

佐々木 栄／（株）昭和設計執行役員建築部門建築設計部統括

八木 康行／スタジオエイトアーキテクト代表

高梨雄二郎／（株）竹中工務店開発計画本部長（西日本担当）

町澤真一郎／清水建設（株）関西事業本部設備設計部グループ長

山浦 晋弘／（株）安井建築設計事務所構造部長

辻 聖晃／京都大学大学院工学研究科建築学専攻准教授

高山 真／（株）日建設設備設計部門設備設計部長

山辻 直樹／大成建設（株）関西支店建築部購買管理室課長

阪井 聡／（株）大林組大阪本店建築事業部生産技術部部長

グランフロント大阪 ナレッジキャピタル 見学会

この見学会は、建築CPD情報提供
制度認定プログラムです。

(公社)大阪府建築士会 (2単位)

(公社)日本建築家協会 (2単位)

●建築概要

所在地 大阪市北区大深町

建築主 NTT都市開発 大林組
オリックス不動産 関電
不動産 新日鉄興和不動
産 積水ハウス 竹中工
務店 東京建物 日本土
地建物 阪急電鉄 三井
住友信託銀行 三菱地所
日建設計+三菱地所設計
+NTTファシリティーズ

(株)大林組、(株)竹中工務店

敷地面積 47,917.94㎡

建築面積 4,575.02㎡

延べ面積 567,927.07㎡

(全街区合計)

構造 S造、SRC造、RC造
建物用途 オフィス、商業、劇場、
集会場、ホテル、住宅、
駐車場

「関西最後の一等地」といわれた大阪
駅北側貨物ヤード24haのうち、先行開
発区域7haが竣工・開業しました。「水
と緑とにぎわいの系」をメインテー
マとして「街歩きが楽しいまちをつく
る」ことを目指したものです。全体
は「群像としての存在感とアイデン
ティティ」を重視した意匠とし、低層
部は街区を跨いで調和と連続感のある
ものに。また高層部は先進性を表現し
たガラスファサードのツインオフィス
タワーと、「住まう」「寛ぐ」という場
にふさわしく自然の風合いある素材を
活かしたホテルタワー・マンションタ
ワーが建ち並ぶものです。そして中心
にはさまざまなイベントが催される大
アトリウム空間『ナレッジプラザ』を
配しています。低層部屋上はガーデン
テラスとし、外構には豊かな緑と水景
を配し、内外問わず随所に居心地の好
いスペースを設えました。

■回遊が楽しめるシークエンス

内部には、大阪駅と直結する低層部を
縦断し南北に貫くコンコース『創造の
みち』をつくっています。これを主軸
として各所の縦動線や外周歩道、屋上
庭園などを結びつけ、回遊性に富んだ

刺激的な空間とシークエンスを構成し
ました。原寸の断面模型を見ているよ
うな感覚で「空間を見て、楽しんでい
ただけるもの」を実現しています。

■ナレッジキャピタルという挑戦

グランフロントの中核『ナレッジキャ
ピタル』。ラボやショールーム、サロ
ン、シアター、コンベンションなどが
複合・連携しながらプラザを取り巻
いています。訪れる人々はここで新し
い友人と出会い、新しい発見に出会
い、最先端の技術や情感豊かな芸術
に出会います。イベント、展示、パ
フォーマンス、レクチャー、シンポジ
ウム、ディスカッション、パーティー
などさまざまなスタイルで、世代を超
えた「人と人とながらつながる場所」を求
めてつくられたのがこのナレッジキャ
ピタルです。とりわけ新しい試みとし
て展開し、開業以来大変な人気を誇る
『ナレッジサロン』を中心に、『ナレ
ッジキャピタル』が掲げる高い目標と志
や素顔に触れ、『グランフロント大阪』
というまちとともに、これからどのよ
うに発展していこうとするのかをご覧
いただければ幸いです。

(岡田耕治/日建設計)

日時 2014年4月23日(水)

13:30~15:30

講師 岡田耕治氏(株)日建設計)ほか

集合 現地/JR大阪駅、阪急梅田
駅等下車

定員 30名・先着順

参加費 会員1,500円、一般2,500円

学生1,000円

申込方法 FAXまたはEメールで、

①催し名「グランフロント」

②氏名

③会員・一般の種別

(会員は、個人・団体を明記)

④職場名または学校名

⑤参加証送付先

⑥連絡先電話番号

⑦CPDを申請される方は、申

請先の団体名とIDを明記

申込先 (一社)日本建築協会編集事業課

TEL.06-6946-6981 FAX.06-6946-6984

E-mail: jigyoka@aaj.or.jp



出版委員会企画

第37回(プロのノウハウ)講座

『設計・監理・施工者のための 建築品質トラブル予防 のツボ』出版記念講演

この講座は、建築CPD情報提供
制度認定プログラムです。(2単位)

(公社)大阪府建築士会

(公社)日本建築家協会



企画 (一社)日本建築協会

著者 仲本尚志・馬渡勝昭

発行所 (株)学芸出版社

発行日 2013年12月25日

体裁 A5版・248頁

定価 2,800円+税

日時 2014年3月18日(火)

18:00~20:00

会場 TOTOテクニカルセンター大阪

*大阪市中央区久太郎町3-6-8

御堂筋ダイワビル2階

※地下鉄 本町駅12番出口、

南へ徒歩4分。ビル北側の

エントランスよりエレベ

ーターでお越しください。

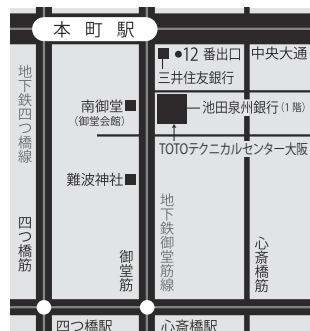
講師 仲本尚志・馬渡勝昭

定員 60名

受講料 会員1,000円、一般1,500円

学生1,000円

テキスト 『設計・監理・施工者のための
建築品質トラブル予防のツ
ボ』を使用します。当日、定価
2,940円(税込)を特価2,600
円(税込)でご提供します。



申込み 下記を記載の上メールかFAX
にてお申込みください。

①催し名、②氏名(ふりがな)

③所属、④会員・一般の別

⑤受講票郵送先住所、〒

⑥電話番号、⑦E-mailアドレス、

⑧CPDを申請される方は申

請先団体名と番号。

申込先 (一社)日本建築協会

TEL 06-6946-6981/FAX 06-6946-6984

E-mail: koukoku@aaj.or.jp (担当 藤巻)

講師がゼネコン設計部に在籍した経験
をもとに、設計者、監理者、施工者の
三者が共通して知っておかなければなら
ない建築工事の基本知識を作法とし
て、また、建築品質についてありがち
な問題を部位別に100テーマに厳選し
建築品質トラブルの予防と予知という
視点で解説をします。設計仕様を決め
る際、施工図をまとめる際、あるいは、
現場で施工する際、本書に示され
た100の「ツボ」はトラブル予防に良
く効くと思います。

設計、監理、施工に関わる若手技術
者にとって品質確保の良い教材とな
ります。是非ご参加ください。

(出版委員会委員長・清水建設株式会社
関西事業本部 建築技術部長 西 博康)

■著者プロフィール■

仲本尚志 (なかもと たかし)

1947年大分県生まれ。1970年大阪工業大
学工学部建築学科卒業。同年(株)竹中工務
店入社、設計業務に従事。2012年退職。
2000年3月、神戸大学大学院経営学研究
科修士課程科目履修・社会人MBAコー
ス。2007年3月、放送大学大学院文化科
学研究科修士課程修了。日本建築協会出
版委員。

著書『建築工事の祭式』(共著/学芸出
版社)

馬渡勝昭 (まわたり かつあき)

1947年宮崎県生まれ。1970年武蔵工業大
学建築学科卒業。同年(株)竹中工務店入
社、設計業務に従事。梅田スカイビル実
施設計等を担当。2011年退職。2012年1
月、一級建築士事務所 Atelier・YOU設立。
2009年より、京都女子大学非常勤講師。
日本建築協会会員。



仲本尚志



馬渡勝昭

建築と社会

Architecture and Society

3 | NO.1104 | 2014

日本建築協会

■特集予告

- 4月号／第20回 会員作品“私の空間作法”
- 5月号／オフィスビル設備の変遷とこれから（仮）

今月の表紙

名護市庁舎

設計：象設計集団
竣工：1981年
所在地：沖縄県名護市



テラスやスロープなど主室を巡る空間は、沖縄らしいボーラスな設えで、作り込まれていない様々なものが置かれている。定番の灰皿は勿論、植木鉢、水盤、乾いた風、手作りの置物、モップ、将棋盤…。ピンクの退色と共に使われ方も落ち着いたと聞くと、未だに痕跡の質と量は半端でない。裏と表、中と外の議論を飛び越え、自然体のまま色褪せない時間が流れていて、ここに留まり、移ろう人々の様子を思い浮かべてしまう。

（東畑建築事務所／大西広朗）

撮影（表紙）

東出尚子（東出清彦写真事務所）

デザイン・撮影（目次）

嘉村知紀（東出清彦写真事務所）

J o u r n a l o f t h e A r c h i t e c t u r a l A s s o c i a t i o n o f J a p a n

特集●東海支部特集

■東海支部会員作品2014

東栄町立東栄小学校	10
設楽町役場（図書館・子どもセンター）	12
東海市立大堀保育園 東海市南部子育て支援センター	14
特別養護老人ホーム 松寿苑	16
浜松信用金庫きらりタウン支店	17
三重銀行白子支店	18
知多信用金庫豊浜支店	20
蒲郡信用金庫牟呂支店	22
トヨタ自動車 多治見サービスセンター研修棟	23
TANIXビル	24
天然温泉 竜泉寺の湯 横濱鶴ヶ峰店	26
イオンタウン名西	28
あらた名古屋支店江南センター	29
オークマ本社工場 Dream Site 1（ドリームサイト ワン）	30
	32

■Tokai Sketch Book

■静岡の建築文化にみる遺伝子

遠州の7人の賢人●杉野 丞	35
舞台芸術の振興～自治体初の文化政策的取り組み～	
●静岡県文化・観光部文化芸術局文化政策課	40
富士山世界文化遺産—その建築的特徴—●建部恭宣	44
ブルーノ・タウトと熱海●中井正勝	47
支部主催建築見学会を回想して ブルーノ・タウトの遺産	
—その建築的特徴—●福田泰造	49

■東海の建築：架構

浮遊するスロープと24m円形空間	
岐阜県立希望が丘学園及び岐阜希望が丘特別支援学校	51
「自然と向き合い音楽を学ぶ」環境をつくる構造計画	
愛知県立芸術大学音楽学部校舎	52
「超・低ライズ」で自然と調和するキールトラス架構・膜構造屋根	
やわらぎ 森のスタジアム	53
土俵と観客席を覆う大架構	
神宮相撲場上屋	54

小特集●ABENO REBORN

作品	阿倍野歩道橋	56
	天王寺MIO	58
	あべのハルカス	60
本文	阿倍野地区のまちづくり●佐藤道彦	62
	一日が、街が、アクティビティが、阿倍野からはじまる	
	“はじまりの「a」”●久保岳・三木正行・坪村健二・森彩	64
	天王寺MIOのリニューアル「商業施設のメディアファサード活用・巨大ウォールアートの誕生」●守安聡司・設楽貞樹・安達哲仁	66
	あべのハルカス 高さ300m。超高層複合ビルの企画経緯と都市再生貢献によるまちの活性化●橋岡佳令	68

会告	お知らせ。読者とえらぶ「建築と社会」賞のためのアンケート回答募集。若き創造者たちへ「第61回青年技術者顕彰」へのおさそい。グランフロント大阪ナレッジキャピタル 見学会。出版委員会企画第37回＜プロのノウハウ＞講座『設計・監理・施工者のための建築品質トラブル防止のツボ』出版記念講演。	1
作品作風	ジオタワー天六 BRANCH神戸学園都市	4 6
gallery	ブランディングの向こうに或るもの●亀井 晋・木戸康仁	8
法令コーナー	昇降機の地震対策について●山本聡志	70
構造の頁	フラットバーとガラスブロックによる透明なハイブリッド構造体●愛野将児	71
関西の建築界群像	菅正太郎●藤原芳寿	72
再読	大阪瓦斯ビルディング●平井直樹・石田潤一郎	73
関西近代建築		
information	第9回「関西建築家新人賞」募集。あべのハルカス美術館開館記念特別展 東大寺。飛翔する表現—新収蔵品を中心に—。クレラー＝ミュラー美術館所蔵作品を中心に 印象派を超えて—点描の画家たち ゴッホ、スーラからモンドリアンまで。春季特別展 江戸の異国万華鏡—更紗・びいどろ・阿蘭陀。光の賛歌 印象派展 バリ、セーヌ、ノルマンディの水辺をたどる旅	77
月間の動き	平成26年1月	79

所在地——大阪市北区天神橋7丁目
敷地面積——4,455㎡
建築面積——2,624㎡
延床面積——49,906㎡
構造規模——RC造、地上：44階、地下：1階
工期——2010年3月～2013年8月
最寄駅——地下鉄堺筋線・谷町線 阪急千里線
天神橋筋6丁目駅
撮影——SS大阪 津田祐之



建築主 阪急不動産株式会社
阪急電鉄株式会社
設計・監理 大林組大阪本店一級建築士事務所
施工 大林組

ジオタワー天六

大阪の代表的な商業地である天神橋商店街の北部に建つ、住戸数400戸の分譲マンションである。

地下鉄2駅、私鉄1駅に近接し、かつての駅ターミナルビル旧阪急天六駅舎（設計：渡辺節、大正15年竣工）跡地で、その面影を残す駅直結タワーマンションとして再生した。

コンセプトは「近代建築の記憶」の継承と「都市居住」の融合である。

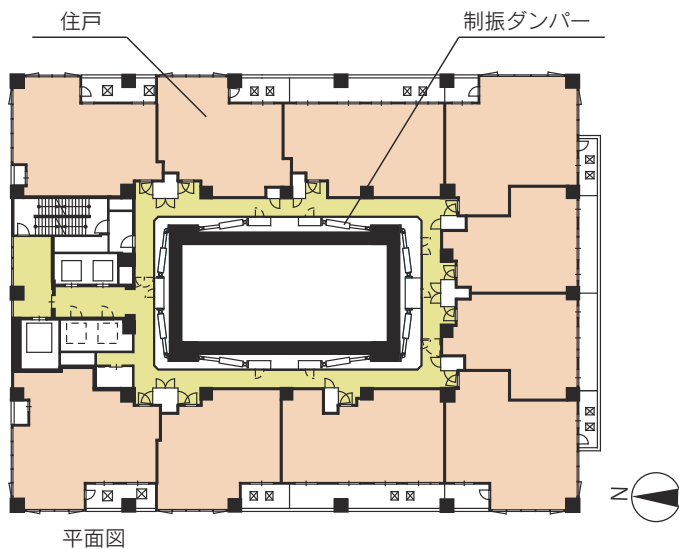
低層店舗棟は、物販店舗・銀行・交番・地下鉄直結階段を内包し、快適な都心生活をサポート。旧阪急天六駅舎ビルのデザイン要素（3連アーチ、スリット等）を取り入れ、かつて親しまれた外観を再構成。歴史を感じられる外観とした。

高層住戸棟は一つの建物の中に独立した構造体を制振装置で連結するデュアルフレームシステム（D.F.S.）を導入。制振性能を高めるとともに、柱梁にかかる力を抑制し、住戸内の柱、梁が少ない広々とした住空間を創出している。柱梁によるグリッドデザインとし、都市のランドマークにふさわしい端正な外観とした。

外構計画では、近隣商店街・住民との合意形成により、天神橋筋商店街と敷地内公開空地を一体舗装し、オープンモールを形成して、にぎわいのある商業空間の創出に寄与した。

商業の街に住環境を導入することにより、「来る人」、「住もう人」、「通過する人」のコミュニティを誘発し、新しい街の文化が形成されることを願っている。

（東 一彦／大林組）





北西側外観



北東側外観夕景

建築主 大和リース株式会社
設計・監理 昭和設計
施工 鴻池組

BRANCH神戸学園都市

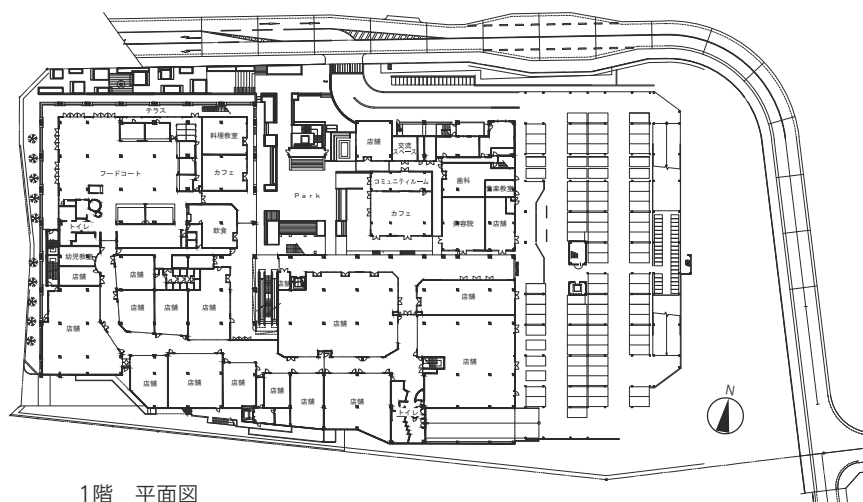
遠くに明石海峡大橋を臨み、かつては里山の自然が存在した小高い丘陵地は、今や住宅地へと変貌している。自然を再生すべく「森」をテーマとしたBRANCH神戸学園都市は、この地域に新しいコミュニティの形成と社会や時代の変化に左右されない、地域のまちづくりの核として共存・共生を目指して息長く支持されるコミュニティ型商業施設として、魅力的な施設の実現を基本コンセプトとして計画された。

商業施設は、人が楽しむための空間デザインと商環境づくりに加え、建築的な魅力は欠かすことはできない。ランドマークとなる西側外観は、単調で長大な壁や箱とせず、柱・梁、庇、壁の構成に存在感を与え、深みのある変化に富んだデザインとすることで、地域にランドマークとしての存在感を与えている。

変化とゆとりをもたせた北側のプロムナード（森の小路）は、里山を彷彿する絶滅危惧種や自生種の草花により、四季折々の変化を享受できる階段状の広場空間として計画し、中庭（森の広場）へのアプローチ空間を演出している。商業施設の1階のグランドフロアは、「森」をデザインコンセプトとしたモール（森のショッピングモール）と、フードコート（森のダイニング）や森のトイレから構成されている。また1階の中庭（森の広場）は、求心性を追求した施設として位置付け、クライミングウォール・ステージ・カフェ等に面しながら、内部空間と外部空間をつなぎながら祝祭的空間を実現し、イベントやコミュニティの中心として活用される。

（井ノ口 誠／昭和設計）

所在地——兵庫県神戸市垂水区小東山手2丁目
敷地面積——18,156.56㎡
建築面積——11,497.29㎡
延床面積——25,819.74㎡
構造規模——S造、地上2階、地下1階
工期——2012年12月～2013年11月
最寄駅——神戸市営地下鉄 学園都市駅
撮影——ナカサンドパートナーズ 河野政人
K'sPhotoWorks 野口兼史・鍋田政宏（*）



1階 平面図



東側外観



内部廊下（*）



中庭（森の広場）



フードコート（*）



ブランディングの 向こうに或るもの

設計

亀井 晋
木戸 康仁

亀井 晋（かめい すすむ）

1969年 大阪府生まれ
1991年 安井建築設計事務所
2000年～ H&K建築事務所

木戸 康仁（きど やすひと）

1981年 兵庫県生まれ
2005年 石橋清志建築設計事務所
2011年～ H&K建築事務所

自然豊かで夕日美しい北海道の道東の地・釧路。

1993年に、この地に開業した釧路全日空ホテルは、2013年8月にANAクラウンプラザホテル釧路へとリブランドを行い、生まれ変わりました。

リブランドを行う上で大切にすることは、時代のニーズにあった機能に更新することと、イメージを一新すること。加えて、そこに住まうような居心地の良さを感じられる空間とすることでした。

今回のプロジェクトを通して、トレンドホテルのブランディングはトレンドレジデンスの延長線上にあると気付かされました。

我々が得意としてきたレジデンスデザインスキルを、今回は「住まう」ホテルデザインへ。そして今後はホテルトレンドも付加し、メディカルや他の分野にも、ブランディングをイメージしながら、ラグジュアリーな空間デザインの提案を進めていきたいと考えています。



東海支部会員作品2014

東栄町立東栄小学校

設楽町役場（図書館・子どもセンター）

東海市立大堀保育園 東海市南部子育て支援センター

特別養護老人ホーム 松寿苑

浜松信用金庫さくらタウン支店

三重銀行白子支店

知多信用金庫豊浜支店

蒲郡信用金庫牟呂支店

トヨタ自動車 多治見サービスセンター研修棟

TANIXビル

天然温泉 竜泉寺の湯 横濱鶴ヶ峰店

イオンタウン名西

あらた名古屋支店江南センター

オークマ本社工場 Dream Site 1（ドリームサイト ワン）

「建築と社会」東海特集特別編集委員会

委員長：福田泰造

特集記事担当委員：松本壮一郎、河田克博、今津芳清

作品作風担当委員：土井敬三、今井 亨

委員（順不同）：松元親司、篠原佳則、後藤利秋、中村哲士、芳山明久、本梅 誠

富田昌志、加藤武範、今井祥子、西澤太良、塩田哲也、野呂和弘

杉澤和男、寺本英一、酒井賢治



東栄町立東栄小学校

建築主 東栄町
 設計監理 伊藤建築設計事務所
 施工 管理棟・教室棟：三河・村雲特定建設工事共同企業体
 (三河建設工業・村雲工務店JV)
 屋内運動場棟：松井・田中特定建設工事共同企業体
 (松井建拓・田中組JV)
 運動場整備・外構・関連附帯：田中組

所在地——愛知県北設楽郡東栄町本郷上桜平28番地1
 敷地面積——11,373.27㎡
 建築面積——3,137.81㎡
 延床面積——2,866.56㎡
 構造規模——W造、一部RC造、S造、地上1階
 工期——2012年8月～2013年10月
 最寄駅——JR飯田線 東栄駅
 撮影——アーキフォトKATO



全景（左より 管理棟、教室棟、屋内運動場棟）



校舎外観

東栄小学校は町内の小学校が1校に統合され、統合とともに新校舎の建設が熱望され、地元の木材を活用したぬくもりのある木造新校舎の計画が立ち上がった。

新校舎は平屋建てとし、子供にやさしく利用しやすい平面計画、自然エネルギーを利用した快適な室内環境の校舎とした。長時間児童が利用する普通教室は自然採光、自然通風を確保して室内環境を向上させ、山間部の厳しい寒さに対応するため土壌蓄熱型の床暖房設備を設置し、空気汚染が少なく夜間電力を有効に利用した経済的な設備設計とした。また、環境教育材料としての利用も考慮した発電量表示パネル付の太陽光発電設備や風力発電設備を設置した。

木材は構造材、仕上材共に町産材を使用した。構造材は長スパン・大空間に対応させるため、大断面集成材とした。木造部の防火規定を緩和するため、渡り廊下・昇降口を一部RC造耐火建築物として木造部を分棟化し、防火上その他の建築物として扱う事で燃え代設計を行わずに経済的な部材断面を用いた設計とした。

(澤村喜久夫・高橋英明／伊藤建築設計事務所)



普通教室内観



屋内運動場内観



設楽町役場（図書館・子どもセンター）

建築主 設楽町
 設計監理 伊藤建築設計事務所
 施工 吉川・太平特定建設工事共同企業体
 施工協力 揖斐川工業（構造木工事）
 トーエネック（設備工事）

所在地——愛知県北設楽郡設楽町田口字辻前14番地
 敷地面積——7,400.41㎡
 建築面積——3,231.12㎡
 延床面積——2,917.64㎡
 構造規模——W造、一部S造、地上1階、一部地上2階
 工期——2012年6月～2013年10月
 最寄駅——豊鉄バス 大田口駅
 撮影——エスエス名古屋



キャノピー



全景



役場棟：ロビー・受付カウンター



議場・図書館棟：議場（多目的ホール）



子どもセンター：プレイルーム

本プロジェクトは、実施設計プロポーザルにおいて、屋根架構のみが木造であった当初の基本設計に対して、全ての柱、梁などの構造部材に地元産木材を使用する提案や、町民のふれあいを創出する分棟配置案、及び自然エネルギーの利用などの環境配慮への取り組みが評価され選定された。

役場棟と議場・図書館棟は執務室、議場、図書館などの大空間を確保するため、軸組は大断面集成材（ヒノキ材）による二方向ラーメン構造とした。子どもセンターではトラスによる架構とし、集成材（スギ材）に加え地元産の製材も用いた。

役場の機能面では、町民サービスをワンフロアに集約することでわかりやすい施設とし、その他の施設も平屋建ての段差のないユニバーサルデザインとした。

環境配慮への取り組みとしては、役場棟執務室の暖房熱源として木製チップボイラー、役場棟執務室ではタスク照明、図書館と子どもセンターに土壌蓄熱式床暖房、太陽光発電（20kW）及び外部の歩行空間の舗装には木質系舗装材を採用した。その他にも、自然光・自然通風といった自然エネルギーを利用する計画とした。

（澤村喜久夫・大河内直哉／
伊藤建築設計事務所）



全景

東海市立大堀保育園 東海市南部子育て支援センター

建築主 東海市
 設計監理 伊藤建築設計事務所
 施工 建築工事：徳倉建設
 電気設備工事：菊本電気工事
 給排水衛生設備工事：東福
 空調設備工事：三和テクノ
 外構工事：シンキ・コーポレーション

施工協力 型枠工事：丸茂建設
 内装工事：HRC内装
 造作・木製建具・家具工事：末永製作所
 可動間仕切・ブラインド工事：ジャパンインテリアシステム

所在地——愛知県東海市加木屋町東大堀28番地の34
 敷地面積——4,965.97㎡
 建築面積——1,221.59㎡
 延床面積——2,063.28㎡
 構造規模——RC造、地上2階
 工期——2012年6月～2013年12月
 最寄駅——名古屋鉄道河和線 南加木屋駅
 撮影——エスエス名古屋



北東面：南部子育て支援センター



光庭



2階：4歳児保育室

大堀保育園は東海市南部に位置する定員180名の保育園である。既設園舎の老朽化に伴い、近隣の民間開発による住宅地の一区画に移転新築となった。敷地は緑豊かな小高い丘の上にあり、周囲には戸建住宅が並ぶ閑静な場所である。

外観は柱梁のフレームをコンクリート打放し仕上とし、手摺・軒天井には人工木ルーバーを用いて周辺環境にあった落ち着いた感じのあるシンプルなデザインとした。建物配置は、園舎を敷地中央とし、北側住宅に対する日影・音の問題に配慮するとともに、園庭を南側として日照を確保した。北側には十分な駐車スペースと送迎用車路を設け、歩車道分離の安全な送迎が出来る計画としている。また保育園正門は一ヶ所とし、訪問者がわかりやすい配置とした。

園舎の中央には光庭を設け、ハイサイドライトと合わせて建物内部に自然通風・自然採光を取り込んだ。保育室は全て南に面し、内装を木質化してあたたかみのある空間とした。伸び伸び活動できるプレイルーム・階段下に設けたデン・窓から調理の様子が見えるステージ・おうち型ベンチ等を廊下を介して連続的に設け、園児の興味をひき、様々な活動を誘発する保育環境とした。

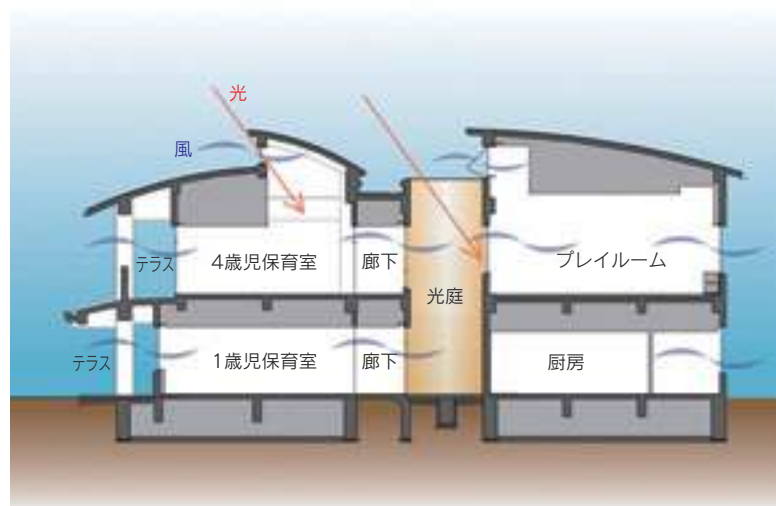
2階東側には南部子育て支援センターを併設し、未就園の子どもが安心して遊べるスペースを設け、子育て中の親子が気軽に集い、仲間づくりを通して子育てに関する相談や情報交換を行なう拠点としている。

建物の耐震安全性能はⅡ類（重要度係数1.25）とし、災害時に避難可能箇所として機能する施設となっている。また屋上に太陽光パネル（5kW）を設置し省エネルギー化を図り、屋上緑化・壁面緑化・駐車場緑化を行ない室内外の熱負荷を低減し、環境に配慮した保育園としている。

（上西真哉／伊藤建築設計事務所）



配置図・1階平面図



断面イメージ図



1階：多目的コーナー・デン



1階：ステージ



2階：おうち型ベンチ



2階：プレイルーム



2階：子育て支援センター



特別養護老人ホーム 松寿苑

建 築 主 社会福祉法人 松寿会
 設計・監理 東畑建築事務所名古屋事務所
 施 工 前田建設工業・前田産業JV

所 在 地——福井県三方上中郡若狭町井ノ口32-6-1
 敷地面積——9,865.82㎡
 建築面積——2,698.28㎡
 延床面積——4,623.57㎡
 構造規模——RC造、地上2階
 工 期——2011年1月～2012年11月
 最 寄 駅——JR上中駅
 撮 影——エスエス名古屋

本物件は若狭町のJR上中駅前に位置した特別養護老人ホームの移転改築計画である。

最新の福祉・介護サービスを提供出来るよう10人を一つのユニットとするユニットケアシステムを取り入れ、また、お年寄りにとって住み慣れた空間であることを最大のテーマとした。

施設内容は10人単位6ユニットの個室60室に、4人用多床室（一部2人部屋）30人に加え、90人収容の特別養護老人ホームと30人収容の通所デイサービスである。

終の棲家とはいえ、長い年月暮らしてきた日本の風土の中で、安心して暮らせる「住み慣れた住空間」を空間づくりの基本としており、快適な日常生活を過ごせるように各ユニットの共同生活室は中庭からの採光により、家庭のリビングのように明るく落ち着いた雰囲気とし、木質材料を多用するなど、温かみのある色彩計画とした。

（小柳英治・吉原 宏／東畑建築事務所）





浜松信用金庫きらりタウン支店

浜松市北部のニュータウンきらりタウン浜北に建つ浜松信用金庫の支店。浜松信用金庫としては初めての試みとなる女性スタッフのみで運営を行う店舗であり、やさしい印象をもち、インパクトのある建物が求められた。

浜松市は遠州灘や浜名湖の美しい「うみ」を有し、その「波」は市章や浜松信用金庫のロゴマークにも用いられている。また浜松市は楽器産業の盛んな街でもあり「音」＝「波」は浜松市民のアイデンティティの一部ともなっている。

そこで波形にてやさしく包み込むデザインをテーマとし、街のランドマークとなるような建物を計画した。波形＝サインカーブを前面道路に対して斜め方向に平行移動して形づくった屋根は見る位置によって常に表情を変え、あたかも波が動いているように見える。この屋根形状は効率的に太陽光発電・雨水収集・自然換気を行えるように計画してある他に、天井高の変化がプランニングとも関連づいている。

また、この店舗は少人数で運営することが前提となっており、安全に仕事ができるように周囲から見通しのよい建物とした。スタッフの人数に合わせカウンターを極力コンパクト化しロビーを最大限広くした。この開放的で広いロビーには給茶コーナーやセミナールーム・キッズコーナーを設け営業時間外も地域の方が利用できるようにしている。シームレスに内外に連続する天井材には地場産材の天竜杉を用い、地域密着型の親しみやすい店舗を実現した。

(葛原定次、塩田哲也、山口智三、眞庭綾／日建設計)

所在地——静岡県浜松市浜北区染地台
敷地面積——1,420.01㎡
建築面積——442.83㎡
延床面積——523.46㎡
構造規模——RC造一部S造 地上2階
工期——2013年2月～2013年10月
最寄駅——遠州鉄道鉄道線 遠州小松駅
撮影——鈴木文人／フォワードストローク

建築主 浜松信用金庫
設計・監理 日建設計
施工 木内建設



所在地——三重県鈴鹿市南江島町299
敷地面積——1,251.10㎡
建築面積——452.14㎡
延床面積——654.12㎡
構造規模——S造、地上2階
工期——2013年6月～2013年12月
最寄駅——近畿日本鉄道名古屋線 白子駅
撮影——加納フォト



三重銀行白子支店

建 築 主 三重銀行
設計監理 伊藤建築設計事務所
施 工 大和ハウス工業 四日市支店（建築躯体工事）
イケダアクト（建築内装工事、衛生工事）
施工協力 釜屋硝子建材（硝子工事）、高橋サッシ工業（金属工事）
中部高圧コンクリート（杭工事）、ノザワ商事（組積工事）
ミヤムラ（屋根工事・金属建具工事）

三重銀行白子支店は、近畿日本鉄道名古屋線白子駅西側に面したテナントビルに入居していたが、ビル自体の老朽化と駐車場の不便さからテナント契約の契約期間終了を機に移転新築することになった。

新店舗は、現店舗前の道路を少し北に進んだ角地に建てられた。白子駅からは若干遠くなったが、鈴鹿市は車と自転車の利用客が非常に多いため、敷地内に駐車場を設けて駐車スペースを22台分確保し、さらに周囲三方の道路全てからアプローチを可能とすることで利便性を高めた。

設計段階においては、今後支店を新築していく際の「モデル店舗」のうちの1つとして位置付けて計画された。1階ロビーは天井高を3mとし、東西方向の奥行きを十分に確保することで、お客様がゆったりとくつろぐことのできる広々とした空間とした。また、2階の会議室をセミナー等で利用客に開放するため、1つの階段を行員と利用客の兼用とする要望があり、2階への動線計画が設計での論点となった。最終的には階段をATMコーナー横に設けて大扉で仕切ること、普段は行員用の動線として利用し、大扉を開けた際には利用客がすぐに2階へ上がることができ、使い勝手が良い動線計画を実現した。

外観は三重銀行本店のイメージを継承して、縦方向のカーテンウォールと花崗石張りが交互に連続する立面を基調としている。東面と南面でパターンを変えることで、面によって異なった印象を作り出している。

屋上には太陽光発電パネル（8.6kW）を設置し、ATMコーナーに設けたモニターにより発電量を常に確認することができる。その他にもスカイライトチューブを設置して、太陽光を多目的トイレまで取り込むことで、環境に配慮した店舗であることを強調している。

店舗の照明は全てLED照明を採用している。また、前面道路はランタンの形状をした街路灯が特徴的で別名「ランタン通り」と呼ばれており、道路の夜景に配慮して照明の計画を行った。夜には、アッパーライトでやさしく照らされた入口の独立柱と共に、2面が外部に面した風除室が光のキューブとして浮かび上がって見える。夜の外観にも重視することで、昼夜を問わず周囲との調和のとれた店舗となっている。

（伊藤新一・石橋洋二郎／伊藤建築設計事務所）



配置図



2階 会議室



1階 ATMコーナー



1階 ロビー



外観 夜景 南東面



外観 北東面

知多信用金庫豊浜支店

建 築 主 知多信用金庫
設計監理 伊藤建築設計事務所
施 工 七番組

旧店舗の老朽化による建替えに伴い、周辺地区の母店としての機能を充実させて建設された。

敷地は伊勢湾に面する豊浜港に近く、大地震時には標高10mの津波の襲来が予想される場所である。周辺には高台への避難に時間を要する住民がいると予想され、地域貢献の為に津波避難ビルの機能を付加した。

建物は1階2階を支店、3階を地域の方が利用できる集会所とした。非常時には3階と屋上の計350㎡を津波避難場所として提供し、南知多町と350人程度収容する津波避難ビルとして協定を結んだ。

構造は津波襲来時の漂流物の衝突等を考慮して鉄筋コンクリート造とし、1階部分は津波の衝突時に外壁の一部を破壊させる事で、建物への衝撃を軽減させる形式とした。

環境負荷低減対策として来客ロビー・営業室はLED照明を採用し、保水性舗装・透水性アスファルト舗装・外構緑化等を行った。

(冨田昌志・高橋英明／伊藤建築設計事務所)



所 在 地——愛知県知多郡南知多町
敷地面積——1,382.35㎡
建築面積—— 457.29㎡
延床面積——1,140.53㎡
構造規模——RC造、地上3階、搭屋1階
工 期——2012年7月～2013年9月
最 寄 駅——名古屋鉄道河和線 河和駅
町営コミュニティバス 初神口停留所
撮 影——センターフォト



1階 来客ロビー



外観 西側



3階 集会所（津波避難場所）



屋上 津波避難場所



外観（全景）

蒲郡信用金庫牟呂支店

建 築 主 蒲郡信用金庫
設計・監理 大林組名古屋支店一級建築士事務所
施 工 大林組名古屋支店

所 在 地——愛知県豊橋市東脇2丁目16番15
敷地面積——881.23㎡
建築面積——390.69㎡
延べ面積——651.50㎡
構 造——S造、地上2階
工 期——2013年1月～2013年12月
最 寄 駅——JR東海道線 豊橋駅
撮 影——エスエス名古屋

蒲郡信用金庫牟呂支店は、JR豊橋駅より延びる主要幹線道路に面し地域密着型の金融機関として長年親しまれてきたが、近年の利用者増加に伴い、今回既存店舗からの建て替えを行うこととなった。

本建物は、周辺地域の地理的・環境的特徴を丁寧に読み取りながらも、金融機関としての高い機能性を有する建物となることを目指して設計を行った。

外観は、風雨や夏の強い日差しから利用者を守る大きな庇、建物に重厚感を持たせる外装のタイル仕上げ、外部の視線を遮り外観のアクセントともなる垂直ルーバーの3要素を基本として構成した。また、特徴的な外観を持ちつつも、圧迫感を軽減し、地域に溶け込む建物となることを意図して、大通りに面した南側は建物2階部分をセットバックさせた。

BCP配慮として周辺地域の過去の浸水被害状況を考慮し、1階床レベルを周辺地盤面より高く設定しているため、軒下空間全体にスロープを設けることでレベル差を解消するとともに入りやすいアプローチとした。

また太陽光発電パネルの設置やLED照明の採用等、環境にも配慮している。

内部はロビーと営業室を無柱にすると共に、主要な開口部をフルハイトサッシとして外部スロープと視覚的一体感を生み、利用しやすく、開放的で、おおらかな空間を実現させた。さらに、ロビーの仕上げは温かみのある木調とすることで、利用者が親しみやすい建物となるように工夫した。

（山田匠／大林組）



内観（ロビー・営業室）



東側スロープ



トヨタ自動車 多治見サービスセンター研修棟

建 築 主 トヨタ自動車株式会社
設計・監理 大林組
施 工 大林組

所 在 地 岐阜県多治見市山吹町 1 丁目 1 番 1
敷地面積 187,157.55㎡
建築面積 4,531.51㎡
延床面積 17,604.66㎡
構造規模 S造、地上 4 階
工 期 2012年10月～2013年 6 月
最 寄 駅 JR中央線 多治見駅
撮 影 センターフォト

多治見サービスセンターは、トヨタ自動車の国内外の販売店サービススタッフの人材育成や、車両メンテナンス・修理技術の研究・開発を目的として多治見市に建設された新規拠点である。研修棟はこのセンターの中心となる施設で、整備士の教育や技能コンテスト開催を想定した約2,500㎡の実習場のほか、事務室・講堂・食堂で構成される。外装はトヨタ自動車の建物において実績の多いガルバリウム角波鋼板と、横連窓・縦スリットの組み合わせとして、シンプル・スリムな企業イメージを表象させている。各種センサーによる照明制御・中間期の外気冷房によるCO₂排出の削減や、空調熱源のガス化による電力の平準化など、環境配慮にも努めた。内装には東濃地域の特産品であるタイルを使用したレリーフを用いたほか、昼間は暑く夜は冷える気候を活用したナイトバージ換気運転を行うなど、計画地の特性を活かした計画としている。

(洲脇規男・植田久／大林組)



レセプション



実習場



講堂

TANIXビル

建 築 主 谷口石油株式会社
設計・監理 竹中工務店
施 工 竹中工務店・大宗建設共同企業体

1. 災害時においても可能な限りパッシブに成り立つオフィス空間であること
2. コミュニケーションを促すワークプレイスとして今日的な価値があること
3. 環境に対する取り組みを企業の顔として、映し込むファサードであること

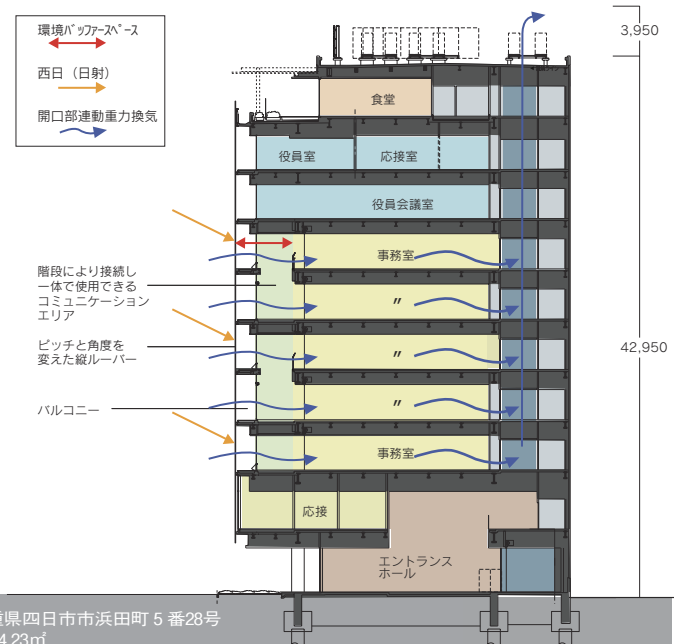
- 環境負荷を濾過する — 多層フィルターとしての縁側状空間
- 風を取り込む — 開口部連動重力換気システム
- ワークプレイスの価値 — 快適性・コミュニケーション・地域性
- 複合的なBCP対策 — パッシブ技術・災害用井戸・高置受水槽他

地方都市における世界的電装メーカーの本社が入居するビル。海に近い本社工場から、本社機能のみを移転をすることになった。

駅前ロータリーに面する利便性の高い場所だが、敷地長辺が西を向くため、日射と鉄道高架からの外乱環境の制御が求められ、その仕組み自体が企業の顔を現すエンジニアリングデザインとした。

執務エリア西面に縁側状のスペースを配し、その外に「LOW-Eガラス・サッシ」＋「多目的な外部バルコニー」＋「角度の異なる縦型ルーバー」を層状に設置することで、外乱を濾過するフィルター状のバッファースペースを生み出し、機械に頼らない新しい快適性の実現を目指した。更に重力自然換気システムや居住域空調などの省エネ技術を付加し、吹抜と階段を加えワークプレイスとして新たな価値を創出した。

(長谷川寛・上河内浩・石黒紘介／竹中工務店)



所在地 三重県四日市市浜田町 5 番28号
敷地面積 1,074.23㎡
建築面積 816.61㎡
延床面積 6,632.47㎡
構造規模 S、10F
工期 2012年 4 月～2013年 3 月
最寄駅 近鉄四日市駅
撮影 吉村行雄、SS名古屋

断面図 1:600

西面メインファサード：環境装置が企業の顔として駅前空間に浮かぶ

縁側状の空間構成のコミュニケーションエリア

鈴鹿山脈を一望する10階食堂テラス

1階エントランスホール



2〜7階までを吹抜け+フロア内階段で断面的に一体化した西面バッファースペース



外観



休憩ホール

天然温泉 竜泉寺の湯 横濱鶴ヶ峰店

建 築 主 オークランド観光開発株式会社
設計・監理 福田泰造建築事務所
施 工 大成建設 横浜支店
トコス（岩盤浴工事）
暖王通商
（岩盤浴・露天浴場通路含む床暖房設備工事）

天然温泉竜泉寺の湯はオークランド観光開発株式会社（本社 春日井市）が全国展開する日帰り温泉施設で、関東では茅ヶ崎店に次ぎ二店目となる。敷地は横浜市北東部の旭区白根 8 丁目で2007年に再開業事業が完了した相模鉄道鶴ヶ峰駅から北に 1 km 程度に位置する。この地域は1950年代から大規模団地の開発がなされ横浜市の主要な生活拠点として位置づけられてきた。

平面プランは「竜泉寺の湯」の他店同様、公衆浴場のルーツである東大寺の大湯屋を基本としている。付帯施設として岩塩房や汗蒸幕^{ハンジュンマク}を中心にした複数の岩盤浴を取り入れた構成で、床面積は日帰り温浴施設としては日本でも屈指の規模を誇り、近く（上白根）の日本最大級規模の動物園ズーラシア（1994年開園）と共に広域に商圈が広がることが期待できる。地下2000mから供給される天然温泉はナトリウム塩化物泉（泉温約42℃）で湯量は豊富である。建物は他店（竜泉寺の湯）同様、2mの水平底の上に切り妻屋根を載せ開口部とエントランス部分を堅格子、外壁を金属サイジングの下見板張り風とした和を意識した演出でシリーズ化を図っている。又、エントランスホール、受付及び座敷休憩コーナー周りは置屋根を活かした吹抜け空間で化粧梁により小屋裏を演出している。開店以降、土・日・祝日には4000人を越す集客があり、敷地周辺の商店街の活性化にも役立っている。

（福田泰造／福田泰造建築事務所）

所 在 地——神奈川県横浜市旭区白根 8 丁目720-11他
敷地面積——16,276.41㎡
建築面積——5,339.26㎡
延床面積——11,386.93㎡
構造規模——S造、地上 2 階 地下 1 階
工 期——2012年 6 月～2013年 2 月
最 寄 駅——JR横浜線 中山駅（シャトルバスに乘継）
撮 影——エスエス東京



浴場



露天風呂 天然温泉岩風呂



レストラン



外観



岩盤浴（岩塩房）

イオンタウン名西

建 築 主 イオンタウン株式会社
基本設計・設計監修 株式会社 東畑建築事務所名古屋事務所
実 施 設 計 株式会社 塩浜工業名古屋一級建築士事務所
施 工 株式会社 塩浜工業



休憩・サービスコーナー



南モール



屋上レンタル菜園

イオンタウン名西店は1970年から2005年まで永きに渡り、地元へ愛された物販店舗「ダイヤモンドシティ名西店」の建て替え計画である。敷地の周りを古くからの住宅地に囲まれた形で決して広い敷地でない為、地域密着をめざし、スーパーマーケットを核にし、お客様の日々の暮らしに対応した各種専門店舗を取り揃えた、1～2階に物販と飲食店舗、3階に屋内駐車場及び屋上駐車場とした、3階建ての近隣型ショッピングセンターである。

施設面では、世代を超えた交流の場そして新たな発見に出会える場として提供出来るように、屋上レンタル菜園・イベント広場・コミュニティホール及び地域発信のブース等を配置した。また長く愛される施設を目指し、自然に馴染む色合い・目に優しく伝わる色合いをカラーコーディネートし、共用部の壁面・床面・家具等に採用した。

またデザインモチーフとして、敷地である西区が徳川家康による「清須越え」のまちづくりを基礎とした城下町の地域であることにより、「蔵」・「格子」のある街並みをイメージし、西側外壁面に縦格子ルーバー・縦強調のサイディング張りを採用し、南角面には夜景時にボンヤリと浮び上る行燈をイメージし、ガラスの箱を演出した。施工面においては、屋上パラペット部分のPC化で工期短縮を図り、民家に近い外部足場には走行移動足場を採用し、仮設の簡素化や安全・騒音に対して考慮した。

(北條壮史／東畑建築事務所)

所 在 地——愛知県名古屋市西区香呑町6丁目49番地1
敷地面積——22,044.02㎡
建築面積——13,969.95㎡
延床面積——38,264.64㎡
構造規模——S造、地上3階
工 期——2012年12月～2013年8月
最 寄 駅——名古屋地下鉄鶴舞線 庄内通駅
撮 影——センターフォト



全景（西面）

あらた名古屋支店江南センター

建 築 主 株式会社あらた
設計監理 東畑建築事務所名古屋事務所
施 工 清水建設

消費者が望む多種多様な生活必需品を取扱う、中部地区における新しい拠点となる新物流施設。3つの旧施設を集約することにより、物流体制の生産性向上とローコストで生産性の高いセンターを目指した。

場所は愛知県北部の江南市、東海北陸自動車道の一宮木曽川インターから東2kmと交通至便な場所に拠点を構えている。建物は5階建てとなっており、1階部分に入出荷スペースと約5,100棚のパレット自動倉庫及び収納数620個のオリコン自動倉庫があり、2階部分に事務室機能を集約し食堂及び更衣室等の福利厚生ゾーンを配置、3階～5階部分は作業場といった構成を入荷・補充ラインコンベア約1,500m、出荷ラインコンベア約1,200mで結んでいる。

立地としては敷地南東側に川幅が狭い日光川があり、過去の台風にて氾濫による浸水高さが1m近くあったため川より地盤を約1m高く、1階床高さを更に90cm高く設定し昨今の集中豪雨等、万一の浸水に備えた。配置としては敷地西側に隣接する住宅地に配慮し、建屋を前面道路から約10mセットバックさせるとともに建屋外周を搬出入車両が旋回できる動線を確保した。建物外観は断熱性能の高いサンドイッチパネルを使用、商品の日焼け防止のため開口部を最小限とし、景観に配慮し全体としては物流施設としてのシンプルなファサードとした。

環境配慮手法として、空調機のデマンド監視、LED照明、複層ガラス、透水性舗装の使用等を積極的に採用し環境配慮にも努めた。

(若園慎次／東畑建築事務所)

所 在 地——愛知県江南市松竹町西松竹10-1
敷地面積——15,422.06㎡
建築面積——8,385.33㎡
延床面積——30,131.65㎡（仮想床4,803.48㎡含む）
構造規模——S造、地上5階
工 期——2012年7月～2013年4月（既設解体工事含む）
最 寄 駅——名古屋鉄道犬山線 江南駅
撮 影——エスエス名古屋



1階 入出荷スペース



全景



南当面外観



オークマ本社工場 Dream Site 1 (ドリームサイト ワン)

建築主 オークマ株式会社
 設計監理 株式会社伊藤建築設計事務所
 施工 日本国土開発株式会社 名古屋支店
 施工協力 株式会社トーエネック (電気設備工事)
 市原産業株式会社 (衛生設備工事)
 東洋熱工業株式会社 (空調設備工事)

所在地——愛知県丹羽郡大口町下小口五丁目25番地の1
 敷地面積——154,392.92㎡
 建築面積——部品工場：12,423.18㎡
 組立工場：13,309.47㎡
 延床面積——部品工場：16,235.04㎡
 組立工場：14,083.17㎡
 構造規模——部品工場：S造、地上2階 (新築)
 組立工場：S造、地上2階 (改修)
 工期——2012年8月～2013年5月
 最寄駅——名鉄犬山線 柏森駅
 撮影——アーキフォトKATO、エスエス名古屋 (*)



部品工場 南外観（手前は組立工場）



組立工場 南東外観（＊）



部品工場 南西外観（＊）



部品工場屋根 太陽光発電パネル（＊）

オークマは、世界に顧客を持つ、工作機械のリーディングカンパニーである。このプロジェクトは、国内生産力の強化を目指した本社工場再開発の1期工事にあたり、素材投入→加工→組立て→出荷を一貫して行う、自己完結一貫生産工場を建設するものである。

建屋は、既設第1工場を解体した跡に新築した部品工場と、既設第2工場を改修した組立工場で構成される。設計当時、旧耐震基準の既設第2工場には床面積の過半を超える増築ができなかったため、新築建屋は別棟としているが、このふたつの工場は屋内型の渡り廊下で繋ぐことにより一体工場として機能している。工場内は製品の品質安定化のため、部品温度を一定に保つ必要がある。室内温度環境をコントロールするには建物外皮の断熱性能が大きく影響するため、屋根は断熱二重折版葺き、外壁材には高断熱金属製サイディングを採用し、東・南・西面は無窓とした。また既設工場の外壁も同材に張替え、断熱性能を向上させるとともに外観においても新築建屋と一体となるデザインとした。

新工場では高効率空調設備、LED照明器具、電力量等のエネルギー監視設備を採用し省エネルギー化を図るとともに、太陽光発電パネル（メガソーラー）、壁面緑化パネルを設置し、環境にも配慮している。また駐車場を緑化するなど、雨水流出抑制と併せて工場敷地内の環境整備に努めた。

施工は、既設工場解体から新工場完成まで8カ月間という短い工期であった。そのため、基礎工事と鉄骨組立てを同時に進める工区割りや、設備天井配管工事に天井走行クレーンのランウェイガーダを利用した移動式橋桁足場を設けることで床工事との同時施工を可能にするなど、いくつかの工夫で短工期を克服し、建築主の要望に応えた。

新工場は24時間、7日間稼働を目指すシステムを構築し、自動化と熟練の技が織りなす未来工場として、DS1（ドリームサイトワン）と名付けられた。昨秋より本格稼働し、従来を大きく上回る生産性を上げている。

（澤村喜久夫、藤岡陽子／伊藤建築設計事務所）



障がい児入所施設 トイBOX

設 計 安井建築設計事務所
施 工 村本建設

所 在 地 愛知県知多郡東浦町大字藤江字カガリ
敷地面積 2,950.18㎡
建築面積 1,130.85㎡
延床面積 1,972.30㎡
構造規模 RC造、地上2階
工 期 2012年9月～2013年3月
最 寄 駅 JR武豊線 東浦駅



浜松市教育会館

設 計 飯尾建築設計事務所
施 工 中村組

所 在 地 静岡県浜松市北区
敷地面積 8,426.82㎡
建築面積 2,181.22㎡
延床面積 3,297.84㎡
構造規模 S造、地上2階
工 期 2010年10月～2011年8月
最 寄 駅 JR浜松駅



鈴鹿農業協同組合庄内支店

設 計 東畑建築事務所
施 工 白川建設

所 在 地 三重県鈴鹿市東庄内町字保背倉2427番2
敷地面積 2,918.39㎡
建築面積 644.06㎡
延床面積 613.86㎡
構造規模 S造、地上1階
工 期 2013年2月～2013年7月
最 寄 駅 JR井田川駅



石福金属興業名古屋営業所

設 計 竹中工務店設計部
施 工 竹中工務店

所 在 地 愛知県名古屋市中村区名駅5-22-10
敷地面積 159.38㎡
建築面積 118.47㎡
延床面積 243.04㎡
構造規模 RC造、地上2階、地下1階
工 期 2012年7月～2013年3月
最 寄 駅 名古屋市営地下鉄 桜通線 国際センター駅



静岡ガス本社ビル

設 計 日建設計
施 工 清水建設

所 在 地 静岡県静岡市駿河区1-5-38
敷地面積 8,044.45㎡
延床面積 2,498.13㎡
建築面積 7,516.97㎡
構造規模 SRC造、S造、制振構造、地上6階
工 期 2012年3月～2013年3月
最 寄 駅 JR静岡駅



株式会社日特スパークテック東濃 二野本社工場

設 計 大林組名古屋支店一級建築士事務所
施 工 大林組名古屋支店

所 在 地 岐阜県可児市二野字南山2706番の3
敷地面積 118,468.75㎡
建築面積 36,603.58㎡
延床面積 53,469.93㎡
構造規模 S造、地上4階
工 期 2013年2月～2013年12月
最 寄 駅 名古屋鉄道 新可児駅、JR可児駅



割烹大喜

設 計 竹中工務店設計部
施 工 竹中工務店

所 在 地 三重県伊勢市岩渕2-1-48
敷地面積 359.85㎡
建築面積 296.44㎡
延床面積 750.941㎡
構造規模 RC造、S造、地上3階
工 期 2012年2月～2012年11月
最 寄 駅 近畿日本鉄道 山田線 宇治山田駅

“東海の風”

震災の復興と合わせて、昨年東京オリンピック・パラリンピック開催が決定されました。それに伴い建築業界では、建築材料費の高騰や熟練工不足と言った状況から公共工事においては不調が相次ぎ民間工事まで影響が及んでいます。こうした状況の中、私達は今こそ建築を通して何をなすべきか考える時だと思います。昨年の一般社団法人への移行により、これまでとは違った意味で地域への貢献が期待されていると思います。これからも東海支部ではエリア内での活動を通して街づくりに参画して行きたいと考えます。

さて、今年の「建築と社会」東海特集号では「建築文化にみる遺伝子」シリーズとして静岡県の特集記事を組みました。昨年6月、富士山が世界文化遺産に登録され、改めて静岡県の富士山を中心とした文化が日本全国に紹介されています。私達は静岡県の建築文化の遺伝子が次の世代へ継承され地域づくりに役立てればと考えます。

支部が管轄する市町村文化の紹介が人づくりから街づくり、地域づくりから国づくりまで発展することを期待しています。

最後に、本特集号に際し、大変お忙しい中、時間を割いてご執筆頂きました各分野の先生方、地域を代表する皆様方、そして東海支部の特別編集委員会の委員の皆さんに改めて感謝致します。

(東海支部特別編集委員会委員長 福田泰造)

■静岡の建築文化にみる遺伝子

遠州の7人の賢人／杉野 丞

舞台芸術の振興～自治体初の文化政策的取り組み～／

静岡県文化・観光部文化学術局文化政策課

富士山世界文化遺産—その建築的特徴—／建部恭宣

ブルーノ・タウトと熱海／中井正勝

支部主催建築見学会を回想して ブルーノ・タウトの遺産—その建築的特徴—／福田泰造

■東海の建築：架構

・浮遊するスロープと24m円形空間

岐阜県立希望が丘学園及び岐阜希望が丘特別支援学校／安井・サニー設計共同体

・「自然と向き合い音楽を学ぶ」環境をつくる構造計画

愛知県立芸術大学音楽学部校舎／日建設計

・「超・低ライズ」で自然と調和するキールトラス架構・膜構造屋根

やわらぎ 森のスタジアム／竹中工務店

・土俵と観客席を覆う大架構

神宮相撲場上屋／大林組

静岡の建築文化に見る遺伝子

遠州の7人の賢人

愛知工業大学工学部建築学科教授

杉野 丞

1952年 静岡県生
1977年 愛知工業大学卒業、
1979年 同大学大学院修士課程修了
1989年 同大学講師
1990年 中国東南大学客員研究員
1995年 工学博士（名古屋大学）
2002年 愛知工業大学教授（現在まで）

研究分野：日本建築史・中国建築史
主な著書：「近世寺院建築の発展に関する研究」1995、「国宝高岡山瑞龍寺」1999、「松平徳川氏の寺社」2000、「新編豊川市史」2002、「三重県史」2003、「愛知県史」2006、「新修岡崎市史」2010、「本證寺伽藍」2008「蒲郡の建築」2009

■はじめに

2008年のリーマンショック後、東京から大阪に向かう新幹線の中で企業経営者たちが「東京、大阪の経済活動が低迷する中、名古屋をはじめとする中部圏では、なぜ活気を失うことなく生産活動が維持できているのだろうか」との会話が囁かれていた。これに、一人が「遠州には世界的な企業が集中しています。」「遠州からは豊田佐吉、山葉寅楠、河合小市、鈴木道雄、本田宗一郎などの企業創始者が輩出され、トヨタ自動車、ヤマハ株式会社、河合楽器製作所、スズキ株式会社、本田技研工業など、日本を代表する企業が育っていますよ。」「全国を見渡しても、このような地域は遠州を除いてありません。」この言葉に経営者たちは耳を傾けた。そして、「一体この地域に何が潜んでいるのですか。」、また一人が「遠州には固有の遺伝子が育っているのかもしれない。」この言葉に一同目を見合わせた。

■遠州の5人の賢人

遠州には近代に5人の賢人が育っていた。

豊田佐吉は慶応3（1867）年に遠江の敷地郡山口村に生まれ、父伊吉は百姓をしつつ大工で生計を立てており、佐吉も20歳の時に豊橋の大工岡田波平のもとで修行をしていた。その大工技術を生かして豊田式汽力織機で特許をとると発明家へ転向し、現在のトヨタ自動車の基礎となる豊田紡織を設立している。

山葉寅楠は、嘉永4（1851）年、紀州藩士山葉孝之助の三男として生まれ、明治維新後の英国人の下で時計の修繕を学び、その後医療機器などの修理を行っていたが、明治20（1887）年、小学校の米国製オルガンの修理を手掛けたことから楽器の製造をはじめ、その後日本楽器製造株式会社を設立している。

河合小市は、明治19（1886）年、江戸時代から続く馬車の車大工の子として生まれた。当時、浜松では山葉寅楠がすでにオルガンの製造を始めており、寅楠の下で楽器製作の技術を学び、昭和2（1927）年に河合楽器研究所を設立し、昭和26（1951）年に河合楽器製作所の基礎を築いた。

鈴木道雄は、明治20年に浜名郡芳川村の農家の次男として生まれ、14歳の時に普請師（大工棟梁）をめざし、今村幸太郎の下で7年



写真1 豊田佐吉



写真2 山葉寅楠



写真3 河合小市



写真4 鈴木道雄



写真5 本田宗一郎

間大工修業に専念していた。その後、日露戦争が始まると師の今村が織機の製作に転向したことから、道雄も織機製作へ向かい、明治42（1911）年に現在のスズキ自動車の前身となる鈴木式織機製作所を設立している。

また、本田宗一郎は明治39（1906）年、磐田郡光明村の鍛冶屋の儀平の長男として生まれ、二俣尋常小学校を卒業した後、東京市本郷区湯島の自動車修理工場「アート商会」に入社し、その後浜松に支店を設立し、昭和23（1948）年に本田技研工業を設立している。

このように、遠州では幕末から明治にかけて5人の企業家が育っていたが、豊田佐吉、鈴木道雄は青年期に大工修業を行い、河合小市の父も車大工であり、近代の賢人たちの多くが大工技術に関わっていた点が興味深い。江戸時代以来の日本の大工技術は、近代の科学技術に対応し得る論理性を備えており、すでに「匠明」のような大系化された建築技術書が成立していた。これらの賢人たちはいずれも「物づくりの技術者」であり、技術を高めるための弛まぬ努力と企業家として不屈の精神を備えていたことは予想に難くない。

この頃、遠州には「至誠・勤労・分度・推譲」に象徴される「報徳思想」の風が吹いていた。

■大日本報徳社と報徳思想

明治8（1875）年、掛川に遠州報徳社が設立された。報徳社は、我が国の近代化黎明期に二宮尊徳が困窮する農民救済を唱えた思想を広めるために開かれた結社である。尊徳（幼名：金次郎）は貧しい暮らしの中で勤労と学問に励み、その実践から得られた知恵を体系化したのが「報徳思想」であり、その思想は実業家渋沢栄一、土光敏夫などに大きな影響を与えたといわれる。また、報徳運動は、道德と経済の調和を目指しており、その活動は産業開発から社会福祉に及ぶものであった。

明治30年代、駿河・遠州には420社の報徳社が結成され、遠州では尊徳から教えを受けた岡田佐平治、良一郎親子が報徳社を設立し、初代岡田佐平治（無息軒）、2代目岡田良一郎（淡山）、3代目岡田良平と社長が続き、明治44年（1913）に「大日本報徳社」と改め、全国の報徳運動の中心となった。



写真6 岡田良一郎

1. 大日本報徳社大講堂

明治36（1903）年、大講堂は遠州報徳社の第三館公会堂として建立され、その後報徳運動の教化・普及をはかる大日本報徳社の中心的な建物となった。

講堂は木造2階建て、入母屋造り、棧瓦葺、正面に切妻造り破風屋根の玄関を設けるなど伝統的な日本建築の意匠としながら、2階の大壁には半円アーチ窓、壁面隅には漆喰細工の柱型を備えるなど、洋風のデザインを併せ持つ近代和風の建築である。

講堂内部は1階では中央に81畳の大広間を設け、後方中央にステージ、その左右に12.5畳の控室、2階では中央の大広間上部とステージ上部を吹き放し、その両脇に10畳2室



写真7 大日本報徳社 大講堂正面



写真8 大日本報徳社 大講堂内部

を設け、これらを囲むように吊り構造のギャラリーを一巡させている。この建物は地元建設会社の馬場組の設計・施工であった。

日本の伝統の中に積極的に洋風化を取り入れた大講堂は、遠州において報徳運動に想いを寄せた人々が夢を託した建物であった。

2. 淡山翁記念報徳図書館

図書館は、報徳社の2代目社長・岡田良一郎（淡山）の業績を記念して建設されたものであり、全国から寄付金を集めて大正15（1926）年11月起工、昭和2年7月に竣工しており、設計・施工は大講堂と同じ馬場喜三郎によるものである。

建物は、鉄筋コンクリート造2階建て、建築面積105㎡、外壁は黄土色の化粧タイル張りである。

外観は、柱を1、2階に通して柱型を見せることで垂直性を強め、柱間には縦長の上下げ窓を入れ、柱の頂部には丸型、角型の化粧タイルを幾何学的に組み合わせ、階段室の柱頂部には十字形のテラコッタを嵌め込むなど、一見単調に見える外観であるが、当時の欧米で流行していたアールデコの建築様式を積極的に取り入れた近代建築であった。

内部は1階を書庫、2階を閲覧室とし、その前に玄関兼階段室を加えている。閲覧室では、淡山翁の銅像を祀るために凸字型の張り出しを背後に設け、前には両開き扉を吊って厨子状に仕上げている。



写真9 淡山翁記念報徳図書館

3. 見付小学校

明治5（1872）年の学制発布を受け、遠州では同6年に見付学校が宣光寺、省光寺などを仮校舎に開校されるが、同時に淡海国玉神社神官の大久保忠利、区長の古澤脩などの有力者が資金調達を行い、新校舎の建設を進め

ていた。名古屋の宮大工・伊藤平右衛門（後の9代目伊藤平左衛門）が工事を請負い、明治7（1874）年10月に着手、翌年8月7日に落成した。

建物は、間口12間（21.8m）、奥行5間（9.1m）、木造擬洋風の2階建てとし、屋上には2重の洋風塔屋を立てている（現在3層目を付加）。建物は高い石積みの基壇上に建てられ、正面に階段を設け、玄関は両脇に丸柱2本を吹き寄せとし、柱にフルーティングを施し、柱頭に円盤型の柱頭飾を付け、コーニスを設けて、切妻屋根を載せている。

外観は白漆喰壁とし、建屋4隅では石板を張って全体を組積造風に見せ、1、2階に上下げ窓、入口に2連のアーチを開け、背後に昇降用の階段を設けている。

内部は1つ空間とし、床板を矢羽根張りとし、2重塔屋には急勾配の階段で登坂できる。明治維新、遠州の人々の近代化の意識は高く、西洋の建築文化をいち早く取り入れ、次代を背負う子供たちに夢を託し、育成の場となる建物に対し、新たな遺伝子を投入することで、近代の逸早い文明開化を願ったのであろう。



写真10 見付学校校舎



写真11 見付学校校舎3階内

ところで、戦国時代にこの遺伝子の起源を想い起させる出来事があった。天正18（1590）年、徳川家康は小田原城を陥落させると、秀吉より関八州240万石余りを得て江戸城に入城したものの、城内は芝土居に囲われた

簡素なものであったという。

家康は、岡崎を出て浜松、駿府、小田原を手に入れる中で「三州六人衆」と呼ばれる三河、遠江、駿河の大工を集め、普請方として木原吉次を家臣に従えるなど、覇権と築城を一体化することで勢力を伸ばしていった。江戸城の普請奉行に任じられた木原吉次は、遠州から鈴木長次を呼び寄せ、天正20（1592）年、江戸城を修築し、文禄2（1593）年に西の丸を造営した。木原吉次は本来鈴木姓であったと言われるが、袋井木原村の出であったことから家康より木原姓に改められたという。鈴木長次も浜松の出であり、遠州の二人が江戸幕府の普請の重要な存在となってゆく。

一方、家康は秀吉より伏見城の造営を命じられると京都に上り、当時天下一の棟梁と呼ばれた中井正吉の子正清を従えたので、江戸幕府の普請は木原、鈴木、中井氏の下で行われるようになる。

2代将軍秀忠は木原氏を重用したので、吉次の孫義久の代には鈴木長次が御大工として活躍している。鈴木長次は、1608年に池上本門寺五重塔、1615年に遠江諏訪神社、1619年に日光二荒山神社、日光東照宮中神庫、1620年に輪王寺法華堂、1622年に江戸城本丸御殿奥向などを造営した。寛永9（1632）年に秀忠が死去すると、台徳院霊廟の造営には義久と長次があたり、幕府の作事方では木原義久と鈴木長次が御大工頭に任じられ、3代将軍家光の時代に普請の全盛期を迎えると、木原、鈴木氏がその中心的役割を果たし、その下には次代をになう鶴、平内、甲良が控えていた。

■遠州のもう一人の賢人

ー中村與資平ー

この遠州の建築文化の遺伝子は、近代の5人の賢人に報徳社の賢人を加え、さらに同時代を生きたもう一人の賢人・中村與資平を育てていた。

中村與資平は、明治13（1880）年、中村貞一郎の長男として長上郡天王村（現在の浜松市東区天王町）に生まれ、明治35（1902）年に第三高等学校、同38（1905）年に東京帝国大学建築学科を卒業すると、辰野金吾と葛西萬司の経営する辰野葛西建築事務所に入り、明治40（1907）年に第一銀行韓国総支店

（朝鮮銀行本店）の建築部工務長となり、大正元（1912）年には朝鮮銀行本店が竣工すると、朝鮮銀行建築顧問となった。その後、京城黄金町に中村建築事務所を開設し、大正6（1917）年に大連市に出張所を開設し、同10（1921）年には欧米に視察旅行に出かけた。その後、同11（1922）年に東京市に転居し、中村工務所を開設したが、昭和9（1934）年には工事部を廃止し、設計部を中村與資平建築事務所と改めた。さらに、同19（1944）年に建築事務所を閉鎖して浜松に疎開し、昭和38（1963）年に浜松で死去する。享年83歳であった。

主な作品は、朝鮮銀行大連支店（1920年 大連市）、朝鮮銀行奉天支店（1920年 瀋陽市）、天道教中央大教会（1921年 ソウル市）など海外の一連の作品、さらに遠州銀行本店（現静岡銀行浜松営業部・浜松市）、旧浜松銀行協会（1930年 浜松市）静岡銀行本店（1931年 静岡市）、豊橋公会堂（1931年 豊橋市）、静岡市役所庁舎（1934年 静岡市）、静岡県庁本館（1937年 静岡市）など、駿河、遠州に数多くの建築を建てており、與資平が帰国して設計事務所を開き、郷里に数多くの建築を残したことは、自ら得た遠州の建築文化の遺伝子を後世に引き継ごうとするものであった。



写真12 中村與資平

1. 遠州銀行本店（現静岡銀行浜松営業部）

JR浜松駅北口から歩いて5分ほどにある旧遠州銀行本店は、大正14（1925）年9月に着工し、昭和3（1928）年4月に竣工した。その間、全国的な金融恐慌が昭和2年にあった

が、無事完成を見た。

建物は、地上3階、地下1階、鉄筋コンクリート造、延べ面積2,026㎡である。

外観は、切石積の腰組みをめぐらし、正面では壁面を入り込ませて3層分のイオニア式オーダーの丸柱4本を立て、長く張り出したコーニスの蛇腹下には歯型飾りを廻らし、正面入口には石彫の幅広い額縁を付け、1階中央両脇に半円アーチ窓、その他2、3階の柱間には矩形窓を開け、外壁を御影石張りとするなど、古典的な意匠を見せている。同時に、ネオ・クラシズムの建物と比べると腰積は低く、側面の柱は彫刻を排して壁面からの張り出しも少なく、窓周りの刳型彫刻も省略されており、大正末期より急速に進展したモダニズムの影響を受けていることが読み取れる。内部は、1階の中央部を取引業務の中心として2階までを吹き抜けの大空間とし、2、3階は吹き抜け部分に手摺付のギャラリーを一巡させ、その奥に室を配し、3階では天井にガラスブロックを入れて採光を取っており、当時流行の典型的な銀行建築といえよう。

2. 旧浜松公会堂

大正13（1924）年、浜松市は陛下の御成婚奉祝記念として公会堂の建設を計画し、同15

年1月に起工し、昭和2年2月の紀元節の日に竣工している。

建物は地上3階（中2階）、地下1階、鉄筋コンクリート造、正面5間、側面7間の長方形平面である。内外壁はモルタル仕上げ、各階の柱間にはスチールフレームの単純な窓をあける。この建物の特徴は、妻正面に丸柱4本を添え、柱には縦目地と横の節理を付け、3層まで通した柱の柱頂には鷲の彫刻を載せていた。

屋根はその後改変されたが、当時の図面によるとマンサード屋根（腰折れ屋根）とし、内部には後方にステージ、前方の中2階部分に客席を設け、小屋には鉄骨トラスを組んでいた。

当時の公会堂としては中規模ではあったが、正面のファッサードの意匠、屋根の形状には斬新であり、時代の潮流をいち早く表現した建築といえよう。

3. 静岡市役所

静岡県に本格的な鉄筋コンクリート構造の建築が出現するのは伊東忠太、佐野利器による明治44（1911）年の袋井市可睡斎の護国塔、明治45（1912）年の清水市三保の清水灯台などであり、これら建物は記念碑的な建

築であった。その後、関東大震災（大正12（1923）年）を契機として、全国の建築界はレンガ造から鉄筋コンクリート造へと大きく転換してゆく。静岡市庁舎は昭和8（1933）年2月に着工し、同9（1934）年10月に竣工している。

建物は、鉄筋コンクリート造、4階建てとし、L字型の平面構成とし、延面積8,865㎡の行政庁舎であったが、上部に2層の塔屋を重ね、望楼を置き、ドームを載せている。正面の車寄せには4本の太い独立柱の間に3連の半円アーチをかけ、アーキヴォールトを美しいテラコッタの線形で飾っている。建物前面はテラコッタの線形が柱形のように細く4階まで延び、頂部は花形先頭アーチとなって正面を引き締め、その両側にステンドグラスを嵌め込んだ飾り窓を付けている。

外壁は象牙色の化粧タイル張とし、窓周り、パネル、パラペット笠木、塔屋、望楼、ドーム等、随所にテラコッタを用いる。

内部は、玄関ポーチから役所ホールへは、大理石の階段を上るが、正面の中央階段の踊り場で左右に分かれ、正面に設けられた大きなステンドグラスが印象的である。議場の議長席の背面では、壁面に古典のオーダーをあしらった木造の背壁を設け、天井や梁形には



写真13 旧遠州銀行本店



写真15 旧浜松公会堂



写真17 静岡市役所庁舎

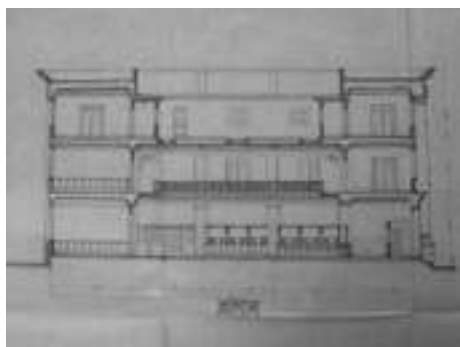


写真14 旧遠州銀行本店 断面図



写真16 旧浜松公会堂 正面図



写真18 静岡市役所庁舎 正面図

彩色を施すなど、格式のある議場としている。

しかし、市の設計条件には高塔は無かったといい、興資平は市の王冠としての高塔を自ら設計したといい、彼は東海の中核都市静岡を象徴するものを表現したかったと述べている。

高塔は、四方にアーチを付けて開放的に扱い、青と緑を基調としたテラコッタとモザイクタイルで飾り、塔頂のドームは陽光に照らされて輝きを放っている。

4. 静岡県庁舎本館

明治19（1887）年、伊豆、駿河、遠江が統合され静岡県が成立すると、旧駿河町奉行所に県庁がおかれ、明治22（1889）年12月にレンガ造、2階建ての旧県庁舎が現在地に造営された。その後、昭和8（1933）年、県議会において庁舎建設が協議され、鉄筋コンクリート造、4階建て、延べ面積14,000㎡の計画が承認された。この設計は、佐野利器を審査委員長とする懸賞募集により、400点ほどの応募の中から神奈川県の大井武が当選し、実施設計を中村興資平が担うことになった。

建物は、中庭を2つ備えた「日の字型」の平面構成とし、前面中央に低い塔屋を立ち上げている。1階から4階までを事務室とし、3階中央に議場を配置している。全体は4階建てであるが、正面中央部のみ塔屋風の宝形造5階建てとし、赤褐色の瓦屋根をあげて宝珠を載せるなど、日本趣味を取り入れた近代建築である。

外壁は明るい人造花崗岩小叩き仕上げ、腰や車寄せは錆花崗岩仕上げとし、全体に落ち着いた色調、小叩き仕上げとしている。また、外壁には型枠組立の時にスチールサッシを取り付け、柱頂には持出し梁（せがい造り風）を出して軒を支え、アクセントに変えている。正面の車寄せは4本の太い角柱を立てるのみに装飾的な意匠を一切用いない。

室内で最も力が注がれたのは正面玄関、大階段、貴賓室、正庁、議場などであり、中央階段の3階から4階の踊り場には県の特産品を積んだ宝船がデザインされた壁画が飾られる。屋根には瓦を載せて和風を意識させるな

ど、すでに古典的な柱型、オーダー、線型などの姿は消えており、近代建築の先駆的な意匠にまとめられている。

このように、遠州の風土から江戸幕府の普請の中心的な役割を果たした木原吉次、鈴木長次という大工棟梁が輩出され、その技量は京都の天下一の棟梁とされた名家中井正清に匹敵するものであった。その後この遠州における建築文化の遺伝子は、近代には報徳思想と融合することで多くの企業家を生み出し、さらに大正・昭和期に入ると新たな名工を生み出した。

中村興資平は中国大陸に渡った建築家として知られるが、興資平は帰国すると東京に事務所を開き、駿河・遠江に数多くの建築を建てている。興資平が去って半世紀、今なお遠州にはこの遺伝子が引き継がれており、新たな時代を開く建築を再び開花させてくれるであろう。

（すぎの のぼる）



写真19 静岡県庁舎本館外観図



写真20 静岡県庁舎俯瞰



写真21 静岡県庁舎議事堂

【近代の遠州の賢人】

二宮尊徳	1787	_____	1856
岡田良一郎	1839	_____	1915
山葉寅楠	1851	_____	1916
豊田佐吉	1867	_____	1930
中村興資平	1880	_____	1963
河合小市	1886	_____	1952
鈴木道雄	1887	_____	1982
本田宗一郎	1906	_____	1991

参考文献：「東海の近代建築」中日新聞社刊、「世界を見た日本人建築家」、西沢泰彦、日本建築学会、建築雑誌、「豊田佐吉傳」田中忠治著、「山葉寅楠翁」磯部千司編、「スズキを創った男鈴木道雄」長谷川直哉、「定本ホンダ宗一郎伝・飽くなき挑戦・大いなる有機」中部博著、「大日本報徳社建造物群工事報告書」、「ヤマハ100年史」、「大日本報徳社建造物群工事報告書」、「中村興資平の図面」浜松市立中央図書館所蔵、「静岡県の近代化遺産」同県教育委員会他

舞台芸術の振興

～自治体初の 文化政策的取り組み～

静岡県文化・観光部 文化学術局文化政策課

■はじめに

静岡県は、東西に長いわが国の中央に位置し、東西文化が交流する地域であり、多様な文化資源に恵まれている。

そして、平成25年6月に世界文化遺産に登録された日本文化の象徴ともいえる富士山のもとで、豊かで独創的な文化が創り出されてきた。

これらの多彩な文化資源を生かし、県内外に魅力を伝え、その価値を高めることで、いつでも、どこでも多彩で魅力的な文化の花が咲き、国内外から憧れられる「ふじのくに芸術回廊」の実現を目指し、平成18年に制定した「静岡県文化振興基本条例」に基づき、「静岡県文化振興基本計画」を策定して各種の文化振興施策に取り組んでいる。

この基本目標である「ふじのくに芸術回廊」実現のため、SPAC－静岡県舞台芸術センターは大きな役割を担っている。

■SPAC－静岡県舞台芸術センターの創設 ～日本初の公立舞台芸術劇団「SPAC」～

静岡県では、長い間、市町の公会堂や文化ホール等はあったものの県立の文化ホール等がなく、本格的な県民ホールの建設は県民の悲願であった。

多くの県民の要望に応えるため、静岡県は、昭和63年に「新都市拠点整備懇話会」から提言を受け、県民ホール建設の検討に着手し、平成5年に「県民国際プラザゾーン」の基本計画を発表し、平成11年3月に開館した

のが本県の「新たな文化の創造拠点」である静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」である。

この「グランシップ」の整備計画と併せて検討を進め、平成6年3月に発表したのが「静岡県舞台芸術振興構想」である。

この構想を具現化するため、静岡県は、平成7年7月21日に静岡県舞台芸術センター（Shizuoka Performing Arts Center：SPAC）を設立するとともに、舞台芸術の創造と公演のために新たな拠点施設を建設した。

SPACは、世界に通用する舞台芸術の創造と、舞台芸術の発展に必要な人材育成を目的に、静岡県が100%出資し、政策的に作られた、日本で初めての公立舞台芸術劇団である。

■SPACの先進性

～日本の演劇界への地方からの挑戦～

SPACは、自由な発想のもと、芸術性の高い柔軟な活動を展開するため、当時の日本では初めての欧米型の劇団として、

- ①舞台作品の創造と公演、人材の育成等の事業総体を指揮するとともに、事業全体の予算の執行権と事業に関する人事権を有する芸術総監督の設置
- ②舞台芸術を創造するための照明、音響、装置、衣装などの専門家や俳優、演出家などを含む芸術家集団としての芸術局の設置
- ③舞台芸術の創造や人材育成等の事業を持続的に展開していくため、専用の舞台施設を有し、県条例で専用使用を明文化するという先進性を有している。



静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」



『真夏の夜の夢』（撮影：三浦興一）



静岡県舞台芸術公園（写真提供：SPAC）

SPACの設立は、公共の劇場・ホールが、単なるハコではなく創造の機能を持たせ、劇場と劇団の一体化を図るという当時の日本では先例のない取り組みである。これは、平成24年6月に施行された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」いわゆる劇場法の理念を先取りしたものとも言え、舞台芸術に対する静岡県の明確な政策ビジョンとして進められてきた。設立から15年、SPACは日本の演劇界のトップランナーとして、静岡県はもとより、国内のみならず海外にまで舞台芸術の振興のための活動を展開し、世界レベルの演劇を静岡から創造発信している。

東京を中心とした一極集中的な日本の演劇界に対する地方からの挑戦である。

■SPACの活動拠点

～SPACの活動を支える2つの専用施設～

（1）静岡芸術劇場～成果発表の場～

SPACの活動を支える拠点は2箇所、1箇所目はJR東静岡駅に隣接する静岡県の「新たな文化の創造拠点」である静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ）の東端部分にあるSPAC専用劇場「静岡芸術劇場」である。

座席数は最大で400席程度、舞台と客席はほぼ同じ広さで、舞台上の俳優の声がマイクを使わずに生で届き、演じる側と見る側の一体感を生む、まさに舞台芸術の創造と発表にふさわしい最高の舞台環境である。

（2）静岡県舞台芸術公園～創造の場～

2箇所目は、交通至便な静岡芸術劇場とは対照的に、遠くに富士山を望む緑豊かで風光明媚な日本平の山麓に位置し、敷地面積は約21ヘクタールで、東京ドームの約4倍の広さを有する静岡県舞台芸術公園である。

「自然との共生・調和」をコンセプトに、園内には、野外劇場「有度」、屋内ホール「楢円堂」、稽古場棟、宿泊棟などの舞台芸術のための施設が、茶園や果樹園、桜などとともに配置されている。

SPACの活動の拠点として、優れた舞台芸術作品の制作、公演、人材育成事業等を通し、県民に舞台芸術に関する知識や技術の習得及び体験の場を提供するもので、県民参加のもと、舞台芸術の創造と人材育成の場として利用されている。

■SPACの活動

～This theatre is Your theatre!～

SPACの活動は2つの専用施設を拠点に、

- ①舞台作品の創造と公演
- ②舞台芸術を担う人材の育成と教育
- ③地域の舞台芸術活動への支援

という3つの柱を基本に展開されている。



静岡芸術劇場（写真提供：SPAC）



野外劇場「有度」（写真提供：SPAC）

平成19年から芸術総監督に就任した宮城聡氏は、初代総監督である鈴木忠志氏が築いた理念と理想を引き継ぎつつ「This theatre is Your theatre!」を基本精神に掲げ、より開かれた劇場、劇団を目指している。

(1) 舞台作品の創造と公演

SPACの活動の中核である「舞台作品の創造と公演」は、2つの専用施設を中心に、世界の演劇祭等から招聘を受けるSPACオリジナルの舞台作品の通年公演、「演劇で世界と静岡をつなぐ1か月」をテーマに毎年初夏に開催している国際演劇祭「ふじのくににせかい演劇祭」、さらに国内外の演出家を招いての新作創作舞台の公演である。

平成24年に開催された「ふじのくににせかい演劇祭2012」では、舞台芸術公園の野外劇場において、川勝平太知事とSPACの俳優とによる古代ギリシャの詩人ピンダロスと作者不詳の讃歌を構成した詩『文芸の女神ムーサへの讃歌』（SPAC文芸部 横山義志訳）の朗読で開幕し、フランス、アメリカ等世界10カ国から作品を招聘して12作品、34公演を行い、約1万人が鑑賞した。宮城聡演出のSPACオリジナル作品としては、静岡芸術劇場にて、壮大な音楽と巧みな舞台装置による祝祭音楽劇の「パール・ギュント」、野外劇場「有度」にて古代インドの叙述詩を臨場感あふれる生演奏と個性豊かな美術と衣装で幻想的な世界を織り成す「マハーバーラタ〜ナラ王の冒険〜」を公演し絶賛を浴びた。

SPACは15年の活動を通じて、これまでの国内公演数は1,700公演以上、鑑賞者総数は約40万人に及んでいる。

海外では、招聘公演を中心に延べ27カ国99公演を行い、鑑賞者総数は8万人を超え、多くの国々で高い評価をいただいている。

平成22年度はコロンビアの首都ボゴタで開催された南米大陸最大の国際演劇祭である「イベロ・アメリカ国際演劇祭」において、宮城聡演出の「王女メディア」がクロージング演目として招聘され、絶賛された。

また、韓国の密陽と釜山にて、韓国の演出家との共同制作による「ロビンソンとクルーソー」を上演した。

平成23年度は「王女メディア」をニューヨークのジャパン・ソサエティで上演したほか、再度「イベロ・アメリカ国際演劇祭」に、日本から唯一招聘され「パール・ギュント」を上演した。

さらに、平成25年2月には初のフランスツアーを行い、パリでの公演を皮切りにフランス国内4都市で「マハーバーラタ〜ナラ王の冒険〜」を公演し、9月にはSPACとテアトロ・マランドロ共同制作作品『ロミオとジュリエット』（演出:オマール・ポラス）を、12月までの約3か月にわたりフランス国内6都市ならびにスイス国内4都市を巡演した。

SPAC公演の海外での高い評価と成功で、静岡県の文化や情報を海外においてPRするとともに、海外公演を通じて構築した海外劇団とのネットワークやSPACの知名度向上によ

り、海外の一流劇団を静岡県に招聘し、県民が静岡にしながら世界の最高水準の演劇を鑑賞できる基盤が整備されている。

さらに、世界的に高い評価を受けているSPACの活動は、幅広い分野の創造活動に刺激を与え、県内の文化水準を引き上げることにつながっている。

「静岡県の舞台芸術の振興と県民文化の発展」を目的に活動を開始したSPACは、15年間の活動を通じて、世界文化遺産登録を果たした富士山の頂上を目指すかのように、静岡県の文化力の向上を図ってきた。

(2) 舞台芸術を担う人材の育成と教育

SPACでは、世界的な活動を通じて文化の頂（いただき）を高める一方で、舞台芸術のすそ野を広げるため、中高生舞台芸術鑑賞事業やシアタースクール、演劇ワークショップなど、人材育成にも積極的に取り組んでいる。

中高生舞台芸術鑑賞事業は、「劇場は教育機関である」という宮城聡監督の考えから、中高生という多感な時期に本物の劇場で、世界に通用する本物の演劇作品を鑑賞する機会を提供するため、平日に県内の中高生を無料で演劇鑑賞に招待している。平成24年度は、年間15,000人を超える中高生がSPACの公演を鑑賞した。SPACでは、中高6年間のうちに一度はSPACの舞台を鑑賞する機会を持てるように、年間100公演を目標に事業に取り組んでいる。

SPACシアタースクールでは、県内の小中



『パール・ギュント』（写真撮影：橋本武彦）



『マハーバーラタ〜ナラ王の冒険〜』（撮影：三浦興一）

高生とその保護者を対象に、演劇の魅力を講義から実技、鑑賞を通じてより深く体験してもらうために夏休みの期間を利用して演劇教室を開催している。その他の人材育成事業として、SPACの俳優が出張し、親子を対象とした「おはなし劇場」や「演劇ワークショップ」、さらには、フランスを拠点に国際的に活躍している振付家・ダンサーのメラニン・ニアカム氏を迎え、人材育成事業に参加した中高生から選抜された静岡の子どもたちとともに新しい舞台を創造する国際共同制作プロジェクトである「スパカンファン・プロジェクト」を実施し、SPACの人材育成の成果を世界に向けて発信している。

(3) 地域の舞台芸術活動への支援

SPACの人材育成事業に参加した人や観劇した人たちの中には、劇団を立ち上げ、独自の活動を行っている人たちもいるが、SPAC

の活動を行っている人たちもいるが、SPAC 専属スタッフや俳優がその活動を支援し、独自の作品を創造していく活動を通じて、SPACは地域の舞台芸術の担い手の育成に貢献している。

参加者はその後、舞台芸術活動の中心を担うなど、様々な形で活躍しており、中にはSPACの専属俳優になった人もいます。

また、演劇を身近に感じていただくため、SPACの俳優が劇場を飛び出し、カフェやレストラン等で、台本を読み合わせ、気軽に演劇体験ができる「リーディング・カフェ」も行っている。

■SPACの新たな展開

～舞台芸術による賑わい創出・交流人口の拡大～

平成25年 6 月には、富士山の世界文化遺産

登録を記念して、新たな試みとして、劇場を飛び出し、屋外を会場とする「ふじのくに野外芸術フェスタ」を開催した。

SPACの総合演出により、フランスから招聘した「イロトピー」による水上パフォーマンスやベトナムから招聘した「タンロン水上人形劇場」による水上人形劇、国内気鋭の劇団による「新世代ショートスペクタクル！」など、静岡県内 3 会場、3 日間の開催で、約 2 万人が来場し、壮大な水上パフォーマンスを堪能するとともに、富士山世界文化遺産登録をお祝いした。

静岡県は全国に先駆けて世界レベルの演劇集団を育ててきた。SPACは静岡県の財産であり、今後もこの財産を生かして静岡県の文化・芸術の振興を図っていく。



「中高生鑑賞事業」(写真提供：SPAC)



「ふじのくに野外芸術フェスタ」(写真提供：SPAC)



「リーディング・カフェ」(写真提供：SPAC)



『夢の道化師～水上のイリュージョン～』(写真提供：SPAC)



富士山世界文化遺産

—その建築的特徴—

静岡県文化財保護審議会会長
博士（工学）

建部恭宣



1946年 沖縄県石垣市生れ。
京都工芸繊維大学大学院工芸学研究科建築工
芸学専攻修了。
東京大学 博士（工学）。一級建築士。
（財）京都伝統建築技術協会主任研究員、桂
離宮修理事務所調査員、日本建築専門学校教
授・副校長を経て、平成20年3月退職。現
在、静岡県文化財保護審議会会長。
その他、静岡県及び県内各市町 各種委員。

著書 『京・近江・丹後大工の仕事 近世か
ら近代へ』（思文閣出版）
『桂離宮』（小学館、共著）
『京の離宮と御所』（JTB日本交通公社
出版事業局、共著）
『建築史論聚』（思文閣出版、共著）
『文化財ガイドブック 建造物編』（
静岡県教育委員会）
その他論文多数

■はじめに

平成25（2013）年6月22日、三保の松原を
含めて、富士山が世界遺産一覧表へ「記載」
されることに決定し、6月26日には正式に記
載された。記載する名称は「富士山—信仰の
対象と芸術の源泉」に決定された。

その美しい姿が名山として世界的によく知
られていたが、合わせて、古くより信仰の対
象として、また数々の芸術の源泉として、世
界に類を見ない価値が認められたのである。

少し長くなるが、推薦書から抜粋して紹介
する。

まず、「資産の境界に関する記述」として、

資産は、富士山城を中心として計25の構
成資産から成り、富士山が持つ『信仰の対
象』又は『芸術の源泉』のいずれかの性質
を表す構成資産及び構成要素の全てを包含
している。これらの構成資産及び構成要素
は、個々の性質により、「登拝・巡礼の場」
（a）馬返より上方の富士山城、山頂の信仰
遺跡群、山麓から山頂まで延びる登山道、
（b）山麓に所在する浅間神社の境内・社殿
群、御師住宅、（c）霊地・巡礼地となった
風穴・溶岩樹型・湖沼・湧水地・滝）及び
富士山城に対する代表的な「展望地点・展
望景観」に区分できる。

と記述している（『富士山 世界遺産一覧表へ
の記載推薦書』、2012年1月、日本国）。

■構成資産

先に述べたように、文化遺産としての構成
資産は、富士山城を初めとして白糸の滝、三
保松原や山中湖、河口湖といった景勝地など、
静岡県と山梨県の両県にまたがり合計25にも
及んでいる。

その中で、（b）山麓に所在する浅間神社の
境内・社殿群、御師住宅、とあるように、建
造物を主体とする資産は、富士山信仰の要で
ある各地の浅間神社と信仰登山の先達を務める
「御師」の住宅である。残念ながら「御師」の
住宅は静岡県内には現在では存続していない。
したがって、ここでは触れることはできないの
で、次に浅間神社について述べることにする。

■浅間神社

世界文化遺産の構成資産のなかで、浅間神
社関係は8社ある。静岡県では富士山の周辺
2市1町に所在する、富士山本宮浅間大社・
山宮浅間神社・村山浅間神社（富士宮市）、富
士浅間神社（小山町）、須山浅間神社（裾野
市）の5社が挙げられる。その内、山宮浅間
神社には本殿の建物は無く、富士山頂遥拝所
としての祭祀空間を有することが特筆される。

一方、山梨県では、北口本宮富士浅間神社
（富士吉田市）、富士御室浅間神社・河口浅間
神社（富士河口湖町）などがある（表1参照）。

『浅間神社の歴史』（昭和4年）によると、
浅間神社は全国に、「総計一千三百十七社を数
ふ」とあるので、当時の数を知ることができ
る。しかしその数は、必ずしも独立した神社
ばかりではなく、摂社や末社などとして勧請
された境内社も含まれていたと推測されるが、
いかに多くの浅間信仰に支えられていたか容
易に理解され、なかでも富士山本宮浅間大社
は、全国の浅間神社の総本宮として知られて
いる。

衆知のように、我が国における神社本殿の
建築形式としては、社殿前面の屋根が向拝に
まで葺き降ろされた「流造」が最も多い。
正面柱の間口数によって「一間社流造」「三間
社流造」と称される建物が圧倒的多数である。
富士浅間神社・須山浅間神社の本殿も流造形
式の本殿である。また、北口本宮富士浅間神
社本殿と富士御室浅間神社本殿を除き、山梨
県側でもやはり一間社流造である。

構成資産のなかでは、北口本宮富士浅間神
社の境内に建つ東宮本殿・西宮本殿が古く、
東宮は中世末期の永禄4（1561）年、武田信
玄が川中島合戦の戦勝を祈願して造営したこ
とが伝えられている。西宮は、東宮に替わる
本殿として約30年後の文禄3（1594）年に建
立されたもので、いずれも一間社流造の社殿
形式である。

■浅間造

富士山本宮浅間大社の本殿は、「重層」（2
階建て）という他に類のない特殊な形式を見
せている（写真1）。ところが、狩野元信に
よって16世紀前半頃に描かれたと伝えられる

表1 浅間神社関係構成資産一覧表

静岡県側

番号	名 称	所 在 地	建立時期		構造形式	指定	備 考
			和暦	西暦			
1	富士山本宮浅間大社本殿	富士宮市宮町	慶長9～11	1604～06	浅間造	国	
	同 幣殿・拝殿	同上	慶長9～11	1604～06		県	
2	山宮浅間神社	富士宮市山宮			なし		遥拝所
3	村山浅間神社	富士宮市村山	大正2?	1913			
4	富士浅間神社	小山町須走	享保3	1718	本殿流造	町	複合社殿
5	須山浅間神社	裾野市須山	文政6?	1823	三間社流造		
	同 古宮	同上	慶長16?	1611	一間社流造		旧本殿か?

山梨県側

1	北口本宮富士浅間神社本殿	富士吉田市上吉田諏訪内	元和1	1615	一間社入母屋造	国	向拝唐破風
	同 幣殿・拝殿	同上					
	同 東宮本殿	同上	永禄4	1561	一間社流造	国	
	同 西宮本殿	同上	文禄3	1594	一間社流造	国	
2	富士御室浅間神社本殿	富士河口湖町勝山	慶長17	1612	一間社入母屋造	国	向拝唐破風
3	河口浅間神社本殿	富士河口湖町河口	慶長12?	1607	一間社流造	町	向拝唐破風



写真1 富士山本宮浅間大社本殿全景

「富士曼荼羅図」(重要文化財、写真2)によると、単層(平家建て)、入母屋造、向拝付きの比較的簡素な本殿であった(写真3)。その後、天正4～6(1576～78)年にかけて武田勝頼による造営があったようであるが、武田氏滅亡に前後してそれも焼失してしまった。

徳川家康による造営が慶長9(1604)年から始まり、11年には遷宮が行なわれているので、現在の本殿の建築形式が成立したのはこの時であったと考えられる。

寛文10(1670)年、寺社奉行に提出された修理願いの絵図によると、本殿下層の軒先に

は唐破風が描かれているが(写真4)、明治から大正初期にかけて行なわれた修理工事の際に改変され、現在では見るできない。

先述のように、本殿は重層という他に類を見ない特異な姿であり、「浅間造」と称され、国の重要文化財に指定されている。

じつはこの本殿は、明治40年に遡り、当時の古社寺保存法により「特別保護建造物」に指定されていたのである。この時の官報告示によると、「浅間神社本殿 浅間造、桁行五間、梁間四間、重層」と記され、「浅間造」の語が使われている。指定に先立つ明治33



写真2 「富士曼荼羅図」(16世紀前半頃)

写真3 「富士曼荼羅図」部分詳細
(浅間大社本殿)写真4 境内絵図
(部分、浅間大社蔵)

(1900) 年11月、建築学会において、わが国建築史学界の第一人者である伊東忠太が「日本神社建築の発達」と題する講話を行ない、

最後に最も奇異なる変態的神社は駿河大宮の浅間神社であります。(中略) 実に唯一の重層社殿の例であります。これを「浅間造」と称して特に珍重している人もあります。

と述べている。

ここに初めて、「浅間造」の語が出現したのであった。造語したのは、伊東忠太その人であったことが強く推測されるのである。

本殿の下層は、桁行5間、梁間4間、^{よせむね}寄棟造、^{づくり ひわだぶき}桧皮葺。上層は、三間社流造、桧皮葺で、内部前方を外陣、後方を内陣とし、内陣の中央間のみ両開きの板唐戸を建てる。

『ふるさと静岡県文化財写真集 第1巻 建造物編』(平成3年)の浅間大社本殿の解説には、

2階神座の背面にも扉があり、開けば拝殿から本殿2階の空間部分に直接富士山を拝むことが出来るよう工夫された、浅間造(せんげんづくり)とよばれる特殊な神社建築様式である

と記される。

ところが、2階背面には扉が無く、下層背面中央に開かれた板唐戸^{いたからど}のことを間違えたものと思われる。したがって、「直接富士山を拝むこと」は不可能である。たとえ下層背面の板唐戸を開いたとしても、前面の^{しとみど}部戸を上げて開放しなければ視線は通らず、さらに拝殿からではほぼ水平の仰角となるので、無理である。加えて、浅間大社の本殿・幣殿・拝殿の軸線は正南北線上にあるが、この位置から富士山の方は約35度東へ振れており、方角の点からも扉を通して直接富士山を拝むことはできない。

また、「現在では木が茂って見えないが、本殿下層背面の扉を開けると富士山が見える」という言い伝えが神社側に残されている。しかし前述のように、富士山は浅間大社から略北東の方角に位置しているので、樹木が生い茂っていなくても、下層背面の扉から富士山

が見えるわけではない。

何故このような誤りが生じたのか不思議であるが、開かれた扉越しに霊峰富士山を遙拝したいという、里宮にいながらの願望が大衆の意識の根底にあったことも推測される。

この例に明らかなように、富士山を仰ぐ浅間信仰は、大衆に広く浸透していたものと思われる。

江戸時代末期の史料「富士本宮浅間社記」に、

社上有階、社下有池。姫神而以水徳神故也。為是神秘。

という記述が見られる。「社上有階」とは、本殿は桁行5間、梁間4間の下層の上に、三間社流造が載る形式を示したものと解釈される。次の、「社下有池」を素直に解釈すると、本殿の下に池がある、ということになるであろう。これは、主祭神の^{このはなさくやひめ}木花開耶姫命が「姫神」で、「水徳神」故であると説く。

大正14(1925)年の修理工事時に作成された各図面から、下層中央3間四方の内陣の真中に、床に伏せられたおおよそ1間角の構造体が確認される。図面では、床下に何も描かれず空白であるが、この屋根状の構造物の下方には、井戸のあることが神社側で伝えられている。すなわち、一旦火災が起これば、御神体をこの井戸に落して無事を図る、ということである。つまり、社の下に池がある、という記述には著しく反しないものと考えられる。ただし、厳密な意味からは、池ではなく井戸であろう。おそらく本殿の東方、現在の社務所の北側にある、富士山からの湧水地点に上屋を置いた、寛文10年の境内図にいうところの「水屋明神」と同様に、湧水の上部に本殿を建てて、井戸の形式で本殿床下まで達しているものと推測される。

床下には富士山に通じる「水」を導き、その上部に重層という本殿建築としては比類ない形式の社殿を設けたことによって、唯一の存在として富士山信仰の中心に位置づけられるであろう。

天正年間に、武田勝頼によって造営されたという社殿の形式については、史料の制限により残念ながら知ることはできない。

一方、慶長年間の徳川家康による現社殿の造営では、重層という形式が実現している。慶長度造営の社殿が、武田氏造営の社殿形式を踏襲したのか否か不明であるが、16世紀後半から17世紀最初期にかけての僅か30年余の間に、この特異な本殿形式が出現したのであった。

これを評価したのが、古社寺保存法によって明治40(1907)年に「特別保護建造物」指定へと導いた、当時の古社寺保存会であった。メンバーは、委員長である帝国博物館総長九鬼隆一を筆頭に、東京美術学校長の岡倉覚三(天心)や建造物担当の^{き こきよし つまきよりなか}木子清敬・妻木頼黄・伊東忠太など錚々たる顔ぶれの委員達であった。「浅間造」の本殿は、我が国文化財保護の先駆けであった委員達により、その価値が認識された建造物だったのである。

世界文化遺産登録となったコンセプト「富士山の顕著な普遍的価値」の柱は、「信仰の対象」と「芸術の源泉」であった。「信仰の対象」とは、浅間信仰に他ならない。畏敬の念を抱かせる崇高な山、その山頂に鎮座する祭神「木花開耶姫命」を崇拝する空間としての里宮、すなわち各地に祀られた浅間神社のなかでも、富士山本宮浅間大社の「浅間造」は、ひととき重要な存在であると言わなければならない。

(たてべ やすのぶ)

静岡の建築文化に見る遺産子

ブルーノ・タウトと 熱海

日向家熱海別邸保存会理事長

中井正勝

非特定営利法人 日向家熱海別邸保存会
理事長

熱海にやってきた一人のドイツ人。昭和10（1935）年、貿易商・日向利兵衛に伴われたタウトは熱海に降り立った。熱海駅から徒歩10分の丘陵地に建つ日向の別邸を訪問、案内されたのが図らずも日向が手つかずで捨て置いた地階離れであった。

この離れは前方（南）に相模灘を望む眺望、北側は斜面をカットシャーシングの上、木造2階建ての母屋（設計・渡辺仁、施工・清水組）に加え、日向の希望でクリフサイドに張り出す人工の庭園（シンダーコンクリート・ラーメン構造・陸屋根スラブ、モルタル防水）が既に完成していた。

当時の熱海は温泉宿泊施設に加え、歓楽街の観光都市として首都圏からの観光客が増加する一方で、明治21（1892）年に御用邸が建設されたのを同じくして、財閥、豪商、政治家たちが挙って別邸・別荘を建築した。（内田信也邸・起雲閣、住友別邸、岩崎家別邸、他）これらの別邸・別荘建築は熱海発展の一翼を担っていたともいえる。

日向家別邸は526軒目の別邸であり、現存するこれらの建築物の中で、タウトが設計した離れ社交室が唯一、国指定重要文化財に平成18（2006）年指定され、現在一般公開中である。

タウトが来日以来、感銘を受けた日本美の表現を集大成したのが、通称「タウトの部屋」と呼称される社交室である。日向はタウトに「夏向きの涼しげな社交室」の要求をした。

タウトは地階離れフロアーの改造を加えた実寸入りのラフ図面を作成し、7日後に提出、日向はタウトの提案を受け入れ、了承したのである。

タウトを支え協力した通信省の吉田哲郎、宮大工棟梁の佐々木嘉平、高崎の水原徳言に至ってはタウトの要求を適えるため献身的に使えたと言われている。タウトの日本美は彼らのアシストによって、またタウトの感性を込めた「タウトの部屋」が昭和11（1936）年10月に日向が希望した通りの夏向きの涼しげな社交室として完成した。

歪な躯体を一部改造、通風（夏向き）を考慮した社交室（ホワイエ・社交室・洋風客間・和室客間・日本風ベランダ）は、見る人々を不思議な空間に誘ってくれる。

「なんだこれは！」ある見学者の印象的な一言である。

離れ社交室へは、タウトが設けた母屋玄関脇の潜り戸から階段を降りる。途中から真竹の堅格子（元図・スチールドア）を透かして木々の間から相模灘が視界に入ってくる。タウトが好んだ竹が、手摺り、格子に使用されていることから、日本美の表現に期待が膨らむ。

階段ホールを設けたその先は、社交室の入り口で、竹を曲げた手摺りと半円の階段、袖壁は細竹の堅格子（スクリーン）がある。半円の階段に降り立つと「なんだこれは」と目を見張る光景が広がりを見せている。



「タウトの部屋」からの眺望

「タウトの部屋」
洋風客間から見た社交室

天井ボーダーから煤竹を吊るし、黒竹を鎖状にしたその先端には裸電球が波形状に左右2列吊られている。「京都の夜祭りの裸電球の羅列は日本風で実に素晴らしい光景だ、それには階調を感じる」タウトは記述している。(山側56個・海側49個)

ここまでのタウトの改造＝潜り戸の新設、階段の幅拡張、スチールドアへの撤去、サニタリーを階段ホールへ、仕切り壁の撤去。

社交室内装材は天井にあいじゃくり面取りされた小幅な桐の柾目が幾何学的に張られているがノンシンメトリーだ。柱型には桐の板目、腰張りは堅羽目板張りされた桐の柾目、フロアは檜の縁甲板張り、造作はチーク、イエローの磨き漆喰壁からなり、拡張した開口部には虫子付き雨戸、ガラス戸、網戸、葎障子。引き違い戸には桐の柾目を堅羽目板張り、桐材を多用しているが、ファブリックスは一切使用していない。

洋間との小壁は祇園格子として通風を考慮、家具はタウト設計のスタッキングと円形のミニテーブルが対面でセッティングされている。社交室に連続するホワイエは、垂れ壁を境に異なったデザインで表現されている。

細竹を砥草張りした二重壁にはそれぞれ、

スピーカー？、片方には観音開きの隠し戸棚があり、簡易的なワインセラーだ。タウトの設計とは異なるが、小幅な柾目の桐を放射線状に張った天井、フロアは檜の矢筈張り、入り角にはタウト設計のL字型の肘付きソファが設えてあった。

裸電球の羅列に従い洋風客間へ、色彩への拘りが際立っている。敷居・鴨居の中心から色付けされ、趣の違いを強調している。袋張りされた高崎絹は深みのある赤に染められている「タウト・マゼンダ」だ。

「私はこの色は二度と使うことはないだろう」タウトは記述している。

天井は銀白色の漆喰、コーニスのフォーコーナーに裸電球を立て、天井を照らす。南側開口部(海側)は虫子付き雨戸、ガラス折り戸、フロアは拭き漆のチークの長尺、引き違い戸は楓のベニヤ、チークの長尺を使用した階段(観覧席)の蹴上げと繰り型の形状が異なる。

隔壁を取り払った上段の間は、アールデコの部分的な断面を日本風にあしらった張り付け壁には、タウト曰く「モダンな床の間・絵画・屏風画などを入れて楽しんでほしい」。(灰色に染められた絹が貼られ、滑りガラス5枚)。

観覧席(階段)から離島・初島を望めば夜間、漁火を焚いた烏賊釣り船が数十艘浮かぶ。

上段にはタウトが設計した椅子と折り畳みのテーブルがあった。この部屋でも通風を考慮してか垂れ壁には箆欄間が設えてある。天井にはビルトインされた裸電球がただ一つ、上段は暗いが、フロア天井は照明によりキラキラ光り輝くことからタウトは宇宙・湖面(フロア)を照らすと記述している。造作は拭き漆の桧。

格式高い箆欄間は和室客間への威厳を強調するかのようだ。淡いワイン色の艶消し漆の造作は、お茶屋さんを連想させる。12畳みはイモ目敷きで差し床、天井材には桐の柾目を提案したタウトだが「この部屋だけは履物に使うような安物の材料は使わない私が神代杉を用意する」と日向に否定され、タウトの日本美は挫折した「私はこの老貿易商の仕事はしたくない」。

色彩建築家ブルーノ・タウトが残した「タウトの部屋」は訪れる人たちに、様々な問いかけをしているかのようだ。「ベートーヴェン、モーツァルト、バッハの部屋だ」準えたタウト。

(なかい まさかつ)



社交室と半円の階段



和風客間と観覧席(階段)・床の間



静岡の建築文化に見る遺伝子

支部主催建築見学会を回想して ブルーノ・タウトの 遺産

—その建築的特徴—

福田泰造建築事務所主宰

福田泰造

福田泰造建築事務所 主宰
(一社) 日本建築協会東海支部 支部長

伊勢神宮にて昨秋、第62回式年遷宮が挙行された。その伊勢神宮についてブルーノ・タウトは言う。「日本がこれまで世界に与えた一切のものの源泉、……全世界の賛美する日本の根源……」そして、桂離宮を「永遠なるものの……」と続ける。このあまりにも有名な一節は彼の著書（日本美の再発見・日本 タウトの日記1935—36年：岩波書店）に詳しい。この著書、タウトの日記・第二巻（熱海日向邸について記述）を携え熱海を訪れる。日向邸が見せてくれる建築家 ブルーノ・タウトの現代的な雅致については日向家熱海別邸保存会理事長の中井正勝先生にお任せしたい。ただ、余談として一点だけ付け加えるとしたら京都、天王山大山崎の藤井厚二の手による「聴竹居」を1933年にタウトが訪れた記録が残っていることである。タウトは「聴竹居」の部位詳細とそこから徒歩5分に位置する千利休の手によると言われる国宝、妙喜庵「待庵」の軽妙な部位の影響を受けていると思われる。また、藤井のこの実験住宅での環境に配慮した自然換気設備の設えは、自然と建築の一体化を目指した日向邸の計画プランに大いに参考となったと思われる。そして「聴竹居」から里山をしばらく行くと15分程度で安藤忠雄による大山崎山荘美術館新館に辿り着く。美術館ではモネに代表される印象派の絵画も展示されこの界隈の里山散策と文化散策も実に楽しい。

酷暑（7月31日）を忘れるためそんなことを考えながら、日向邸へ熱海らしい急勾配の坂道を息も絶え絶え歩き続けふと見上げると見覚えのある壁が屹立している。日向邸に隣接する「水・ガラス」と題した隈研吾作のゲストハウス（現在は結婚式場）である。これを懐かしい曾遊の地と思うのはTVドラマの舞

台（2002年 中谷美紀主演）であったことと、建築家、隈研吾が海と人間の一体化を探っている中、たまたま隣の家の管理人さんの声かけで入った家が太平洋の眺めと部屋が一体となった日向邸の社交室で、自然と建築の融合を目指していたタウト建築の回答を得たからかも知れない。これは東海支部特集でこれまでシリーズ化してきた「建築文化にみる遺伝子」として肯綮^{こうけい}にあたっていると思う。

タウトは京都御所、修学院離宮そして大徳寺孤蓬庵・忘筌についても天衣無縫の趣と絶賛しているが、日光東照宮や下呂、新潟の散策の感想を外国人らしく箇に衣させず罵倒している。日光に至っては「……あの野蛮なまでに浮華な社廟……」と、ここまで言わなくてもと思うくらいである。農耕民族と狩猟民族という先祖の違いであろうか罵詈も活字にすると我々日本人は気分を害するが、ナチスの迫害を逃れ日本までやってきた建築家の人生を思うと改めて平和な現代日本に感謝しなければと思う。車に揺られ、山峡をうねりながら御殿場に向かう。人生を平和の為に捧げたタウトの人生が走馬灯のように蘇る中、日米安保条約改定に奔走した岸信介が余生を送った建築家、吉田五十八の日本美が堪能できる東山田岸邸に到着する。水平垂直ラインを強調しモダニズム建築の抽象性と和風建築を融合させた吉田流数奇屋の純雅な佇まいは、公的空間と私的空間を家具調度品に至るまで見事に調和させている。吉田五十八といえば歌舞伎座を手がけたことで有名で、岡田信一郎による艶姿の流れを汲む唐破風は吉田から前述の隈研吾にまで歌舞かれ昨年春、建て替えが完了した。吉田建築（住宅）を表現する言葉を探すのに苦労するが「奥行きのある高さを持った建築」、俗っぽく表現すれば抽象



日向邸 玄関周り



日向邸 庭園

化された艶美官能空間と言い換える事ができ
ると思う。ここにも岡田信一郎、吉田五十八、
隈研吾といった三代に亘る建築家たちによる
「建築文化にみる遺伝子」の受継ぎが見られる
と思う。

旧岸邸については、もう随分前に訪れた村
野藤吾の手による佐伯邸（近畿日本鉄道名誉
会長邸）が記憶の中に見え隠れする。両者に
違いがあるとすれば、高さ空間ではないだろ
うか。これは若しかしたら建築家自身の身長
からモジュールが計算されているのかもしれ
ない。吉田数奇屋と村野数奇屋、両者に共通
して見られる融通無碍の建築は高貴のきわみ
だと思う。

日向邸同様、東山旧岸邸も話題性のある
建物と隣り合わせとなっている。あの煉羊
羹「夜の梅」や「おもかげ」で有名なとらや
工房である。建築家、内藤廣は自然の中にい
つか同化し、何れ朽ち果ててゆくような空間
を持った建築を提案した。遠景では森の木立
に埋もれ、近づくと現れる建物のシルエット
はシンプルでかつ簡素で、その出立ちは吉田

五十八の抽象性と和風建築の融合を彷彿させ
る。緩やかに湾曲した建物ファサードに連な
る庇はまるでタウトが旅した東北、青森の住
宅に沿って設けられているガンキにそっくり
だと思う。ここでは杉材のルーバー格子にボ
リカーボネートを乗せたリズムカルな軽快な
デザインであるが機能はガンキ同様雪除け庇
だと思う。建物内部は規模こそ違うが以前散
策した内藤廣の手による鳥羽の「海の博物館」
同様暖かい雰囲気を演出する小幅度張りの壁
天井が暖かく迎えてくれる。余談だが、こ
こで味わった赤飯大福とお茶はさすがに和菓子
の老舗の一品で熱海からの一日の疲れを癒す
のに一役買ってくれた。

タウトは1933年5月3日に来日し、1936
年10月15日に日本を離れ関釜連絡船で韓国に
向かった。日本での3年5ヶ月の間、精力的
に日本各地を散策し、その鋭い洞察力で各地
の建築文化を発掘し全国区に広めた。日本を
離れる前日まで詩仙堂から曼殊院を訪れ小堀
遠州との別れを惜しんでいる。そして遂に小
堀芸術を「芸術は私達が芸術と気づかぬとこ
ろにある」と悟り日本を離れた。彼独特の観
察力と洞察力こそ我々は永遠なる遺伝子とし
て後世に伝えたい。願わくば、建築家ブルー
ノ・タウトの人生を巻き込んだ戦争のない平
和な社会で次世代に遺伝子を繋げたい。

（ふくだ たいぞう）



東山旧岸邸 外観



東山旧岸邸 食堂



とらや工房 回廊



聴竹居 外観



妙喜庵「待庵」濡縁

浮遊するスロープと24m円形空間

岐阜県立希望が丘学園及び 岐阜希望が丘特別支援学校

岐阜県岐阜市

安井・サニー設計共同体

安井建築設計事務所

篠原佳則、築谷朋也、田口貴史

サニー建築設計

野辺昭造、松本健太郎、井上幸祐

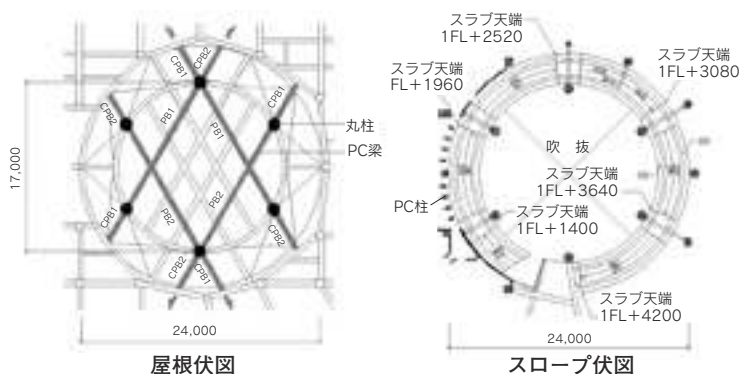
病院と特別支援学校を併設する複合施設である。2つの施設をつなぐ位置に、直径約24m高さ8mの円形空間「希望が丘ひろば」を設けている。直径17mの円周上の6本の丸柱に4本のPC梁（プレストレスト・コンクリート梁）を60°で交差させることで、ハイサイドライトを確保しながら上部の屋根を支える架構とした。屋根面の一部を本体と一体化し、地震力の大部分を本体で負担している。

丸柱の外側にはゆったりと1-2階をつなぐ屋内スロープを設け、視覚的な連続空間として認識できるようにしている。屋内スロープは2本の鉄骨梁による橋桁形状とし、内側と外側の梁の撓みが同程度となるよう梁断面を決定した。曲線スロープは必要以上に速度が出すことができないことから、日常的な安全性が高いと考えている。

「希望が丘ひろば」は病院側からの視線を遮りながらも光と気配を感じさせる空間としている。病院中庭側の高さ8mの開口部は、PCコンクリート柱とカーテンウォールにより構成し、木立をイメージした様相としている。

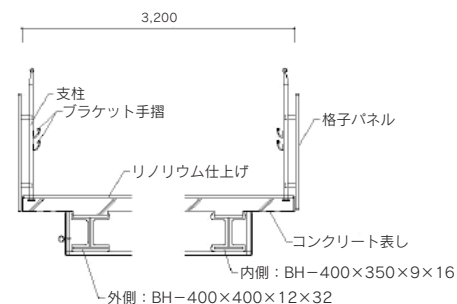


希望が丘ひろば内観



屋根伏図

スロープ伏図



円形スロープ詳細図

全体俯瞰

希望が丘ひろば



希望が丘学園（病院・医療型障害児入所施設）

岐阜希望が丘特別支援学校

「自然と向き合い音楽を学ぶ」環境をつくる構造計画

愛知県立芸術大学音楽学部校舎

愛知県長久手市

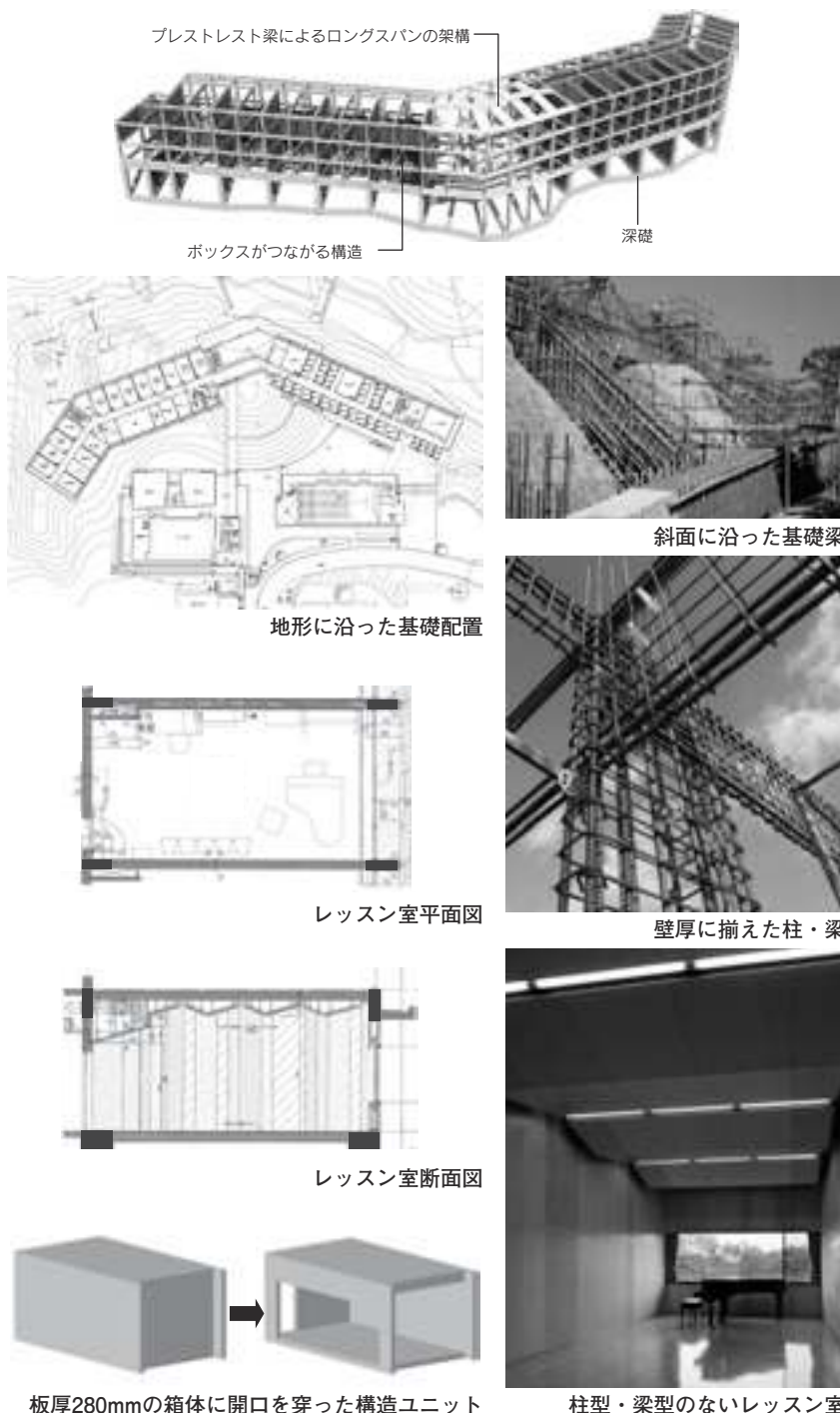
日建設計
岡田宏介・杉浦盛基



谷に向かう斜面地に配置された新校舎



ロングスパンで谷地の森に視界を開く学生ロビー



「超・低ライズ」で自然と調和するキールトラス架構・膜構造屋根 やわらぎ 森のスタジアム

愛知県豊田市

竹中工務店設計部

長谷川 寛・本多英行・浅野三男・蔦壁潤一郎

企業の創立75周年を記念し、社員とその家族の福利厚生施設として建設された、4,820席収容のスタジアムである。スタジアムの屋根を極力低くすることで、屋根のスカイラインが山並みの景観を阻害せず、スタジアムが周囲の豊かな自然と調和することを目指した。

屋根は四フッ化エチレンガラス繊維膜による膜構造とし、架構はアーチ形状のキールトラスとした。ライズ（＝高さ）に対するスパン比は約0.09であり、通常のアーチの0.2に対して半分以下の「超・低ライズ」な膜構造屋根を実現した。

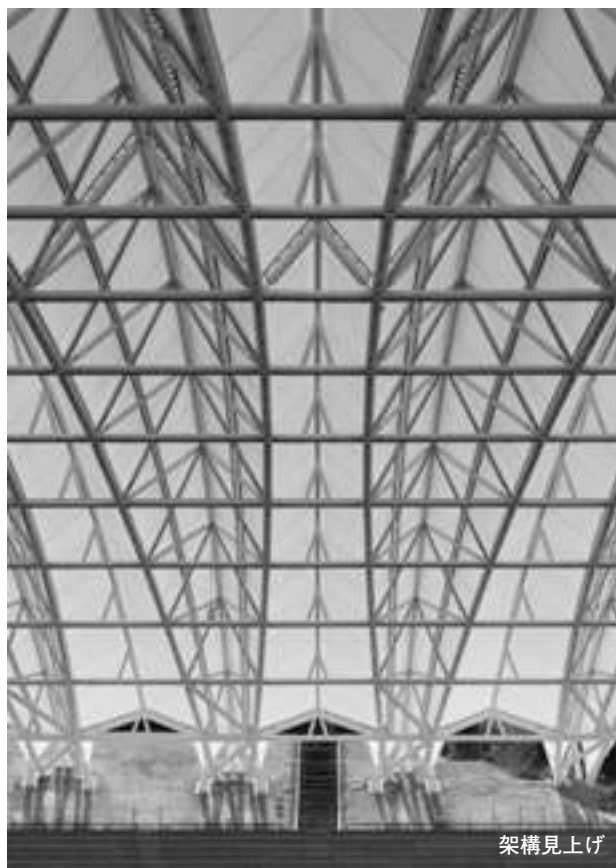
この後建物周辺は植樹を行っていく予定であり、木々に囲まれた「森のスタジアム」となる。



鳥瞰



外観



架構見上げ

「超・低ライズ」ライズスパン比 約0.09



構造架構モデル

土俵と観客席を覆う大架構

神宮相撲場上屋

三重県伊勢市

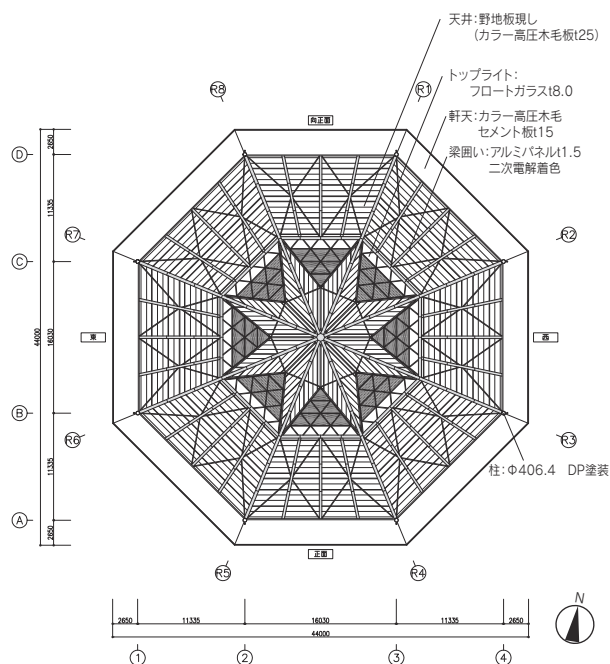
大林組 設計部
竹田昌弘・吉田悠佑

三重県伊勢市の神宮会館は、「お伊勢まいりの宿」として多くの方々に親しまれている。敷地内には、宿泊施設のほか講堂棟・神宮弓道場・神宮ばら園があり各種会合・研修・スポーツ合宿などにも利用されている。国道23号線に面した敷地の東側は国道を隔てておかげ横丁が広がり、南東には伊勢神宮内宮がある。

この度、第62回神宮式年遷宮記念事業のひとつとして建て替えられた神宮会館の相撲場上屋は、毎年大相撲の奉納相撲が行われる。既設の土俵を覆うだけの屋根を撤去、土俵と観客席部分を全て覆う八角形の大屋根とした。本来、相撲は自然光の中で行われるものであり、奉納相撲も昼間に行われるため、出来るだけ多くの自然光を取り入れられるようにトップライトを設置し、なおかつ競技が安全に行え、全体が観やすい空間とした。

屋根は、神宮にふさわしい「和」をデザインモチーフとし、3寸勾配の一文字葺き屋根を採用した。また、軒は深く、薄く納めることで八角形の美しさを際立たせるとともに、周囲の伝統的景観との調和を図った。

土俵と観客席部分は骨組がそのまま意匠として現れるような放射線状の構造形式とし、直径約42mの無柱空間を実現した。



観客席部分

小特集

ABENO REBORN



撮影：Nacasa&PartnersInc. NAKAMICHI ATSUSHI

阿倍野歩道橋

事業主：大阪市

設計：株式会社昭和設計・中央復建コンサルタンツ株式会社

施工：大日本土木株式会社・片山ストラテック株式会社

天王寺MIO

事業主：天王寺SC開発株式会社

設計：株式会社安井建築設計事務所

施工：株式会社奥村組

あべのハルカス

事業主：近畿日本鉄道株式会社

設計：株式会社竹中工務店

外観デザイン：竹中工務店＋ペリ・クラーク・ペリ・アーキテツ

施工：竹中工務店・奥村組・大林組
大日本土木・銭高組共同企業体

阿倍野歩道橋



撮影：生田将人 初出：日経コンストラクション（2013年6月10日号）



撮影：生田将人



天王寺MIO



上左：歩道橋より* 上右：夜景近景* 下左：ハルカス前からの夜景* 下中：同昼景* 下右：歩道橋より夜景**





※撮影：横山道夫（スタジオノブ） ※※安達哲仁



あべのハルカス



箕面より大阪平野のあべのハルカスを眺める



通天閣よりあべのハルカスを眺める

天王寺公園よりあべのハルカスを眺める



阿倍野地区のまちづくり

佐藤道彦／大阪市都市計画局長

四天王寺に近接し、平成24年に新世界・通天閣が100周年を迎え、平成27年には天王寺動物園が100周年を迎えるなど、歴史と文化に彩られる一方、平成26年3月に日本一の高さを誇るあべのハルカスが全面開業するなど、新しい時代にふさわしいまちへと変貌を遂げつつある阿倍野地区。

本稿では、この阿倍野地区のまちづくりの変遷と今後の展望を概観する。

■明治以降のまちの変遷

阿倍野地区が近代都市へと大きく変貌を遂げる端緒となったのは、明治36年の第五回内国勧業博覧会の開催である。大阪市では、約10万坪もの敷地を買収して博覧会会場に充てるとともに、会場アクセスとなる都市基盤の充実を図るため、梅田新道や会場に続く幅員5メートルの直線道路の新設、市内堀川の巡航船や市電の創設等を実施した。



第五回内国勧業博覧会会場正面
（『第五回内国勧業博覧会写真帳 下』
（大阪市立中央図書館所蔵）所収）

同博覧会は5カ月間で530万人の入場者を集め、盛況のうちに幕を閉じたが、その直後、大阪市会において、会場跡地の東半分を公園化、西半分は民間に委ねることを決定している。日露戦争の間は進捗をみなかったが、跡地東半分で明治42年に天王寺公園を開設し、西半分で民間事業者が明治45年に新世界・通天閣・ルナパーク等の歓楽街を整備するに至り、従前、「原野」とまでいわれた天王寺・茶臼山一帯が一転して近代都市へと変貌した。

■天王寺・阿倍野の一大ターミナル化

現在、天王寺・阿倍野は大阪の三大ターミナルの一角を担っているが、その歴史は明治22年の関西線（現JR関西線）の運輸開始に遡る。その後の主なターミナルの形成経過を列挙すると、明治28年、城東線（現JR大阪環状線）天王寺・大阪間全通。明治33年、南海天王寺支線が運輸開始し、明治36年、和歌山市と直結。明治43年、上町線（現阪堺上町線）天王寺・住吉間が運輸開始し、翌年には堺市内へ乗入れ。大正12年、近鉄南大阪線が大阪阿部野橋へ乗入れ、昭和4年、橿原神宮前まで全通。昭和4年、阪和鉄道（現JR阪和線）が運輸開始し、翌年には和歌山まで全通。昭和8年、既に高架化されていた城東線が電化され、それ以前の乗降客数が1日あたり17～18万人に達するとされていた天王寺・阿倍野ターミナルの乗降客数がさらに激増し、天王寺駅の抜本的な改造がなされた。昭和13年、地下鉄1号線（御堂筋線）が天王寺まで延伸し、梅田と直結したことから、南大阪からの通勤客が飛躍的に増加。昭和36年、JR大阪環状線が全通するに至り、天王寺・阿倍野ターミナルの鉄道ネットワークが概成している。

こうして、天王寺・阿倍野ターミナルは南大阪・奈良・和歌山方面の鉄道の要衝となり、大阪の南の玄関口として発展することとなった。

■大規模都市開発で変貌を遂げた阿倍野地区

明治以降、天王寺・阿倍野のターミナル化と歩調を合わせて、阿倍野地区も発展を続けた。

昭和13年に、大阪鉄道（後の近鉄）が大阪阿部野橋駅前に大鉄百貨店（後の近鉄百貨店阿倍野橋店）を開業し、昭和19年には、近鉄の本社機能が阿倍野地区へ移された。当該百貨店は太平洋戦争で罹災したが、復旧の後、昭和23年に再度開業し、昭和32年、昭和40年、昭和63年と増築等を繰り返した結果、当時、西日本一の売り場面積を誇る百貨店へと

成長するなど、常に阿倍野地区の商業機能の中核的機能を担い続けてきた。

このほか、阿倍野地区では、戦前から、商業施設や住宅が密集し、複合的な都市機能の集積が進んでいた。

太平洋戦争では、大阪市内の広い範囲が被災することとなり、阿倍野区に隣接する天王寺区やその西隣の浪速区は区域の大半が被災したが、阿倍野区は比較的戦災地域が限定的で、阿倍野地区でも戦災を免れた地域が比較的多かった。



大阪市における戦災地域図

このため、戦後も、阿倍野地区には戦前の街並みが比較的広範囲に残ったが、これらが自然的発展を遂げたことから、老朽木造家屋の密集や、幅員4m未満の狭小な道路や公園の不足等公共施設の脆弱さなどの課題が顕在化し、住環境の改善や防災性の向上が必要となった。加えて、天王寺・阿倍野ターミナルに近接するという立地から、土地の高度利用や都市機能の更新も求められた。

こうした状況の下、昭和44年の「都市再開発法」制定を機に、土地の高度利用や都市機能の適正配置、緑や景観への配慮を通じて、南北都市軸の強化・副都心機能を有する新たな大阪の南の玄関口の形成をめざすべく、第二種市街地再開発事業によるまちづくりに着手することとなった。



従前の阿倍野地区
(昭和53年10月)

完成し、公園3箇所は今年度中に、また、道路17路線は平成27年度末までに完成し、事業を終える予定となっている。

平成23年にグランドオープンした「あべのマーケットパーク Q's MALL」は市街地再開発事業の中核的施設であり、開業後1年間で来館者数約2,700万人、売上高約450億円と当初計画を大きく上回る成功を収めており、阿倍野地区の新たな賑わい創出に寄与している。

一方で、事業収支という点では、この再開発事業は長期に亘る事業であったことから、収支不足が約2,030億円（平成24年1月末時点試算値）に上ると見込まれており、事業効率性という課題を残した。

市街地再開発事業の他には、都市基盤の整備として、近鉄南大阪線（阿部野橋・針中野間）やJR阪和線（阿倍野区文の里4・住吉区杉本3間）の連続立体交差事業が実施され、商業開発として、天王寺ステーションビルディングにおける天王寺ミオの開業や近鉄百貨店阿倍野橋店周辺における天王寺都ホテル新館・Hoop・andの開業が挙げられるが、特筆すべきは、本年3月にグランドオープンする、日本一の高さを誇る超高層複合ビル・あべのハルカスである。

これは、近鉄阿部野橋駅及び近鉄百貨店として利用する阿部野橋ターミナルビル旧館部分の建替えに合わせ、阿倍野地区の拠点機能の強化と地域の活性化を図るため、事業者と



現在の阿倍野地区

昭和51年に、権利者の合意形成がなされたブロックから事業着手したことを皮切りに、これまで約37年に亘って事業を進め、現時点で、事業計画に基づく施設建築物29棟は全て

最高限度を1,600%（指定容積率800%）に緩和することで、商業機能の更新、オフィスの供給に加え、美術館や高質なホテル、最上階の展望台設置等、文化・交流機能が導入され、にぎわいや風格ある新たな拠点形成が図られる。また、建物1階に阿部野橋駅のコンコースとしても機能する歩行者空間や地下1階に地下鉄駅と接続する約730㎡の屋内広場の整備など鉄道ターミナルの連絡強化が図られるとともに、新設した阿倍野歩道橋に接続する建物外周のプロムナードや建物内を南北に貫く屋内通路及び地区南側へ連絡する上空通路が整備されるなど歩行者の回遊性の向上などが図られることとなっている。

■今後のまちづくりの展望

阿倍野地区については、大阪府・市の将来構想でも重要な地区に位置付けている。

「グランドデザイン・大阪」は、2050年を目標とする大阪の都市空間の姿を示すとともに、「創造的な人材が集積し、住み、働き、楽しみとなる魅力・環境を備えた大都市・大阪」という今後の方向性を広く世界に発信するものとして策定している。この中で、大阪らしいポテンシャルとストックを持つ6つの象徴的なエリアの一つとして、「なんば・天王寺・あべのエリア」を位置付けており、世界（関空）と直結し、大阪らしい食の文化とにぎわいを活かすべく、天王寺動植物公園を核として、エリア全体の魅力を高める取組みを示している。

また、「大阪都市魅力創造戦略」は、2012～2015年度を計画期間とし、「民が主役、行政はサポート役」との基本的な考えの下、世界が憧れる都市魅力を創造し、世界中から人、モノ、投資等と呼び込むことを目的として策定している。この中で、「天王寺・阿倍野地区」では動物園を核としてエリア形成を図り、集客力を強化することとしており、他の地区での取組みと一体となって、世界第一級の文化観光拠点の形成をめざすこととしている。

こうした大阪府・市の将来構想を踏まえた当面の課題は、天王寺動植物公園の魅力向上である。公園の一部エリアにおいて、新たに民間活力を導入し、魅力向上を図るとともに、近隣エリアとの連携を推進することで、天王寺・阿倍野地区としての集客力向上を図ろうとするものである。具体には、動物園100周年

を念頭に、民間事業者を公募し、公園エントランスを中心に賑わい創出事業を実施し、天王寺駅からの賑わいを連続させ、さらに動物園・美術館への期待と余韻を高める空間として、多目的に活用することや、市立美術館について、本館の改修や新棟（サービスWING）の建設により魅力を向上させ、公園入場者数の倍増をめざしている。

加えて、阪堺電気軌道についても、大阪市内の軌道面の不陸を整正し、LRTを含む低床型車両の天王寺・阿倍野への乗り入れを今春に実現するとともに、これを契機として、地域団体によるタウンマネジメントが進展することが期待される。

■おわりに

阿倍野地区は、天王寺動植物公園を始め、新世界や四天王寺等、歴史・文化に彩られた特色あるエリアであり、また、明治20年代に始まった鉄道ネットワークの充実の中で大阪の三大ターミナルの一角を担うまでに発展したエリアである。

そして、一大ターミナルにふさわしい土地の高度利用や都市機能の更新を、都市基盤の整備や大規模な都市開発によって成し遂げるにより、関空とも直結した大阪南部都市圏の拠点となった。

これら、長年の歴史の中で育んできた阿倍野地区の地域特性に立脚しながら、職住近接型のコンパクトシティの先進的エリアとして、民間活力を活かしつつ、都市魅力に富んだまちづくりを進めていきたい。

現在の阿倍野地区

〔参考文献〕
大阪府計画局『大阪のまちづくり 一きょう・今日・あすー』平成3年
国土交通省鉄道局監修『平成24年度鉄道要覧』平成24年
天王寺区創立三十周年記念事業委員会『天王寺区史』昭和30年
阿倍野区市域編入三十周年記念事業委員会『阿倍野区史』昭和31年
大阪府総務局『大阪市政九十年の歩み』昭和54年



現在の阿倍野地区

93

一日が、街が、アクティビティが、 阿倍野からはじまる“はじまりの「a」”

久保岳・三木正行／(株)昭和設計＋坪村健二・森彩／中央復建コンサルタンツ(株)

■はじまり

大阪市の天王寺・あべのターミナル駅周辺では、大阪南の玄関口として、大規模な再開発事業が進められていた。その中心に位置する阿倍野歩道橋は、昭和40年、充実した鉄道網を背景に賑わいを増した当地に開通して以来、阿倍野の象徴的な歩行者動線として親しまれてきた。しかしながら、再開発事業に伴う道路拡幅により既設の階段や橋脚が支障となること、桁下高さが現行道路構造令に適していないこと、歩道橋通路内に段差があること、完成後45年が経過していることなどの理由で架け替えられることとなった。

架替計画にあたり、

- ①大阪南の玄関口にふさわしい新たなランドマーク創設
- ②ターミナル周辺の「にぎわい空間」を創出
- ③楽しく快適に移動できる交通バリアフリーといったテーマで、公募型のデザイン・設計コンペが行われた。

中央復建コンサルタンツが構造設計を担い、昭和設計が意匠設計を担う設計チームを組成

し、「楽しさ体感ゾーンの提供」「用・強・美が互換しあうデザイン」をコンセプトに、阿倍野の頭文字であり、はじまりの文字であるアルファベットの「a」をかたちづくる歩道橋を提案し、平成25年4月全面開通を迎えた。

■「ヒト」が主役のみちづくり

＜歩くことの楽しさを感じるみちづくり＞

阿倍野の交差点を南に進むと、熊野詣の九十九王子のひとつとされた阿倍王子神社が現存し、かつて熊野詣に向かう旅人で賑わう街道が発達していた。その中心に、歩くことの楽しさを感じられる、ヒトが主役のみちを創ることで、歩行者が阿倍野の街の魅力を体感できる計画を目指した。

限られた桁高さの中で40mというスパンを実現するためにトラス構造を採用し、トラスの上弦材を利用して膜構造の屋根を設けた。歩道の曲線形状と、様々な高さに設定した上弦材の支点により、変化に富んだ空間を実現している。また斜材には発生断面力に応じた3パターンの太さの鋼管と高張力鋼棒を組み

合わせ、部材自体にも多様性を持たせた。

変貌する阿倍野の街並み、天王寺公園の豊かな緑、往来する人・車・列車、それらを多様に变化する構造フレームが風景に切り抜き、歩くことによってシークエンスとして展開する。移動手段にとどまらない「歩く」ことの魅力、それはそのまま阿倍野の街の魅力向上につながると思っている。(写真1、2、3)

＜行きたい所にすぐ行ける動線計画＞

天王寺駅では一日80万人の乗降客が行き交う。多くの人が活動を始める場所として利便性を第一に考え、「行きたい所にすぐいける」動線計画を模索した。歩行経路ごとの交通量を幅員に置き換え、主要な経路を滑らかにつ



図1 歩行交通量を基にした動線計画



写真1 アルファベットの「a」を描く歩道橋図



写真2 歩行者でにぎわう歩道橋



写真3 景色を楽しむ歩行者

なぐことで、交差点上に個性的でありながら機能性に富む「a」の文字を導き出した。(図1) <快適な歩行環境の実現>

建設地の交差点は、道路内に橋脚を設置できないこと、ビル接続のため橋面から道路の建築限界までの高さに余裕が無いことから、厳しい桁高制限(桁高/支間=1/40)の中で支間40mを跨ぐ必要性があった。このような条件下で、揺れにくい快適な歩行環境を実現する剛性の高い構造体を目指し、鋼床版と下弦材を一体化した鋼トラス桁を採用した。(図2)

複雑な構造の曲線トラス桁であるため、詳細なモデル化が可能となる3次元立体解析を実施して、断面力および変形に対する設計を行った。立体骨組モデルによる固有値解析結果から、使用性に影響がある鉛直方向の卓越振動数は1次モードの振動数1.285Hzと考えられ、利用者が一般的に不快に感じる目安である1.5Hz~2.3Hzの範囲外であるため、設計上使用性には問題ないと判断した。

完成後に、振動特性を把握する目的で常時微動計測、人力加振・共振・群集歩行による振動計測を実施した。分析結果から卓越周波数として2.00Hz、減衰定数0.015が得られた。

標準設計タイプ横断歩道橋の減衰定数0.002~0.005を考慮すると、本橋の減衰定数は一桁大きく、揺れが減衰しやすい歩道橋であると言える。固有振動数は2.0Hzであり歩行者の歩調に近く共振しやすい特徴を持つが、これは従来型の歩道橋に対する評価基準であり、本

橋では一般的な歩道橋よりもはるかに大きい減衰定数を有するため、一般歩行や群衆歩行でも振動を感じないという「揺れにくく、振動使用性を十分満足する歩道橋」であることが分かった。設計者による解析・検討と、施工者による完成後の計測・検証により、利用者にとって快適な歩行環境が実現された。

■ヒトと都市を融和するスケールデザイン

建設地は、自動車交通の激しい交差点上にあり、再開発ビル・JR天王寺駅に加え計画中の高さ300mに及ぶあべのハルカス、といった巨大なスケールに囲まれた場所であった。歩行者と街の親密度を上げるため、ヒトと都市を融和させるスケールデザインが必要と考えた。歩道空間は、異なる傾斜面を持つ20m程度の三角形に分割した屋根とトラスの斜材に囲まれることで、適度に分節されることを意図した。歩行者が構造物越しに街を見ることが、自らと都市のスケールを相対化して捉えられる、ヒトと街を繋げる空間になった。

遠景では、起伏のある膜屋根がシームレスに連続する姿が視認できる。屋根を支える部材を歩道橋自体の骨組みであるトラス構造とすることで、屋根と橋とは同一ボリュームとして認識される。交差点に一塊りの造形物として存在するような形態により、圧倒的な都市のスケールと歩道橋とが調和した、阿倍野の新しい街並みが形成されたと考えている。(写真4)

■光を伝え、光を発する、

「ヒトと街のあかり」づくり

雨天の歩行者利便性を考慮し、提案の初期段階から屋根の設置を前提に計画を進めていた。屋根によって歩道面が暗く感じられないこと、夜間平均100ルクスという歩道面の要求照度を実現するために適切な素材を検討した。また、周辺の建物から見下ろされるシチュエーションを考慮し、歩道橋が夜景に浮かび上がるような照明計画を目指した。光を透過・反射し、また材料内部で乱反射することで「素材面が明るくなる」膜材を屋根に採用し、ペンダントライトによって歩道面と同時に軒面を照らす計画とした。一日を通して、歩道面の実用的な照度と軒裏が明るくなることによる「明るさ感」が獲得され、夜には、暖かな光を孕んだ「街のあかり」として交差点に浮かび上がっている。(写真5、6)

所在地：大阪市阿倍野区阿倍野筋一丁目地内
事業主：大阪市
設計：(株)昭和設計・中央復建コンサルタンツ(株)
施工：大日本土木(株)・片山ストラテック(株)



写真5 歩道面と屋根を照らす照明



写真4 交差点北側からの景観



写真6 暖かな光を孕んだ歩道橋



図2 全体平面図と上部工断面図

天王寺MIOのリニューアル

「商業施設のメディアファサード活用・巨大ウォールアートの誕生」

守安聡司／天王寺SC開発㈱＋設楽貞樹／㈱安井建築設計事務所＋安達哲仁／㈱アキト

■天王寺ステーションビルと天王寺ターミナルビルの統合

JR天王寺駅には二つの駅ビルがあった。1062年（昭和37）完成の天王寺民衆駅の流れを継承する天王寺ステーションビルと、1995年（平成7）に完成した天王寺ターミナルビル（MIO）である。これら二つの駅ビルがJR西日本関連会社の方針により一つに統合され、2011年（平成23）に新しく「天王寺MIO」として再スタートを切った。それぞれ、天王寺ターミナルビルの方は「MIO本館」、天王寺ステーションビルの方は「MIOプラザ館」と称されるようになった。これらMIO本館とMIOプラザ館は阿倍野の交差点に面して、L型に配置されており、南西角の部分でつながっている。

経営の一体化を契機に、また2014年春予定される「あべのハルカス」グランドオープンによる天王寺・阿倍野地区全体の集客力向上を見越して、天王寺MIOはテナント配置の根本的見直しを含む全面リニューアルを計画した。その中には外観上も別のビルであった二つの駅ビルをつなぐ形で、統合したビルの印象を生み出す工夫も含まれていた。

2012年（平成24）に実施された簡易プロポーザルにより、両駅ビルの原設計者である安井建築設計事務所が特定され設計にあたった。

■むすぶ・ひらく

安井の提案のキーワードは「むすぶ・ひらく」であった。

「むすぶ」とは文字通り、二つの駅ビルを結びつけ、ひとつの商業施設「天王寺MIO」として統合することを表現している。「ひらく」とは、“まち”にひらくということを表している。

新しい歩道橋の整備をはじめハルカスのオープンに間近に、人の流動が急速に増えつつある阿倍野交差点に面した天王寺MIOは、

その存在感をまちな行く人々にアピールし、まちと一体で賑わいを発信する必要があると考えての提案であった。具体的には、プラザ館の南西角外壁面を改修しMIO本館まで連続する壁面を作り上げ、昼間は織り柄のようなカーテンウォールデザインでふたつのビルをむすぶ一体感を表現し、夜間はLEDのディスプレイで賑わいを発信して、まちにひらいた印象を創生する計画の提案であった。

実現に向けては、窓としての機能とディスプレイ機能を両立させるためのディテールの検討や、メンテナンスの問題等々、ハードとしての技術的課題ばかりでなく、本邦初の大面積ディスプレイであるため、広告とみなされない、あるいは交差点障害とならない要件等々の行政協議など、コンテンツに絡むソフト上の課題等も次々と現われ、関係者を悩ませた。

それらの諸課題をクリアして、改修された壁面が完成したのは、昨年3月のことであった。完成後は、新しい歩道橋上の色々な場所から、あるいは道路の各方面からこの壁面を見ることができ、特に夜間は動きのあるディスプレイが、まちにビビッドな動きと、華やかさを与えていることが見て取れるとの評価を得ている。

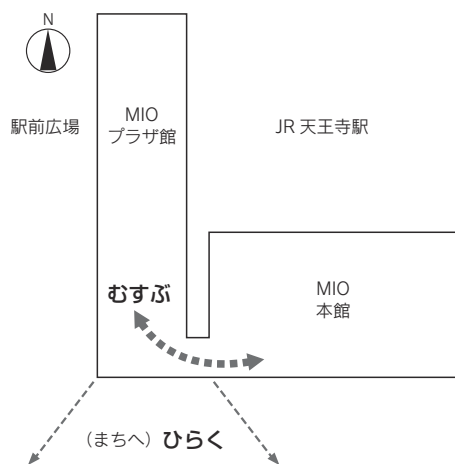


図 むすぶ・ひらく

■実現化へ向けて

提案を具現化するにあたり、「表示する映像コンテンツ・ソフトの課題」と「LED表示装置仕様等・ハードの課題」の二つの課題があった。

二つの課題については、海外施設で新たな潮流となっている「Media Facade（メディアファサード）」の先進的事例を参考に検討を行った。「Media Facade（メディアファサード）」とは、施設の正面外観（ファサード）の大きな面積とメディア表示装置が融合し、表示されるコンテンツと一体となった表現手法である。この手法により、変形不可能な建物の限界を超えた視覚・空間の芸術分野、すなわちデジタルアートやメディアアートの巨大なメディアキャンバスとして活用できる建物となっている。

この昼夜の顔を大きく変える事例施設として、ソウル市のソウル駅及び旧ソウル駅の向かいのビル（名称・Seoul Square）の正面壁に設置された表示装置がある。およそ横100m×縦90mの壁面全てが、夜間には巨大なLEDディスプレイ＝メディアキャンバスと化し、アート映像等のコンテンツを表示している。（※ソウル駅の旧駅舎は辰野金吾の後輩にあたる塚本靖の設計で1925年に竣工し、2003年の現駅舎竣工後は文化財として保存されている。）

また、同市内のサムソン本社に隣接するショールーム「Samsung d'light（サムスン ディライト）」の正面壁にも装備されている。昼間はカーテンウォールデザインで、夜間はおおよそ横36m×縦13.5mの壁面にアート映像コンテンツを表示し、施設のコンセプトを特徴づけている。

これら事例をはじめ各種の表示装置を検証し、MIOのコンセプトを打ち出せる、映像コンテンツと表現方法、設置環境、規模、訴求効果など踏まえ、仕様の検討を行った。

■具体的な課題と解決手法

1：外壁構造による装置の重量制限と屋外エリア箇所の風圧対策の課題

- ・建物構造の補強が困難なため、設置する表示装置の軽量化が求められた。
- ・屋外設置エリアの構造補強に限度があり、風圧軽減可能な設置手法や装置が求められた。

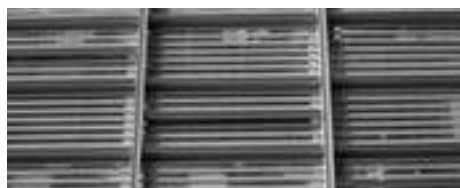
この二つの課題を解決する手法として、バー形状の引き抜きアルミケース構成による表示部と電源部を分離・別設置とする表示システムを考案した。バー形状の表示機器を8本単位ですだれ形状に配列取り付けしたユニットを構成することで、大型表示装置となるよう設計した。このことで、50kg/m²程度の重量になる一般的なLED表示装置を、約20kg/m²へと軽量化が図れ、同時にユニットのスリム化から開口率65%を確保することができ、風圧軽減も実現した。

2：表示領域規模の確保及び表現力とメンテナンス整備費の課題

本事業は横34m×縦13mの巨大なディスプレイ面積で、その規模に必要な以上の解像度（表示の精細な能力）を求めると、費用対効果が悪くなるので詳細に検討した

求められる装置の仕様を、表示される映像コンテンツが定まっていない段階での検討と仕様決定は、大きな課題であった。視認エリアまでの視野距離と表示規模からいくつかの仕様やLEDピッチ（LED表示素子の間隔）を設定し、納入するバー形状と同等機器を、施主も交え視認しながらの解像度比較実験を行った。

結果、想定する視野距離と動画コンテンツクオリティは70mmピッチで表現可能と確認し、横70mm×縦100mm仕様を設定した。



カーテンウォール内側に100mmピッチで並べられたLEDバー

3：メンテナンス性向上の課題

表示エリア34m×13m、総本数2760本に及ぶLED-Barのメンテナンスを少人数でしかも

費用を抑えた設置手法が求められた。

設備機器である以上、メンテナンスや機器交換などの作業は必ず必要となり、その度に大勢の人員を割いて費用がかかるようでは実用的とはいえない。

カーテンウォール内に映像装置を設置する場合、視認性を考慮すれば可能な限りガラス面に近い方が良いが、反面メンテナンス時にはガラス面から離れないと作業しづらい。その為には本事業ではLED-Barを8本単位にユニット化し、各ユニットをスライドレールに取り付けて前後に移動出来るような設置方法を採用した。そうすることでLED-Bar交換などの場合でも少人数での作業が可能になり、作業性、経済性が両立でき大きなメリットを得た。

また、フェイルセーフの考えをとり入れ、映像再生装置が故障した場合でも速やかに復旧可能なように2台の映像再生装置を同時に起動するシステムとした。これはメイン映像再生装置が故障した場合、映像出力無信号を検知し自動的にサブ映像再生装置に切り替わる事で、映像送出事故を未然に防ぐ役割を果たしている。

4：映像コンテンツ制作の課題

装置としては施設壁面の表示領域は巨大な規模であること、画面の縦横比（アスペクト比）においても通常のテレビ画面角比では無く、画素数の違い、画素ピッチ（1：1ではない）も違うため、映像表現や制作には新たな発想が求められた。また、音声が使えないうえ、公共空間での表現のため、激しい明滅は出来ない、輝度は高くできない等、行政からの表示制約も課題となった。

これらの課題の解決、特に仕様解像度と視認性においてもインパクトを求めるにあたり、動画による表現を最大限活用したコンテンツ制作とした。

その動画コンテンツのテーマ課題として以下が挙げられた。

- ・本計画の求めるコンセプトとどのように合致させるか。
- ・季節感を出すための、月毎のコンテンツ変更を行いたい。

これら制作上の課題を解決するために、装置の特性を熟知し、コンテンツを多様なスタイ

ルで制作するチームを構成・監修出来る映像プロデューサーを起用することにした。

■巨大ウォールアートの誕生

施設が目指す方向性は、「上質」を本館とプラザ館の共通キーワードとし、本館は「大人」をターゲットとしたファッションビル、プラザ館は幅広い層に支持される「ライフスタイル」型のショッピングセンター、すなわち「売るだけではなく、新しい流れを創るSCへ」としている。その方向性を発信していく仕掛けとして、ハードとソフトの課題を解決し、表現装置は完成した。

天王寺・阿倍野エリアの中心に位置する天王寺MIOは、ファッションビルとしてのブランディングとエリアにおける文化発信を目的としている。その目的から、時報及びMIO PHOTO OSAKAなど西日本初の写真公募展を長年継続しているMIOのアートの流れを継承しつつ、「ファッション×季節」をコンセプトに、アート映像主体の「巨大ウォールアート」として産声をあげることとなった。

アート映像の制作監修は、将来の地元産学連携も視野に大阪芸術大学の講師で、エヴァンゲリオン等を手がけた株式会社ガイナックス統括プロデューサーでもあるアサオヨシノリ氏を制作プロデューサーに起用し、オリジナルのアート映像を制作・放映することとなった。

現在夕方6時から10時まで放映している。またメインテーマコンテンツの映像2本を毎月入れ替える事で、飽きさせず、1年を通して季節感あるアーティスティックな映像から、見るものを幸せな気分させている。

天王寺MIO

所在地：大阪市天王寺区悲田院町10-48

建築主：天王寺SC開発㈱

設計：㈱安井建築設計事務所

施工：㈱奥村組



あべのハルカス

高さ300m。

超高層複合ビルの企画経緯と

都市再生貢献によるまちの活性化

橋岡佳令／株式会社竹中工務店



写真1 大阪を代表する観光地通天閣からみたあべのハルカス。手前は天王寺動植物園。あべの・天王寺エリアにおけるさらなる観光集客が期待される。

■あべのハルカスの企画経緯

・乗降客数約75万人のポテンシャル

計画地のあべの・天王寺ターミナルは乗降客数約75万人で、大阪市内で梅田、難波の両ターミナルに次ぐ第3位のターミナルであるが、ハルカス企画当初の2006年頃は大通り沿いこそにぎわいがあるものの、駅から少し離れたと人通りがまばらになる状態で、ターミナルポテンシャルから考えるとまだまだにぎわいの広がり余地があるように思われた。

・梅田シフトに対抗する二つの「日本一」

一方梅田エリアでは、都市再生特別地区(特区)制度を適用した開発計画が次々と動き出していて、大阪市内のエリア間競争におけるさらなる「梅田シフト」が濃厚となっていた。この動きに強い危機感を持った近鉄および近鉄百貨店は、百貨店の建替え増床による対抗を決意した。

英断であったのは、地力に勝る梅田エリアに対抗するべく、高さ300m、広さ10万㎡(百貨店売場面積)という二つの「日本一」を目指すという、目標を大きく飛躍させたことである。

■都市再生コンセプトと貢献メニュー

・あべの「街」力を向上させる

開発計画本部では、この「2つの日本一」というテーマを実現させるため、基準容積率800%を1600%へ2倍に緩和するという難易度の高い特区適用に全力を投入した。

まずコンセプトについてはハルカスが実現する高さ日本一によるトップダウン的なPR効果、そして広さ日本一というボトムアップ的な波及効果をまちに広げて、あべの「街」の地力を向上させるというテーマをコンセプトの中核に据え、それに必要な4つの貢献メニューの具体化に取り組んだ。(図1)

・機能貢献

機能貢献では展望台および美術館は集客の目玉として期待される一方、オフィスは当時の市場調査から貸床4,000坪が限度とされ、企画中の貸床1万坪以上というボリュームは過大ではないかとの指摘があった。そこでさらに魅力あるオフィスとするため、企画型のフロアの充実を図り、国内最大級のメディカルフロアや複数の大学によるサテライトキャンパ

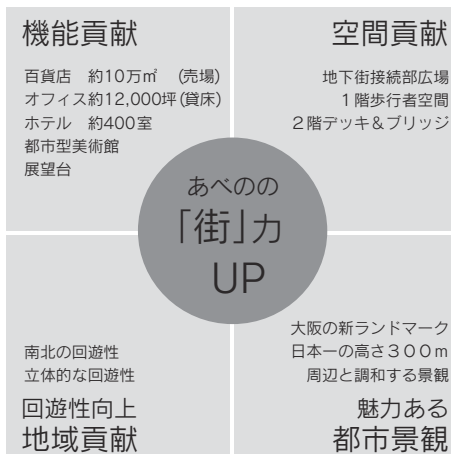


図1 あべのハルカスのコンセプト(特区要請時)

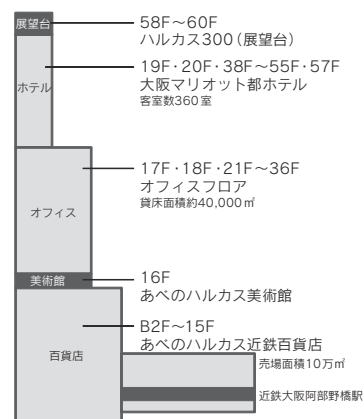


図2 あべのハルカスの用途構成

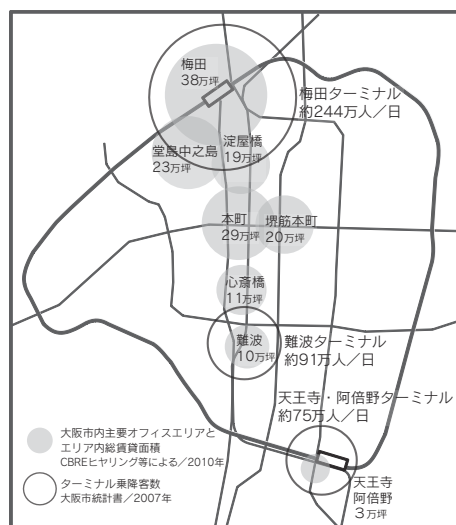


図3 大阪市内の主要ターミナルと主要オフィス立地エリアのポテンシャル比較。天王寺・阿倍野エリアは乗降客ポテンシャルに対し、オフィス市場がかなり控えめであった。

スフロア、オフィスサポート機能の導入を支援した。その結果、開業時点で約12,000坪が9割を超える稼働となり、あべののオフィス立地としての可能性を示すこととなった。(図3)

・空間貢献/地域貢献

ハルカスの企画段階ではあべのキューズモールや阿倍野歩道橋架け替えなど、既に多くの周辺プロジェクトが動き出していたため、それらと連携した歩行者ネットワークを構築することに腐心した。その結果、非常に余地の少ない計画地ながら、地下1階、地上1階、2階の3層にわたる歩行者空間、コンコース移設、デッキやブリッジなど多数の地域貢献要素を組み込むことができた。(写真4、5、6)

この立体的なネットワーク整備により、JRや地下鉄からの乗降客があべのキューズモールやあべのHOOPへ行く回遊動線が非常にスムーズになった。また既存のHOOP前広場が、これまで以上にまちの回遊の中心的な場所としての地位を高めつつあり、今後あべのエリアがさらなる「ランプリングエリア」として発展することが期待される。(図4)

・都市景観

冒頭カラーグラビアページのように、ハルカスは梅田エリアの超高層ビル群と比べても飛びぬけて高いランドマークとなっている。これは大阪都心部のほぼ全域に大阪国際空港の航空制限がかかっているのに対し、2007年の規制緩和によりあべのはぎりぎり制限が外れたためである。大阪平野のどこからでも見えるということは、常にあべのの位置をPRしているようなものであり、都市スケールのエリアプロモーションとなっている。

■さらなるあべのの発展に期待

企画当初の戦略的な目標設定と、その後のブレない開発推進により、まったくの0スタートからわずか7年半で300m・20万㎡の超高層複合ビルの完成を迎えた。しかしあべの・天王寺エリアはまだまだ発展の余地があり、あべのらしいまちづくりを継続させることが重要である。そしてこのような各ターミナルエリアの切磋琢磨が、大阪全体としてもさらなる活性化につながると確信する。



写真2 従前の近鉄阿部野橋ターミナル



写真4 新たに整備された阿部野橋駅コンコース



写真3 建替後のあべのハルカス



写真5 地下1階地下接続部「時計の広場」



写真6 あべのハルカスからの新設ブリッジ&ESC (写真右側) が新たなにぎわい回遊を生み出す。

あべのハルカス

事業主：近畿日本鉄道株式会社
所在地：大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43
敷地面積：約28,700㎡
延床面積：約212,000㎡ (タワー館部分)
階数：地下5階、地上60階
高さ：地上300m
設計・監理：竹中工務店
外観デザイン：竹中工務店+ペリ・クラーク・ペリ・アーキテクト
施工：竹中工務店・奥村組・大林組・大日本土木・銭高組共同企業体



図4 新たに整備された施設とネットワーク
ハルカスによって整備された回遊動線が、周辺の結節点どうしのつながりを強化し、まちの回遊性の広がり貢献している。

昇降機の地震対策 について

山本聡志

国土交通省住宅局建築指導課動力・設備係長

背景

国土交通省では、平成23年に発生した東日本大震災において、ショッピングセンターに設置されていたエスカレーターが脱落する事案が複数生じたことを踏まえ、エスカレーターの地震に対する脱落対策を検討し、平成24年7月に「エスカレーターの落下対策試案」をとりまとめた。

この試案への意見募集の後、国土技術政策総合研究所でさらなる技術的検討を行い、エスカレーターが地震その他の震動により脱落するおそれがない構造方法の技術基準を規定するため、改正政省令を平成25年7月12日に、平成25年10月29日に告示をそれぞれ公布した。平成26年4月1日から施行する。

また、エレベーターについても、東日本大震災においてガイドレールの変形や釣合おもりが脱落するなどの事案が確認されたことから、同じく政省令告示を改正し、地震に対する安全性の確認に係る技術基準を規定した。

技術基準の概要

■エスカレーターの脱落防止対策

今回新たに規定された建築基準法施行令（以下「令」という。）第129条の12第1項第6号では、エスカレーターを地震その他の震動によって脱落するおそれがない構造方法として、国土交通大臣が定める構造方法または国土交通大臣の認定を受けたものとする事が規定されている。

国土交通大臣が定める構造方法は、平成25年国土交通省告示第1046号において規定されており、エスカレーターが床または地盤に自立する構造である場合等を除いて、同告示第一または第二に規定する構造方法とする必要がある。

同告示において規定する構造方法に該当しない場合は、国土交通大臣の認定を受けることとなる。

（1）かかり代長さの確保

同告示第一では、エスカレーターの端部の支持部材が、地震により当該支持部分を支持する建築物のはりその他の堅固な部分から脱落しないようにするために、エスカレーターの水平投影の長辺方向について、支持部材の「かかり代長さ」に係る基準等が定められている。

かかり代は、大規模地震時を想定した建築物の層間変位（令第82条の2の規定による層間変形角の5倍に基づき算出したもの等）が生じた場合に、エスカレーターの端部の支持部材が建築物のはり等から脱落しないための長さが必要となる。

エスカレーターが長辺方向の層間変位によって建築物のはり等と衝突することにより圧縮力を受ける場合は、エスカレーターのトラスまたは、はりに安全上支障となる変形を生じないことを実験により確かめた上で、トラス等の変形を考慮したかかり代長さとしなければならない。

この他、エスカレーターの端部の支持部材を建築物のはり等に固定する場合、固定部分の強度を確かめることやエスカレーターの水平投影の短辺方向の層間変位に対して、建築物のはり等に衝突しないこと等を定めた。

（2）かかり代によらない脱落防止措置

同告示第二では、端部のかかり代によらない「脱落防止措置」を講ずる構造方法が規定されている。

脱落防止措置については、大規模地震時にエスカレーターの端部の支持部材が建築物のはり等から外れた場合に、脱落防止措置によりエスカレーターを落下させずに支持できることが必要となる。

また、脱落防止措置に用いる支持部材は、釣合い良く配置し、エスカレーターが脱落防止措置に用いる支持部材上をしゅう動する場合は、大規模地震による層間変位に対して所定のかかり代長さを設けなければならない。

端部のかかり代については、この場合においても、地震により生ずる建築物の層間変形角を1/100以上として層間変位を算定した長さが必要となる。

この他、同告示第一に定めるかかり代長さに関する規定以外の規定に適合する必要がある。

■エレベーターの安全性を構造計算で確認

エレベーターの主要な支持部分について、これまで令第129条の4第1項第2号に基づく強度検証法等により常時および安全装置作動時の強度の検証が行われてきたが、地震に対する検証は行われていなかった。

東日本大震災では、主要な支持部分である

エレベーターのガイドレールが地震により変形する事案が確認されたことから、令第129条の4第3項第6号において、主要な支持部分に対して地震に対する構造耐力上の安全性を構造計算により確認することが規定された。

エレベーターの主要な支持部分は、所定の地震力により、部材に生ずる応力度が許容応力度を超えないことを確かめる必要がある。具体的な計算方法は、平成25年国土交通省告示第1047号に規定されている。

■エレベーター釣合おもりの脱落防止対策

エレベーターの釣合おもりについては、東日本大震災において脱落する事案が生じたため、令第129条の4第3項第5号で、地震に対して脱落するおそれがない構造方法とすることが規定された。

具体的な構造方法は、告示第1048号で規定されている。

釣合おもりの構造は、原則釣合おもりの枠および釣合おもり片により構成されているものとした。

釣合おもりの枠が所定の地震力を受けた場合に、部材に生ずる応力度が許容応力度を超えないこと、また、釣合おもりのたて枠に生ずるたわみによって、釣合おもり片が釣合おもりの枠から外れないことを確かめる必要がある。

なお、釣合おもりの枠および釣合おもり片により構成する構造の釣合おもりでない場合については、実験により地震に対する安全性を確認する必要がある。

既設昇降機への適用

建築物の増築等を行う場合、令第137条の2に基づき既存建築物に設置しているエレベーターおよびエスカレーターに対して、今回規定した昇降機の地震対策に係る規定を含めた昇降機に係る構造耐力に関する規定が適用される。

具体的には、平成17年国土交通省告示第566号において規定されている。

おわりに

大規模地震の発生に備え、昇降機の地震に対する脱落対策等の徹底および既設昇降機の改修等の促進について、関係各位のご協力をお願いしたい。

（やまもと さとし）

●山本聡志

1982年生まれ。神戸大学大学院自然科学研究科建設学専攻博士課程前期課程修了。

フラットバーとガラスブロックによる透明なハイブリッド構造体

爰野将児

株式会社竹中工務店 大阪本店設計部

旧桜宮公会堂（写真1）は1935年に明治天皇記念館として建設された日本で最も古い洋館の一つであり、1956年に正面玄関（1871年に建設された造幣局の金銀貨幣鑄造所正面玄関を移築保存したもの）が国の重要文化財に指定されるなど、歴史的・文化的にも非常に価値の高い建築物である。本プロジェクトは、1984～2007年に学校教育の振興施設として利用された後、閉鎖状態になっていた旧桜宮公会堂を整備し、結婚式場として活用する計画である。

建築計画概要

本計画では1階を講堂からバンケットに、2階を陳列室からチャペルに改修した。1階は、復元等により既存仕上を活かした内装改修を行い、2階については屋上のトプライトからの自然光を利用した華やかな空間の創出を意図して、壁・床・天井の6面ともガラスブロックで構成された幅8.0m×奥行き13.4m×高さ3.6mのボックス型のチャペルを挿入する計画とした。

チャペルの構造計画概要

2階に新設するチャペルについては、内側からも外側からも「構造体」の存在を感じさせない、ガラスブロックの透明な面だけで構成されたチャペルを実現することが求められた（写真2）。



写真1 旧桜宮公会堂外観



写真2 チャペル（左：内観、右：外観）

このガラスブロックチャペルの構築にあたっては、ガラスブロック3個で構成される厚さ80mmのガラスブロックユニット（図1）を用いることとし、約600mmピッチで配置したフラットバー（図2）にビスを用いて留めつけることとした。フラットバーは目地内に隠れるサイズ（65mm×12mm）とし、長期・短期に生じる応力に対してガラスブロックによる拘束効果を考慮した許容応力度設計を行うとともに、以下のような点に配慮して設計を行うことで、存在を感じさせない安全な「構造体」を実現した。

■天井面について

8.0m×13.4mの天井面をFB-65×12で支持するため、3mピッチで存在する既存躯体のR階大梁でフラットバーを支持する計画とし、長期たわみが1/400以下になるよう支持材配置を決定した（図3）。支持材の吊元は地震時に生じる水平力に抵抗できるようにするとともに、チャペル内部から見上げた際にガラスブロック越しに吊材の影が映り込まない形状にも配慮した。

■壁面について

壁面については地震時の変形角が建物本体の変形も考慮して1/200以下になるようにした。面外方向に対してはフラットバーにより地震力に抵抗する計画とし、面内方向に対してはフラットバーとガラスブロックによるハイブリッド構造として評価することにより地震力に抵抗する計画とした。面内方向に地震力が作用する際、ガラスブロックユニットには地震時の水平力による外力が作用する

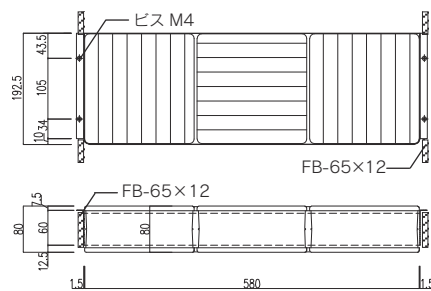


図1 ガラスブロックユニット形状

ため、ガラスブロックユニットの力学特性を把握することを目的として圧縮試験・引張試験・曲げ試験を行い、地震時にガラスブロックに発生する応力が、許容応力度以下となることを確認した。

■フェイルセーフによる更なる安全性の確保

前述の通り、長期・短期それぞれに対して十分な安全性を確保しているが、想定外の事象が発生した場合でもガラスブロックが落下しないよう、天井面はガラスブロックユニットのつば部分がフラットバーの上に乗るように配置し、さらに天井・壁ともビス穴に接着材を塗布してビスの緩み止めとする等のフェイルセーフを施すことで更なる安全性を確保する計画としている。

（ここの まさる）

●爰野将児

1983年生まれ。2008年大阪大学大学院工学研究科修士。2008年株式会社竹中工務店入社。

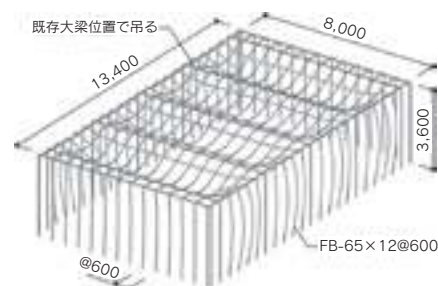


図2 フラットバーの配置（全体解析モデル）

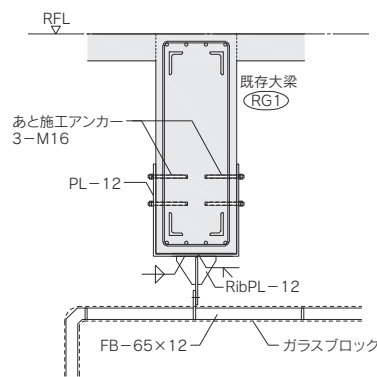


図3 天井材吊元形状

菅 正太郎

—SHOTARO SUGA—



「suga atelier」にて

経歴

1956年	大阪生まれ
1980年	京都工芸繊維大学卒業
1980～01年	竹中工務店設計部
1985年	E.Svensson Assoc. (米)
2000年	上海 (中国)
2001年	SUGA ATELIER開設
現在	大阪市立大学、近畿大学、神戸芸術工科大学、京都府立大学 非常勤講師

主な受賞

2002年	「鉄を使った新しい空間」コンペ最優秀賞
2003年	第9回家づくり賞
2005年	第51回建築コンクール大阪府知事賞
2006年	American Wood Design Awards2006優秀賞
2006年	第26回大阪まちなみ賞
2007年	2006住まいの設計コンテスト最優秀賞
2007年	第27回大阪まちなみ賞奨励賞
2012年	2012住まいの設計コンテスト最優秀賞

聞き手 藤原芳寿 (昭和設計)
写真撮影 河合止揚

ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず

建築家 菅正太郎氏の自邸1階にあるアトリエでお話を伺った。

3層縦長に立ち上がるファサードは全面が木のルーバーで覆われており、一切の無駄がないデザインである。大阪で屈指の住宅街の中にあっては、限りなくストイックに見える氏の住宅は、風景の中で地となり溶け込んでいるように思われた。また、ファサードにはいわゆる玄関扉がなく、1階部分のルーバー全体が大きな開き戸となっている。中に入るとガレージのような土間空間が広がり、さらにその奥にガラスで仕切られた4畳半程度のアトリエへと繋がっている。壁や天井は溶融亜鉛メッキされた波形のスチールが露出されている。その奥にはこの住宅が建つ前にあった長屋の中庭がほぼそのままの形で再生されている。

菅氏は大学卒業後、竹中工務店に施工スタッフとして就職した。そこで現場作業に携わり、素材が持つそれぞれ固有の存在感、それを人間が道具で加工してモノとして鍛えあげることで、人を包む存在に変換されることを体で学んだ。素材のもつアイデンティティを大事にしてそれらを生かして空間を考えていると言う。まさに自邸はそれを体現する場として存在しているようにも感じられた。

竹中工務店には21年間在職されたが、途中自身の希望で設計部に異動し、ほどなく1年間アメリカの設計事務所設計業務に携わったと言う。

アメリカでは、日本のような島国とは異なる大陸的で雄大な自然と、そのまっただ中で住まう人々の姿に感銘を受けた。また、ドライかつアクティブな人間関係と、一方で澁刺とした温かみを肌身で体験した。アメリカでの経験から、自ら主体的に活動することを意識し、環境を変えて設計を行う切掛けになったと回想する。

独立してからの設計対象は、住宅が中心となった。

その他の色々な施設も設計したいが、やはり住宅は深いしおもしろいと言う。

人にとって家は巣でありかつ共同生活の原点である。それを成立させる幾層もの関係を整理しつつ、一つの住宅世界として成立させることの深さと、バーチャル化が進む世界の中で、素材から取り組むという後進性を持つ射程の広さを意識する。

氏の設計には円環、つまりは“物事は循環している”という思想が根幹にある。

人間も含めミクロに世界を見ると、原子や素粒子にまで至る。逆にマクロの方向に視点を向けると、人間の体の周りには意識があり、その外には社会があり、その外には自然があり、その外には宇宙があり、その外枠を混沌とした素粒子が規定する、というように循環している。意識は体を内から見ることはできない、人は他人を見て、そして宇宙を見ることで自らをふりかえっているように思えるとも言う。

循環の一部である数値化された自然との関係にだけ意識を向け、エコな建築を主張することは十分ではない。建築の全ての段階や領域において、より緻密に、よりしなやかに関係性を考えることで、それぞれの流れを連ねる大きな家をつくって行きたい、そういう意識を持って設計に臨んでいると語る。

インタビューの後半、超弦理論に話が及んだ。数学者オイラーの理論では、自然数の総和は無限に発散するのではなく、一つの解である“ $-1/12$ ”に収束するという。常識では理解し難い話であるが、この宇宙の構造を考える理論の中では矛盾がないという。また人とはそうした奇妙な世界が生み出したピュアな存在であるという話を興味深く語る。

建築と数学とではフィールドこそ違うが、菅氏が常に意識し、探求を続ける理想の住宅が存在する可能性を感じたに違いない。

建築の設計は本当に楽しいですよ、と笑顔で語る菅氏はこの難問を解く過程を楽しんでいるようにすら感じられた。

大阪瓦斯ビルディング

平井 直樹
石田潤一郎

再読

関西近代建築
モダンエイジの建築遺産

■大阪瓦斯ビルディングの建設経緯

大阪瓦斯ビルディング（以下、適宜「ガスビル」）は御堂筋建設と関連づけて語られることが多い。たしかに「白哲の巨人」と形容された秀麗な外観は、御堂筋の亭々たるイチョウ並木と見事に映発しあっていて、不可分の存在と思えてしまう。

だが、建設時の状況を広く眺めると、御堂筋とだけ結びついているわけではないことがわかってくる。むしろ1920年代以降、大阪市で展開された都市計画事業とそれによる都市空間の再編全体のなかで捉えたほうが、この建築をよく理解できる。

そもそも大阪瓦斯株式会社はその本社を、堂島川に面した北区中之島三丁目の渡辺橋南詰に置いた。しかし1905年（明治38）に田辺淳吉の設計によって建てられた煉瓦造3階建の社屋は、会社の発展にともなって手狭になってきた。そこへきて、1928年（昭和3）2月、第一次大阪都市計画事業の南北線拡築によって、社屋の東側が軒切りの対象となった。そのため、一旦、堂島浜通一丁目（当時）にあった旧・川北電気株式会社跡を仮社屋にして移転し、新社屋の建設に適した場所を探すことになった。

大阪瓦斯社長の片岡直方は、欧米旅行で各地の大きなガス会社の建物を見学し、新社屋の建設にあたっての方針を示した。それは、ガス会社の公益事業としての側面を重視し、新社屋は市の中心部の大通りに面して建設すること、一区画を占めるワン・ブロック・ワン・ビルディング・システムで建設すること

であった。

当時、大阪瓦斯旧本社々屋の南側に隣接していた大阪朝日新聞社は、朝日ビルディングの建設を計画していた。そこで、大阪瓦斯旧本社々屋の土地を、大阪朝日新聞社に提供するかわりに、同社が平野町五丁目（当時）の土地の入手を取り計らい、現在地に新たな本社々屋としての大阪瓦斯ビルディングが実現することとなった。設計はいうまでもなく安井武雄建築事務所、大林組の施工で、1930年（昭和5）4月10日に工事の準備に着手し、1933年（昭和8）3月26日に竣工している。

戦後には、新館建設の計画が持ち上がり、大和銀行が本店用地として買い集めて所有していた旧館北側の土地を、1964年（昭和39）10月1日に大阪瓦斯ビルディングが取得した。新館の工事は、1964年8月12日に着手し、1966年（昭和41）8月10日に竣工している。これによって、片岡直方が当初構想したような、都市の一街区を占有するビルになった。

■第一次大阪都市計画との関係

本建築の大阪の都市改造との関係は、本社の移転・新築の端緒となったというだけではない。大阪瓦斯ビルディングの敷地そのものも、大阪船場であって、こうした都市計画によって拡築された、御堂筋線と平野町線が交わる交差点の北西角に位置しており、空間的な関係性ももつ。

大阪の中心市街地である船場は、都市改造が行われるまで、均質なグリッド状の道路網によってできていた。東西の軸である「通」

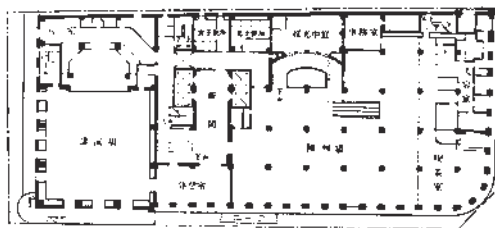


①南東側外観（平成26年1月撮影：平井直樹 以下※印）

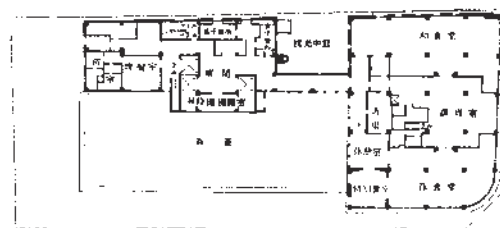
所在地／大阪市中央区平野町4丁目
設計／安井武雄建築事務所、安井建築設計事務所
施工／大林組
竣工／昭和8年3月（旧館）、昭和41年8月（新館）
構造／鉄骨鉄筋コンクリート造
規模／地上8階、地下2階（旧館）、地下3階（新館）
種別／ビルディング



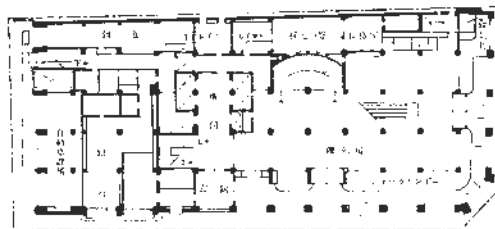
- ②全景
- ③外観
- ④平野町通側の非常階段と
映写室
- ⑤陳列室主階段
- ⑥平面図



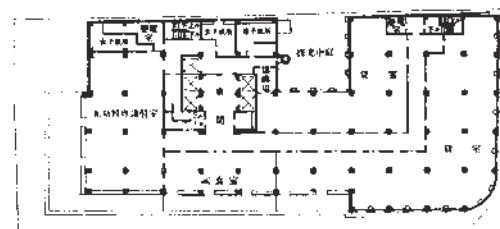
2階平面図



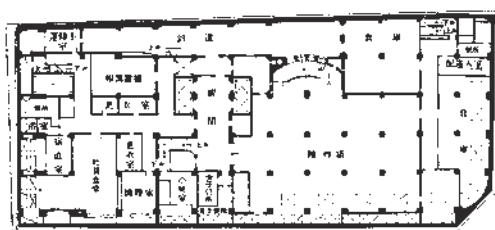
3階平面図



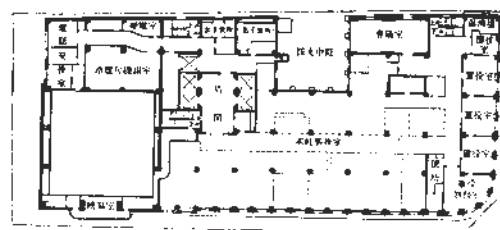
1階平面図



2階平面図



3階平面図



4階平面図

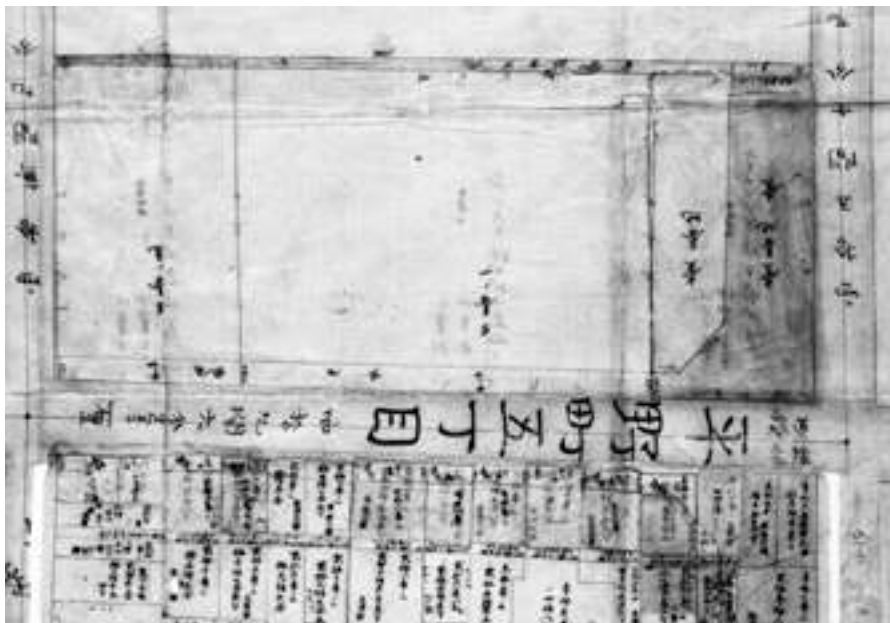
⑥



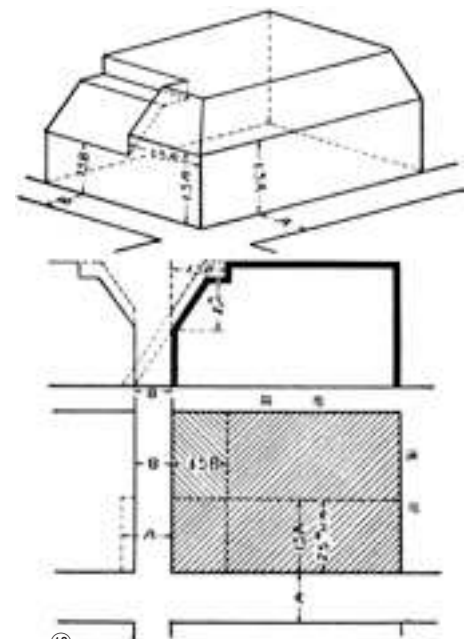
⑦



⑧



⑨



⑩

⑦南西側外観※

⑧南側低層部外観※

⑨旧公図（平野町五丁目）（大阪法務局発行）

ガスピルの敷地と都市計画による道路拡幅や街路剪除の関係が読み取れる。

⑩二方道路に面する敷地の最大利用範囲（『建築行政（高等建築学25）』所収「建築法規」64頁より転載）

市街地建築物法施行令第8条で定められた前面道路による高さの制限の考え方を示した図。

（昭和6年12月24日の改正によって、「八十尺」が「二十五メートル」に置き換えられている）

ガスピルの場合は、同様の考え方で三方道路に面する場合の制限がかかる。

が4間3分、南北の軸である「筋」が3間3分の道幅をもち、東西の「通」が幹線の道となっていた。

船場の都市改造は、1912年（大正元）の市電堺筋線開通にともなう堺筋の拡幅（12間）にはじまる。1919年（大正8）には大阪市区改正設計が決定され、1921年（大正10）に旧都市計画法下において、第一次大阪都市計画事業として進められることとなる。街路の新設および拡築はその中心的な事業であり、船場では、南北方向の御堂筋線や三休橋筋線、東西方向の大川町線、平野町線、久宝寺町線が選定された。こうした幅員の異なる街路の出現によって、近世以来の均質な町割りは大きく変化する。そしてさらには東西軸から南北軸への転換をも引き起こすこととなる。

御堂筋線は、「南北二大交通中心点ト市ノ中心地区トヲ一直線ニ連絡スベキ縦貫大道路カ種々ノ意味ニ於テ本市最高級ノ機能ヲ達成スヘキ所以ハ之ヲ絮説スルコトヲ俟タス」と説明されたように、数ある路線の中で最も上位に位置づけられた。両側拡幅（東側の拡幅が大きい）によって、路幅は24間になり、地下鉄御堂筋線の開通とあいまって、想定どおり「大大阪」の中心街路となった。御堂筋線の淀屋橋南詰一本町四丁目間の道路工事は、仮工事が1929年（昭和4）2月9日から1930年9月21日、本工事が1933年（昭和8）8月17日から1934年11月7日に実施された。

平野町線もまた、船場における東西の幹線道路であった。平野町通は、拡幅前より主要な商業街路として小規模な小売店が並んでいた。本来の幅員は4間3分だが、両側の町家からの突出によって実際の有効幅員は約3間になっており、それを7間にまで拡幅するものであった。敷地周辺では、御堂筋の開通による衰退への危機感があり、平野町通の拡幅やそれにとまなう商店の改良にも積極的であった。拡幅後には、新たに整えられた繁華街となり、夜までにぎわったという。京町堀通一丁目御堂筋線間の工事は、1929年（昭和4）9月27日から12月4日に実施されている。

ここで注目すべきは、都市計画がもたらす敷地の形状である。ガスビルの敷地は二つの都市計画街路、御堂筋線と平野町線が交差するため、街路剪除、いわゆる隅切りが実施されている。各々3間ずつの剪除である。平野町線と三休橋筋線、堺筋、松屋町筋線、それぞれとの交差点も同様の処理であった。

■市街地建築物法による高さ制限

大阪瓦斯ビルディング旧館（現・南館）に加えられた法的規制はそれだけではなかった。市街地建築物法によるふたつの高さ制限が課

せられたと考えられる。

ひとつは施行令第4条において定められた地域による高さの制限で、住居地域外であるため、高さ100尺の制限がかかる。ただし、建築物の屋上突出部については、規則第6条において、制限された高さの1/5までの超過を条件付きで認めている。

もうひとつは前面道路による高さ制限で、敷地が複数の道路に接する場合には制限のかけ方が複雑になる。

施行令第8条では角地における高さ制限について、「建築物ノ敷地カ幅員同シカラサル二以上ノ道路ニ接スル場合ニ於テ一ノ道路ノ境界線迄ノ水平距離カ其ノ道路幅員ノ一倍二分一以内ニシテ且八十尺以内ノ区域ノ内ニ在ル建築物各部分ノ高ニ付テハ前條ノ規定ノ適用ニ關シ其ノ道路ヲ前面道路ト看做ス」と示されており、図⑩のような制限がかかる。ガスビルの敷地には、先に示したふたつの都市計画街路と在来の道路とにより、三方の道路に面する場合の制限となる。（なお今につづく船場建築線指定の告示は1939（昭和14）年4月であり、この頃はまだなかった。）

これらの制限を考え合わせると、この敷地の場合、御堂筋の幅員は24間あるため、隅角部分は路幅による制限を受けず、高さ100尺、塔屋120尺が最高限となる。平野町通側は御堂筋から80尺を超える部分に対して、道路境界部分で10.5間の高さ制限がかかる。また、御霊筋側にも10.5間の高さ制限がまわりこみ、さらに平野町通から10.5間を超える部分に対しては、道路境界部分で4.95間の高さ制限がかかる。その結果、御堂筋から平野町通、平野町通から御霊筋へと段々に最高限が下がっていく敷地の最大利用範囲が定められる。それがガスビル全体のヴォリューム構成を決めるうえでの与条件となっているのである。

■「超合法」の自由

ガスビルは通りすがりの瞥見でも心を捉える美しさを備える。その美しさは、白と黒の対比、重ねられた軒による流線のイメージといった明快さの美である。

その一方で、デザインの真髓をさぐろうとして凝視する眼差しにも容易に把握できない微妙な造形もちりばめられている。たとえば交差点の丸み。真円ではなく、曲率が変化していく。また平野町通から見上げると、映写室が宙に突出していたり、外階段が出っ張ったりしている。

それらの細部は、「白哲の巨人」という静的イメージに納まり返ろうとしないダイナミズムをこの建築に付与していて、今も変わらぬみずみずしさの源泉ともなっている。その効

果は認めるとして、こうした細部に気付けば気付くほど、おちつかなさ、不可解さを感じずにはおれない。完璧な整齊さの傍らで、なぜそのような一種のノイズが発生しているかが飲み込めないからである。

ただ、今回示したような都市計画法および市街地建築物法上の規制をこうむっていたことを知ると、造形の不可解さの一端は解消されるように思う。たとえば映写室のあふれ出しは、西側で6階を確保するための壁面後退から生じたものと見るができるのである。それにしてもノイズの処理のなんと巧いことか！

2006年、吉村靖孝氏は現代東京の建築を縛るさまざまな法規制の中で最大の利得をえようとして生まれてくる奇妙な建築造形を集めて『超合法建築図鑑』を編んだ。ガスビルもまた「超合法建築」として——それも法規制を逆手にとって倍返しを食らわせた強力な先達として理解することができるのではないだろうか。

安井武雄はガスビルの様式を「使用目的及び構造に基づける自由様式」と名付けた。「使用目的」の中には、必ずや法規制への対処も含まれていたはずである。

参考文献

- ・『大大阪』9巻3号・12号（大阪都市協会、1933年）
- ・菱田厚介・本田次郎・笠原敏郎・中村寛『建築行政（高等建築学25）』（常磐書房、1933年）
- ・『第一次大阪都市計画事業誌』（大阪市役所、1944年）
- ・『片岡直方君伝』（片岡直方君伝記編集会、1950年）
- ・『大阪瓦斯五十年史』（大阪瓦斯社史編集室、1955年）
- ・『50年史』（朝日ビルディング、1979年）
- ・『ガスビル50年の記録』（大阪ガスビルディング、1983年）
- ・山口廣『自由様式への道—建築家安井武雄伝』（南洋堂出版、1984年）
- ・『まちに住まう—大阪都市住宅史』（平凡社、1989年）
- ・『ガスビル食堂物語』（大阪ガス総務部、2004年）
- ・吉村靖孝『超合法建築図鑑』（彰国社、2006年）
- ・土地台帳および公図（平野町五丁目）（大阪法務局所蔵）
- ・『平野町線図面』（00184800）（大阪市公文書館所蔵）

（ひらい なおき／京都工芸繊維大学研究員）
（いしだ じゅんいちろう／京都工芸繊維大学教授）

▶第9回「関西建築家新人賞」募集

(公社)日本建築家協会(JIA)近畿支部では、設計活動に携わる意欲に満ち溢れた建築家の育成と発掘のために「関西建築家新人賞」を設置している。本賞は、JIA近畿支部に所属している45歳以下の建築家から応募を受け付け、地域特性に対する配慮や作品の芸術性などの観点から総合的に判断し、将来性があると期待される建築家に対して授与する。

応募期間 3月31日(月)まで

応募資格 ①JIA近畿支部所属の正会員
②年齢45歳以下

応募作品 1点：近畿支部地域内に完成した建物で2008年1月1日～2013年12月31日迄の作品とする。

応募書類 応募申込書、図面、写真、建築概要書、設計趣旨、検査済証の写し

登録費 10,000円

応募方法 応募希望の方は事前に応募申込書を送付し、提出図書類をご提出。応募申込書・提出図書類(一部)は<http://www.jia.or.jp/kinki>よりダウンロード。

審査建築家 大谷弘明氏(審査員長)、岸下真理氏(審査員)、長濱伸貴氏(審査員)

表彰 受賞者にはJIA近畿支部から賞状、賞牌(造形作家・デザイナー：西村建三氏作)が贈られる。

主催・共催 (公社)日本建築家協会近畿支部建築賞分科会

提出先・問い合わせ先

(公社)日本建築家協会近畿支部建築賞分科会
〒541-0051 大阪市中央区備後町2-5-8 綿業会館4F
TEL.06-6229-3371
E-Mail: jia@bc.wakwak.com

①あべのハルカス美術館 開館記念特別展 東大寺

あべのハルカス美術館の開館記念特別展覧会として、東大寺の宝物展を開催する。

東大寺は聖武天皇が創建して以来、1250年以上にわたって、わが国の文化、信仰、美術史上において重要性を占めてきた。本展では、創建当初の信仰を伝える宝物、学問の寺としての伝統を伝える経巻や古文書、数度の罹災を経ながらも、そのたびに広範な勧進により再興されてきた状況を物語る宝物などを精選して展示することにより、いつの時代も朝廷・幕府・民衆まであらゆる階層の人々とともにあった東大寺の姿を紹介する。

期間 3月22日(土)～5月18日(日)

火～金/10:00～20:00

土日祝/10:00～18:00

(入館は閉館30分前まで)

休館日 月曜日(3/24、4/28、5/5は開館/10:00～18:00)

会場 あべのハルカス美術館
大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43
あべのハルカス16F

TEL.06-4399-9050

観覧料 一般1,300円、大高生900円、
中小生500円

■関連事業

●記念講演会「大仏開眼四度 聖武天皇から公慶上人へ」

開催日 3月29日(土)

時間 13:30～15:00(13:00受付開始)

講師 西山厚氏(奈良国立博物館 学芸部長)

会場 あべのハルカス 会議室

定員 200名(先着順)

聴講料 無料(本展入場券が必要。半券可)

●《東大寺展》《山の神仏展》開催記念

合同シンポジウム「神も仏も日本のこころ」

開催日 4月19日(土)

時間 13:30～15:30(13:00受付開始)

基調講演・コーディネーター

山折哲雄氏(宗教学者)

パネリスト

筒井寛昭氏(華嚴宗管長、東大寺別当)

松長有慶氏(金剛峯寺座主、高野山真言宗管長、紀伊山地三霊場会議総裁)

会場 あべのハルカス 会議室

定員 300名

聴講料 無料(事前申込。応募者多数の場合抽選)

申込方法 往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記の上、下

記まで申し込み。

*1枚のはがきで2名まで申込可。

2名の場合はそれぞれの氏名を明記。

申込先 〒545-6016 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43

あべのハルカス美術館「東大寺展・山の神仏展シンポジウム」係

締切 3月28日(金) 当日消印有効

備考 《山の神仏展》は大阪市立美術館で2014年4月8日(火)～6月1日(日)に開催。



国宝 誕生釈迦仏立像・灌仏盤 東大寺蔵
画像提供 奈良国立博物館(撮影 佐々木香輔)

②飛翔する表現 —新収蔵品を中心に—

本展では、2012(平成24)年度に新たにコレクションに加わった山下摩起、下村良之介、塚脇淳の作品を中心に展示する。塗り重ねの困難な日本画に筆を入れ続けた山下摩起、日本画の枠を越え自由な表現を追い求めた下村良之介、重厚感のある鉄を素材にしなやかな彫刻を制作する塚脇淳と三者三様だが、いずれの作家も従来の技法や素材の可能性に挑み、独自の表現を見出して、はばたいていく。徹底して作品と向き合うことで達成された、各作家の飛翔する表現を、関連作品や資料とあわせて約20点紹介する。

期間 3月30日(日)まで

10:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 水曜日

会場 西宮市大谷記念美術館

西宮市中浜町4-38

TEL.0798-33-0164

観覧料 一般200円、小中生・大高生100円



下村良之介《月明を翔く 庇》1988年

③クレラー＝ミュラー美術館所蔵作品を中心に 印象派を超えて一点描の画家たち ゴッホ、スーラからモンドリアンまで

分割主義 (Divisionism) をテーマとする展覧会。19世紀末から20世紀前半のヨーロッパ絵画において、色彩は外界の事物を再現するという役割から徐々に解放され、自立した表現として用いられるようになる。色彩の独立は、印象派の筆触分割にその萌芽を見出すことができる。新印象派として知られるスーラは、科学的な知識をもとに独自の点描技法を開拓し、色と光の問題に取り組んだ。その方法論は、シニャックを通じて、フランス国内の画家たちに多大な影響を与えた。オランダからパリに出たファン・ゴッホも、点描の技法に触発され、色彩の力を駆使して独自の表現を得ることに成功する。風景画から抽象絵画に至ったモンドリアンの色面分割も、分割主義の概念のもとで見直す。本展は、ゴッホの優れたコレクションで知られるオランダのクレラー＝ミュラー美術館の特別協力のもと、印象派や新印象派、そしてそれに続く世代の画家たちが、技法を研究する中で、色彩の新たな力に目覚めていったことを検証するもの。国内からの出品を含む92点の作品を通じて、絵画の神髄とも言える色彩の力を、新たな目で捉え直す。

期 間 4月6日(日)まで
10:00～18:00
金曜日は20:00まで
(入場は閉館の30分前まで)

休館日 3/3、3/17
会 場 愛知県美術館
名古屋市東区東桜1-13-2
愛知芸術文化センター10階
TEL.052-971-5511

観覧料 一般1,400円、高大生1,000円、
中学生以下無料



フィンセント・ファン・ゴッホ《種まく人》1888年
油彩／カンヴァス クレラー＝ミュラー美術館
©Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands

④春季特別展 江戸の異国万華鏡 —更紗・びいどろ・阿蘭陀

鎖国下の江戸時代、わが国には想像以上に豊富な品々が海を越えてもたらされていた。遠国からの新奇で美しい工芸品は、当時の日本人の心を強く掴んだ。本展では、江戸時代の様々な舶来品のうち、主にオランダ東インド会社によって輸入された工芸品—多くの人々を魅了したインド更紗、びいどろと呼ばれたヨーロッパ製ガラス器、阿蘭陀と呼ばれたヨーロッパ陶器を取り上げ、それらが当時わが国でどのように愛でられ、使われたかに焦点を当てて展覧する。江戸時代に舶来し伝世した数々の裂やうつわそのものと共に、更紗で仕立てた衣服や小物類、ヨーロッパ製ガラスの模倣から始まった和製びいどろ、乾山を始めとする阿蘭陀写陶器など、様々な受容の形を概観する。数百年の時を経て現代まで伝えられた裂やうつわから、外来の文物を選りすぐり、さらに見事に昇華させて自らの文化に取り入れる、当時の日本人の卓越した美意識に迫る。



更紗杜若文様縫合小袖
文化学園服飾博物館蔵
(展示: 4/29～6/8)

期 間 3月15日(土)～6月8日(日)
10:00～17:00
(入館は16:00まで)

休館日 月曜日
(5/5、5/6 開館、5/7休館)
会 場 MIHO MUSEUM (北館)
滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷300
TEL.0748-82-3411

観覧料 一般1,100円、高大生800円、
小中生300円

⑤光の賛歌 印象派展 パリ、セーヌ、ノルマンディの 水辺をたどる旅

印象派の画家たちが活躍した19世紀後半は、水辺が生活に潤いをもたらす余暇を過ごす場所としてクローズアップされた時代でもあった。都市部の近代化にともない、市民のあいだに休日のレジャーが普及すると、アルジャントゥイユやブージュヴァルといったパリ近郊のセーヌ川沿いの町や村が、身近な行楽地として人々を惹き付けた。さらに鉄道網の発達も相まって、余暇を楽しむ人々の足は、美しい海水浴場や切り立った断崖、賑わいを見せる港など数多くの魅力的な場所に恵まれたノルマンディ海岸にも向けられた。都会の喧騒を離れた豊かな自然とともに、レジャー客でにぎわう行楽地の様子は、同時代の市民生活を描き出した印象派の画家たちの創作意欲を掻き立てる格好のテーマとなった。本展では、セーヌやノルマンディの「水辺」を舞台に描かれた73点の作品で、彼らが追い求めた「光の中の風景」に迫る。

期 間 3月11日(火)～5月11日(日)
10:00～18:00
金曜日は19:30まで
(入場はそれぞれ30分前まで)

休館日 月曜日
(4/28、5/5、5/6開館、5/7休館)

会 場 京都文化博物館
京都市中京区三条高倉
TEL.075-222-0888

観覧料 一般1,200円、高大生800円、
中小生400円



アルフレッド・シスレー《モレの橋》
1893年 油彩／カンヴァス オルセー美術館
©RMN-Grand Palais (musée d'Orsay) / Hervé Lewandowski / distributed by AMF

本欄掲載の①～⑤の美術館等の招待券ご希望の方は、電話等で申し込み後、招待券送付用の切手(80円)を日本建築協会事務局までお送りください。

理事会

第6回常任理事会

1月22日(水) 16:00~17:20
日本建築協会会議室
出席者 香西会長ほか4名
議 事 (1) 消費税率引き上げへの対応
(2) パンフレットの改訂
(3) ホームページのリニューアル
(4) 協会創立100周年記念誌の発行

編集委員会

第10回編集・広告企画合同委員会

1月15日(水) 17:00~18:10
日本建築協会会議室
出席者 米井委員長ほか8名
議 事 (1) 2月号特集「融合する空間
~新たな試み~」3月号
特集「東海特集」、小特集
「ABENO REBORN」4月
号特集「私の空間作法」5月
号特集「オフィスビル設備の
変遷とこれから」6月号特集
「オフィスのこれから」7月
号特集「第61回青年技術者」
報告と検討
(2) 広告依頼先検討

第2回広告企画小委員会特別委員会

1月15日(水) 15:00~16:00
(株)東畑建築事務所会議室
出席者 米井編集委員長ほか19名
議 事 (1) 2014年6月号特集企画検討

第5回建築計画系分科会

1月15日(水) 19:00~21:15
フェスティバル&ピアホール
出席者 渡部幹事ほか5名
議 事 (1) 8月号特集の企画

第9回設備分科会

1月15日(水) 18:00~20:30
日本建築協会会議室
出席者 橋本幹事ほか4名
議 事 (1) 設備の頁の企画
(2) 特集執筆者の検討

第7回施工材料分科会

1月21日(火) 17:00~18:00
日本建築協会会議室
出席者 中野幹事ほか1名
議 事 (1) 10月号特集の企画
(2) 編集委員の後任

第10回法令分科会

1月15日(水) 15:00~17:00
日本建築協会会議室
出席者 吉岡幹事ほか4名
議 事 (1) 法令コーナーの企画

第9回作品作風小委員会

1月23日(木) 19:00~20:30
日本建築協会会議室
出席者 稲垣幹事ほか4名
議 事 (1) 作品の掲載状況の報告
(2) galleryの掲載報告と予定
(3) 「私の空間作法」応募状況報告とレイアウト作成

事業委員会

第6回情報見学小委員会

1月9日(木) 18:00~19:15
日本建築協会会議室
出席者 豊田小委員長ほか7名
議 事 (1) 2、3月実施見学会について
(2) 来年度事業の検討

第9回U-35委員会

1月17日(金) 19:00~21:30
東畑建築事務所会議室
出席者 駒井幹事ほか5名
議 事 (1) 見学会の結果報告
(2) 「建築と社会」活動報告記事
掲載内容の検討
(3) フェイスブックの活用について

出版委員会

第8回出版委員会

1月15日(水) 18:00~19:30
住まいの研究室
出席者 西委員長ほか7名
議 事 (1) <プロのノウハウ>と特装
本の経過報告
(2) 進行中のテーマの検討
(3) 出版記念講演会について

教育委員会

第3回工高生教育小委員会

1月21日(火) 18:00~19:00
日本建築協会会議室
出席者 谷口幸雄副委員長ほか2名
議 事 (1) 第60回工高生デザインコン
クール募集規定の検討

100周年関連事業委員会

第54回群像(インタビュー)

1月6日(月) 15:00~17:40
農家のアトリエ
出席者 吉永規夫ほか2名
インタビュー 高砂建築事務所
高砂正弘氏

第55回群像(インタビュー)

1月31日(金) 14:00~16:00
suga atelier
出席者 藤原芳寿ほか4名
インタビュー suga atelier
菅 正太郎氏

第56回群像(インタビュー)

1月24日(金) 16:30~18:00
ステラ御幸町ほか
出席者 中村圭祐ほか3名
インタビュー 森下建築総研
森下 修氏

第9回10年委員会

1月16日(木) 18:30~20:00
日本建築協会会議室
設楽委員長ほか3名
議 事 (1) 大阪ええとこ創生プロジェ
クト「コンペ案検討」

編集委員会(平成25年度)

■副会長

設楽 貞樹
本多 友常
■編集担当理事
西 博康
押味 至一
佐藤 榮一
竹中 統一
立成 良三
松本 眞一
吉村 英祐
◎米井 寛

■副委員長

勝山 太郎
■特集小委員会
■計画分科会
★計画系
飯田 匡
鈴木 克彦
高橋 和也
田中 直人
不動 剛志
紅谷 昇平
松田奈緒子
三宅 次郎
△守井 辰
吉村 英祐
★建築計画系
荒木 宏之
大西 広朗
神戸 嘉也
静 茂夫
下坂 浩和
野田 隆史
橋本 祐典
三谷 帯介
矢野 展寛
米山 剛史
△渡部 剛
★インテリア・住宅
川合 隆之
黒柳 亮
酒井 雅男
谷垣 浩一
塚口眞佐子
ベリー史子
△間瀬 一博
森岡 拓也
■構造分科会
秋田 智
石田 大三
岸本 光平
小芝 淳一
志摩 好宣
瀧野 敦夫
△角田 耕一
橋本 宗明
松村 健
向井 洋一

■設備分科会

赤澤 正治
岩城 憲治
梶井 宏修
北野 勝也
樺田 輝生
夏井 重行
野崎 正二
△橋本 直樹
福谷 周
榊井 貴廣
宮崎ひろ志
村上幸三郎

■施工材料分科会

荻原 友貴
桜井 和男
高橋 秀一
△中野 敬史
藤丸 啓一
渡邊 聡

■法令分科会

岩見 吉剛
河野 学
小松 輝樹
△吉岡 忠
平山 英
井上 久明
田中 幸夫

■作品作風小委員会

居内 章夫
池上 明
▲稲垣 和江
井上 雅祐
加嶋 章博
菊池 浩輔
倉橋 尉仁
倉瀬奈千子
澤田 純一
榎野 淳司
豊田 充広
鳥居 久人
西田 佳代
芳谷 晴彦
増田 敬彦

■広告企画小委員会

大谷 金由
小川 雄介
小山 昭
権代 晃
藤田 昌宏
▲前田 衛
山辻 直樹

◎委員長 ○副委員長

▲小委員会委員長 △幹事

(順不同)

印刷 2014年2月27日
発行 2014年3月1日
発行人 一般社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電話 06-6946-6981
印刷所 藤中島弘文堂印刷所
定価 1200円(税込)

©「建築と社会」誌の記事の無断転載を禁じます。

『電・設』の道をもって現代と未来を創造する

総合設備工事 設計／施工（電気・機械設備・通信情報・太陽光発電・工口設備）

松田電気工業株式会社

本 社 〒 635-0064 奈良県大和高田市栄町4番33号

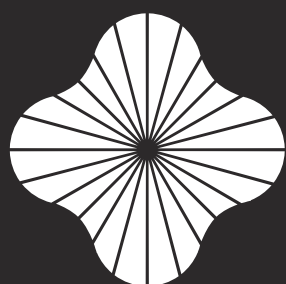
TEL 0745-52-1115

FAX 0745-23-7720

事 業 所 大阪支店 奈良支店 京都営業所 四日市営業所

URL <http://www.matuda-dnk.co.jp>

JQA-QMA11890
JQA-EM7002
本 社 ・ 本 店
大 阪 支 店 ・ 奈 良 支 店



yamagiwa

テントハウス・膜構造建築物の設計施工



山口産業株式会社

●本 社

〒846-0031 佐賀県多久市多久町 3555-120
TEL.0952-74-2525(代表) FAX.0952-74-2527
<http://www.yamaguchi-kk.co.jp/>
mail: info@yamaguchi-kk.co.jp

山口産業 テント

検索

- 北九州営業所
- 福岡営業所
- 仙台営業所

〒807-0072 福岡県北九州市八幡西区上上津役 1-24-39
〒811-2112 福岡県糟屋郡須恵町植木 946-1
〒981-0911 宮城県仙台市青葉区台原 1 丁目 10 番 4-101

TEL.093-614-2200 FAX.093-614-2201
TEL.092-957-7580 FAX.092-957-7581
TEL.022-346-7531 FAX.022-346-7541

電気工事・空調工事・水道衛生工事・消防施設工事
および機械器具設置工事の設計、監理、施工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号 電話 (06) 6441-8231
東京本社 〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号 電話 (03) 3261-8231
支店 札幌・仙台・新潟・さいたま・横浜・豊田・金沢・京都・神戸・天理・岡山・
広島・高松・熊本
営業所 帯広・函館・青森・秋田・盛岡・福島・山形・前橋・宇都宮・土浦・千葉・
長野・松本・静岡・刈谷・津・岐阜・富山・福井・和歌山・東近江・山口・
松江・松山・高知・徳島・宮若・鳥栖・長崎・大分・宮崎・鹿児島・那覇
海外支店 シンガポール・ホンコン・マニラ (フィリピン)・ベタリンジャヤ (マレーシア)
技術研究所 〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地 電話 (0492) 58-1511

お客様の抱える問題やニーズに
より速やかに、より丁寧にに対応できるように

企画・デザイン、制作、製版、印刷

株式会社 **中島弘文堂印刷所**

本社 〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL.06-6976-8761 / FAX.06-6976-8765
東京事務所 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1丁目9番地ニュー御茶ノ水ビル601号
TEL.03-3526-5580 / FAX.03-3526-5582

<http://www.n-kobundo.co.jp/>

地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理

株式会社 **日本電気化学工業所**

<http://nacl.jp> E-mail: nacl@nacl.co.jp

本部営業部 〒560-0036 大阪府豊中市箕面西町2丁目7番26号 NACLビル2階

TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632

東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目6-7

TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

コンクリートのひび割れ対策に

NETIS 登録済み
KT-040018-V

DENKA
DENKI KAGAKU KOGYO KABUSHIKI KAISHA

高性能膨張材

デンカパワーCSA

JIS A 6202
適合品

特 性

- ・乾燥収縮の低減
- ・自己収縮の低減
- ・水密性の向上(防水性)
- ・温度ひび割れの低減

主な用途例

- ・合成デッキスラブ
- ・土間スラブ
- ・RC 構造物
- ・自己充填コンクリート
- ・マスコンクリート 他

膨張材以外にも

- ・無収縮グラウト材 (タスコン)
 - ・躯体防水材 (シャガード)
 - ・ポリマーセメントモルタル (RIS シリーズ)
- など、各種混和材(剤)を
ラインナップしています。

●資料のご請求お問い合わせは・・・

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社 本社
〒629-3101 京都府京丹後市網野町網野 126
TEL 0772-72-2220 FAX 0772-72-2888
舞鶴営業所・福知山営業所・豊岡営業所

金森藤平商事株式会社 大阪営業所
〒561-0817 大阪府豊中市浜 1 丁目 1 番 7 号
TEL 06-6332-6861 FAX 06-6332-6884

小浦産業株式会社
〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町 1 丁目 14 番 6 号
TEL 06-6443-6181 FAX 06-6443-6270

設計・監理・
施工者のための

建築品質 トラブル予防のツボ

日本建築協会 企画 仲本尚志・馬渡勝昭 著

A5判・248頁・2800円+税

若手～中堅の 技術者必携！

確かな品質の建築を協力してつくるための
基本作法とトラブル予防のポイントを解説



敷地



屋上・防水



バルコニー



屋根



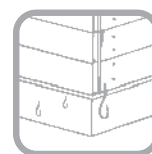
地下躯体



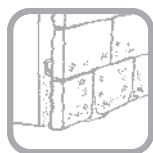
RC造



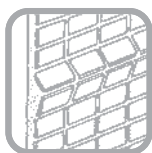
鉄骨造



パネル外壁



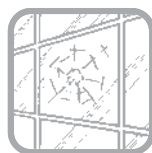
外壁石



外壁タイル



外部建具



ガラス



外壁その他



内部仕上げ



外構



設備

学芸出版社

〒600-8216
京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

Tel 075-343-0811
Fax 075-343-0810

http://www.gakugei-pub.jp/
E-mail info@gakugei-pub.jp

写真マンガでわかる

住宅メンテナンス のツボ

日本建築協会(企画)
玉水新吾・都甲栄充(著) マンガ: 阪野真樹子

チェックポイントと対
処法、ユーザーへのア
ドバイスの仕方まで楽
しく解説



建築協会企画の新刊

A5判・256頁
本体2800円+税

ストック時代の【住宅診断・メンテナンス】担当者必携の1冊

学芸出版社

〒600-8216
京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

Tel 075-343-0811
Fax 075-343-0810

http://www.gakugei-pub.jp/
E-mail info@gakugei-pub.jp